

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ(十一年第二十七號布告ヲ以テ有害ヲ有害ト改)

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 第四條ノ免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ外國賣藥ヲ輸入販賣シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ街惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(三十三年法律第十四號ヲ以テ條中追加)

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(十四年第二十六號布告ヲ以テ營業スル者スヘシ(十四年第二十六號布告ヲ以テ營業スル者)ハ下ヘ又ハ營業者以下三十八字ヲ加フ)

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贋造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者又ハ有毒藥ヲ配伍シタル外國賣藥ヲ私ニ輸入販賣スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(三十三年法律第十四號)

ナ以テ條中追加)

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

●賣藥自用者無印紙ノ賣藥ヲ買受又ハ所持スルヲ禁ス明治十九年十月大藏省令第三十一號
 賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受ケ預置キ又ハ所持スルヲ得ス者ハ金壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●礬石ノ類ヲ調合セシ鼠取或ハ蠅取藥賣買禁止明治五年五月第四百四十二號達
 鼠取或ハ蠅取藥ト唱ヘ礬石ノ類ヲ調合致シ世間ニ賣買致來候處自今令禁止候事

●藥品營業並藥品取扱規則明治二十二年三月法律第十號
 沿革略記 明治七年九月文部省ヨリ毒藥取扱方法ヲ東京京都大阪ノ三府ニ達ス○同年十二月藥品ノ賣買取締方法ヲ三府ニ達ス●十年二月第二十號布告ヲ以テ毒藥劇藥取扱規則ヲ制定ス●十三年一月第一號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ藥品取扱規則ヲ制定ス●二十二年三月法律第十號ヲ以テ藥品營業並藥品取扱規則ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

朕藥品營業並藥品取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ
藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第十二類 賣藥自用者無印紙ノ賣藥ヲ買受又ハ所持スルヲ禁ス 礬石ノ類ヲ調合セシ鼠取或ハ蠅取藥賣買禁止 藥品營業並藥品取扱規則 一九一三

- 第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ内務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル
- 第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ニ願出ヘシ
- 第四條 (二十九年法律第二十七號ヲ以テ消滅)
- 第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ藥劑師名簿ニ登録シ之ヲ公告スヘシ
- 第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ内務省ニ願出ヘシ
- 第七條 (二十九年法律第二十七號ヲ以テ消滅)
- 第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ
- 第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス
- 第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ
- 第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ
- 第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ
- 第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ
- 第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齡、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ

- 調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス
 - 藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ
 - 第十五條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス
 - 第十六條 處方箋中ノ藥品ニ闕乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス
 - 第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ
 - 第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス
 - 第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ
- 第二章 藥種商
- 第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ
 - 第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ
 - 第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル處ノ藥品ハ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカ

ラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅旬語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條 内務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其證票ヲ携帯スヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第

二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第四十條 第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第四十二條 內務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ら診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得
第四十四條 此規則施行以前ニ於テ內務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條 「阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル」

第四十六條 醫科大學藥學科及高等「中」學校醫學部藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ(二十五年法律第六號ヲ以テ「醫科大學藥學科」ノ下ニ及高等中學校云々ノ十二字ヲ加フ)
外國ノ大學藥學部若ハ藥學校ニ於テ卒業シタル者又ハ外國ニ於テ藥劑師免許ヲ得タル者ニシテ年

三十年法律
第二十七號
以テ十一號
年二十一號
布告ヲ廢止
ス

齡滿二十年以上ノ者ハ其ノ卒業證書若ハ開業證書ヲ以テ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ其ノ證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ(三十二年法律第六號ヲ以テ追加)

第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス
第四十八條 明治十三年第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

●毒藥劇藥ノ品目 明治二十五年三月 內務省令第二號

明治二十二年三月三十一號法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ據リ明治二十二年三月內務省令第五號ヲ以テ定メタル毒藥劇藥ノ品目左ノ通改正シ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

毒藥

亞砒酸(白砒石、礬石、ア)

硫酸亞錳(ルセニツク)

昇汞(過格魯兒汞)

黃色酸化汞(黃降)

亞砒酸加留誤液(法列)

硫酸莫兒比涅

磷

鹽酸必魯加兒比涅

物拉篤利涅

以上日本藥局方第二表ニ掲載セルモノ

鹽酸亞刺拔兒比涅

加刺拔兒比涅

赤色沃度汞(過沃)

赤色酸化汞(赤降)

鹽酸莫兒比涅

巴豆油

撒里矢爾酸比蘇斯知儲密涅(撒里矢爾酸)

硝酸斯篤幾尼涅

砒素、亞砒酸鹽類、砒酸及其鹽類
 アロニチネ及其鹽類
 硫化砒素(雄黃、雞冠石、雌黃、石黃)
 アルシネ及其鹽類
 コニチネ及其鹽類
 質斐答林
 硝酸亞酸化汞
 非沃斯矢涅及其鹽類
 藏化加留謨(青酸加里)
 莫兒比涅鹽類
 比蘇斯知儲密涅(越攝利涅)鹽類
 斯篤利幾尼涅鹽類
 劇藥
 石炭酸
 格羅謨酸
 粗製鹽酸
 發烟硝酸
 粗製硫酸
 安知歇貌林(亞設篤亞尼里度)
 杏仁水、苦扁桃水、老利兒結兒斯水、パグチ水
 結晶硝酸銀
 熔製硝酸銀
 貌羅謨樟腦
 蓀酸攝留謨
 青酸、稀青酸
 沃度砒素
 亞篤羅必涅鹽類
 羯答利陳及羯答利陳酸鹽類
 クラール(毒、ウ)
 ホムアトロピネ及其鹽類
 撒里矢爾酸汞
 非沃斯矢亞密涅及其鹽類
 沃度砒汞液(度納般液)
 ニコチネ
 必魯加兒必涅鹽類
 ニトログリセリン(二十九年內務省令第一號ヲ以テ追加)
 粗製石炭酸
 鹽酸
 硝酸
 硫酸
 亞硝酸亞密爾
 安知必林
 硝酸銀加硝石
 貌羅謨(臭素)
 羯答利斯(豆班)壳膏
 抱水格魯拉爾

嘔噁仿謨
 古堙乙涅
 發泡古魯胃謨
 銅礬(神效石)
 古魯聖篤越幾斯
 阿片越幾斯
 麥角越幾斯
 質斐答里斯葉
 印度大麻草
 蓀若草、別刺敦那草
 黃色沃度汞(亞沃度汞)
 沃度仿謨
 苛性加里(腐蝕劑篤亞斯)
 沃度加留謨
 刺苦丟葛留謨
 儲答百兒加液
 苛性那篤倫(腐蝕劑曹達)
 阿片
 醋酸鉛(鉛糖)
 吐根
 蓀若根、別刺敦那根
 剝度比爾謨脂(剝度比爾林)
 麥角
 加刺拔兒豆
 鹽酸古加乙涅
 咖啡涅
 硫酸銅(膽礬)
 印度大麻越幾斯
 非沃斯越幾斯
 蓀若越幾斯、別刺敦那越幾斯
 番木蠶越幾斯
 古魯聖篤實
 菲沃斯草
 甘汞、(亞格魯兒)輕粉
 自降汞
 沃度
 格魯兒酸加留謨(鹽素酸加留謨)
 結麗阿曹篤
 蓀若擦劑、別刺敦那擦劑
 鉛醋(次醋酸鉛液)
 揮發芥子油
 古魯聖篤菲沃斯丸
 挖物兒散(阿片吐根散)
 藜刺巴根
 藜刺巴脂
 珊篤寧
 古爾矢屈謨子
 番木蠶子

吐酒石
知母爾
古爾矢風謨丁幾
實斐答里斯丁幾
吐根丁幾
阿片丁幾
瓦若丁幾、別刺敦那丁幾
古爾矢風謨酒
芳香阿片酒(舍電華謨)
格魯兒亞鉛
以上日本藥局方第三表ニ掲載セルモノ
硝鹽酸(王水)
粗製硝酸
ヒクリン酸及其鹽類
強安母尼亞水
格魯兒拔留謨、硝酸拔留謨其他拔留謨鹽類
攝留謨鹽類
咖啡涅鹽類
硫酸銅安母組謨(銅礮) 醋酸銅、次醋酸銅(綠青、山綠、銅) 靑、荒綠靑(紺靑) 硝酸銅
サピナ葉及其製劑
極實(日本産)
藤黃(辦天)
汞灰散(銀灰)
沃度爾

金硫黃(五硫化安)
翔答利斯丁幾、光善丁幾
古魯聖篤丁幾
沃度丁幾
魯別里亞丁幾
阿片安息香丁幾(腦丁幾)
番木鱘丁幾
吐根酒
吐酒石酒
硫酸亞鉛(醋礮)
格羅謨酸鹽類
蓆酸
發烟硫酸
コロ、グイン

アコニット根(雙鸞菊、烏頭)及其製劑
巴豆
ストロファンツス子及其製劑
酸化安知母組謨
アカリチン及其鹽類
フォルムアルデヒド液
フエナセチン
スルフオナール
トリオナール
コッホ氏新ツベルクリン(三十年内務省令第三十一號ヲ以テ追加)
破傷風血清(上同)
鹽酸ヘロイン(上同)

サピナ油
梨蘆根及其製劑
サバアルラ子
フエロース次亞燐酸鹽舍利別
醋酸亞鉛、炭酸亞鉛、纈草酸亞鉛
靛羅謨水素酸(二十九年内務省令第一號ヲ以テ以下十日追加)
古埤乙涅鹽類
バラアルデヒド
商陸越幾斯及其他ノ製劑
答爾林鹽類
ツベルクリン(三十年内務省令第三十一號ヲ以テ追加) 三十二年同第四號ヲ以テ改正
ナフテリア血清(三十六年内務省令第四號ヲ以テ追加)
ナウレンチン(上同)

●阿片法 明治三十年三月 法律第二十七號

沿革略記 明治三年八月布告ヲ以テ生阿片取扱規則ヲ制定ス●十一年八月第二十一號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ藥用阿片賣
買並製造規則ヲ制定ス●三十年三月法律第二十七號ヲ以テ阿片法ヲ制定シ前則ヲ廢止ス
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル阿片法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

阿片法

第一條 阿片ヲ製造セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
第二條 阿片製造人ハ毎年十二月二十日迄ニ其ノ製造シタル阿片ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ阿片ハ政府ニ於テ試験ヲ施シ其ノ莫見比混含量所定ノ度ニ適スルモノニハ賠償金ヲ交付シ其ノ不適品ハ無償ニテ焼却ス

第三條 阿片ハ政府ニ於テ醫藥用品ニ限り封緘ヲ施シ之ヲ賣下クルモノトス

政府ノ賣下ケタル阿片ノ外ハ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ得ス

第四條 第二條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫見比混含量及賠償金額竝ニ第三條ニ依リ賣下クヘキ阿片ノ價格ハ内務大臣之ヲ告示ス

賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫見比混含量ヲ増加シ又ハ賠償金額ヲ低減セムトスルトキハ一箇年以前ニ告示スヘシ

第五條 阿片ハ地方長官ヲシテ其ノ管内藥劑師藥種商中相當ノ人員ヲ限り卸賣人ヲ指定シテ賣下ケシム

第六條 醫師及藥品營業者ニ於テ阿片ヲ要スルトキハ數量竝ニ住所氏名年月日ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ卸賣人ヨリ購求スヘシ

醫師及製藥者ハ阿片ヲ藥劑師藥種商ヨリ購求シ又ハ藥劑師藥種商互ニ之ヲ賣買スルコトヲ得此ノ場合ニハ前項ノ證書ヲ以テスヘシ

第七條 阿片ハ前條ノ外醫師ノ處方箋ヲ以テスルニ非サレハ賣買スルコトヲ得ス

藥劑師ハ政府又ハ他ノ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ阿片ヲ零賣スルコトヲ得此ノ場合ニハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ

藥種商ハ卸賣人タルト否トヲ問ハス政府又ハ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第八條 處方箋竝ニ第六條ノ證書ハ其ノ日付ヨリ滿十箇年間之ヲ保存スヘシ

第九條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ阿片ヲ製造シタル者又ハ第三條第二項ニ違背シタル者ハ百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ製造シタル阿片又ハ政府ノ賣下ケタルニ非サル阿片ハ之ヲ沒收ス

第十一條 第二條第一項ニ違背シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第七條第八條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 阿片製造人又ハ阿片卸賣人此ノ法律又ハ其ノ施行ニ關スル規則ニ違背シタルトキハ地方長官ハ其ノ許可又ハ指定ヲ取消スコトヲ得

附則

第十四條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十五條 此ノ法律施行ノ日現ニ阿片製造人タルノ許可ヲ有スル者ハ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十六條 此ノ法律施行以前地方廳ニ預リ置キタル阿片ハ之ヲ焼却ス

第十七條 明治十一年布告第二十一號藥用阿片賣買竝ニ製造規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●阿片法施行規則 三十年三月 內務省令第四號

阿片法施行規則左ノ通定ム

阿片法施行規則

- 第一條 阿片製造人阿片ヲ納付セントスルトキハ納付書ニ阿片ノ量目ヲ記シ現品ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ內務省ニ申出ツヘシ但現品ニハ量目及本人ノ住所氏名ヲ記シタル木札ヲ付スヘシ
- 地方廳ニ於テ前項ノ納付書ヲ受ケタルトキハ現品ハ最寄衛生試驗所ニ送致シ納付書ハ其ノ旨ヲ付記シテ內務省ニ進達スヘシ
- 衛生試驗所ニ於テ前項ニ依リ阿片ノ送致ヲ受ケタルトキハ試驗ヲ施シ其成績ヲ內務省ニ報告スヘシ
- 但五匁未満ノ納付品ハ試驗ヲ施スニ及ハス
- 第二條 政府ニ於テ賣下クル阿片ノ容器ハ一匁入十匁入五十匁入ノ三種トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ以テ封緘スルモノトス
- 第三條 阿片卸賣人ハ政府ノ會計年度ニ依リ(以下年度トアル)半年度毎ニ拂下ケテ受クヘキ阿片ノ數量ヲ豫算シ容器ノ種類員數ヲ記シ之ヲ地方廳ニ請求スヘシ但缺乏ノ節ハ臨時請求スルコトヲ得
- 第四條 阿片卸賣人ハ其ノ店頭ニ阿片卸賣所ト書シタル看板ヲ掲グヘシ
- 第五條 阿片製造人及阿片卸賣人家族居住所氏名ヲ變換スルカ又ハ廢業若クハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ツヘシ
- 阿片製造人及阿片卸賣人廢業シタルトキ又ハ死亡シ相續者其ノ業ヲ繼カサルトキハ既製ノ阿片及販賣殘餘ノ阿片ハ前項ノ期日内ニ納付シ又ハ買戻ヲ請求スヘシ但販賣殘餘ノ阿片ハ本條ノ期日内ニ同業者ニ讓渡スコトヲ得
- 第六條 第五條ノ届出納付及買戻ノ請求ハ死亡ノ場合ニ於テハ戶主之ヲ爲スヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續者相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財產ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ
- 第七條 地方廳ニ於テハ阿片卸賣人ヲ指定シ又ハ指定ヲ取消シタルトキ及卸賣人住所氏名ヲ變換シ又ハ廢業若クハ死亡シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ管内ニ告示シ同時ニ內務省ニ報告スヘシ
- 第八條 藥劑師藥種商ハ卸賣人タルト否トナ間ハス阿片ノ受拂高並仕入元賣渡人ノ住所氏名年月日ヲ簿記シ十年間之ヲ保存スヘシ但藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ依リ患者ニ與フルモノハ本條ノ簿記ヲ要セス
- 第九條 阿片卸賣人ハ毎年度ノ阿片受拂表一通ヲ製シ年度後一箇月以内ニ地方廳ニ差出スヘシ(三十二年內務省令第十四號)ヲ以テ條中削除第二項追加)

- 地方廳ハ毎年度阿片受拂表ヲ製シ年度後二箇月以内ニ內務省ニ報告スヘシ
- 第十條 第四條第九條ニ違反シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第十一條 第五條第八條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十二條 此ノ規則ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

●阿片賣下代價納付方 明治三十二年三月 勅令第六十五號

朕阿片賣下代價ヲ收入印紙ニテ納付セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
阿片法ニ依リテ納ムヘキ阿片賣下代價ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

●衛生試驗所試驗手数料 明治三十四年六月 內務省令第十七號

衛生試驗所試驗手数料ニ關スル規定左ノ通定ム

- 第一條 衛生試驗所ニ藥品其ノ他衛生上關係アル物品ノ試驗ヲ依頼スル者ハ左ノ手数料ヲ納付スヘシ
 - 一 藥品ノ藥用適否試験ハ金壹圓
 - 但シ衛生試驗所ノ検査印紙ヲ貼付スルモノハ別ニ一箇ニ付金壹錢
 - 二 水、氷及雪ノ飲料適否試験ハ化學的試験、細菌學的試験各金五拾錢
 - 三 水及鑛水ノ定性分析ハ金五圓定量分析ハ金拾圓
 - 但シ水ノ全硬度、永久硬度ノ檢定ハ各金五拾錢

第十二類 阿片法施行規則 阿片賣下代價納付方 衛生試驗所試驗手数料

- 四 乳汁ノ定量分析ハ金貳圓五拾錢簡易脂肪檢定ハ金五拾錢
- 五 牛酪、煉乳、乳汁餡其ノ他乳製品ノ定量分析ハ金四圓
- 六 酒類ノ定量分析ハ金五圓
- 七 燒酎、アランザール類及酢ノ定量分析ハ金三圓
- 八 肉類及肉煮汁ノ定量分析ハ金參圓
- 九 肉百弗類其ノ他肉製品ノ定量分析ハ金五圓
- 十 穀菽、蔬菜、果實、麵飽、素麵、茶、咖啡、菓子、調製餡類ノ定量分析ハ金五圓
- 十一 砂糖、蜜、水飴類ノ定量分析ハ金參圓
- 十二 醬油、味噌類及食鹽ノ定量分析ハ金七圓
- 十三 罐詰類ノ定量分析ハ其ノ原料ノ手數料ニ準ス
但シ貯藏ノ耐否試験ハ金貳圓
- 十四 衣服料ノ纖維檢定ハ金五拾錢其ノ概量檢定ハ金貳圓
- 十五 著色料、化粧品、飲食物、飲食物用器具並ニ其ノ原料又ハ鍍布、鐵著ノ合金ニ就キ衛生上害否試験ハ金貳圓
- 十六 石鹼ノ定量分析ハ金五圓
- 十七 尿ノ糖分及蛋白質ノ有無試験ハ各金五拾錢
- 十八 石油ノ引火點檢定ハ金五拾錢
- 十九 裁判關係諸品ノ試験ハ一種ニ付金壹圓以上金貳拾圓以下
- 二十 第一號乃至第十八號ノ物品其ノ他大氣及瓦斯類、製造品又ハ天產物ノ含有成分中ノ一成分又ハ一成分以上ヲ指定シ之ヲ試驗ヲ依頼スルモノハ定性分析ニ在リテハ一成分ニ付金壹圓一成分以上一成分ヲ増ス毎ニ金五拾錢定量分析ニ在リテハ一成分ニ付金貳圓一成分以上一成分ヲ増ス毎ニ金壹圓
- 但シ比重點沸騰點ノ檢定又ハ水分、越幾斯分、灰分ノ定量ハ各金五拾錢
- 第二條 前條ノ物品ニ關シ特殊ノ試験ヲ依頼スルモノ又ハ前條記載以外ノ物品ノ試験手數料ハ其ノ試験ノ難易及之ニ要スル時日ノ長短ニ從ヒ前條手數料ノ割合ニ準シ衛生試驗所長ノヲ定ム
- 第三條 時日ナ限リ試験ヲ依頼スル者アルトキハ衛生試驗所長ハ所務ノ都合ニヨリ之ニ應スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ普通

手數料ノ五倍以内ヲ徵收スルモノトス

第四條 報告書ノ謄本ヲ請求スル者ハ一葉ニ付手數料金拾錢其ノ翻譯文ヲ請求スル者ハ衛生試驗所長ノ定ムル所ニ依リ一通ニ付手數料金五拾錢乃至金五圓ヲ納付スヘシ

第五條 試驗依頼人ノ請求ニ應ジ衛生試驗所員試驗ノ爲出張スルトキハ依頼人ハ官職相當ノ旅費及試驗器具ノ運搬費ヲ負擔スヘシ

附則

第六條 本令ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 明治十七年十月内務省告示甲第二十七號明治二十四年七月内務省令第十號及明治二十六年十月内務省令第十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●醫師免許規則 明治十六年十月三十五號布告

沿革略記

明治六年六月文部省第八十九號達ヲ以テ現時醫術開業者ノ明細書及醫師ノ人員等ヲ申達セシム●七年三月文部省達ヲ以テ醫制ヲ定メ先ツ三府ニ於テ漸次施行セシム●八年二月文部省ヨリ醫制ニ基キ新ニ醫術開業者ノ試驗科目ヲ三府ニ達ス○同年四月醫制ヲ改正ス○同年六月第百拾貳號布告ヲ以テ文部省管理衛生ノ事務ヲ内務省ニ屬ス●九年一月内務省乙第五號達ヲ以テ新ニ醫術開業セントスルモノノ試驗科目ヲ定ム●十年八月内務省乙第七十六號達ヲ以テ維新以來官廳及地方公立病院ニ於テ醫術ヲ以テ奉職從事ノ者ハ試驗ヲ須ヒス免狀渡方ヲナサシム●十二年二月内務省甲第三號達ヲ以テ文部卿ノ認可ヲ得タル醫學學校ノ卒業生ハ試驗ヲ要セス開業免狀ヲ下付スルモノトス○同年八月第三十九號布告ヲ以テ醫師タル者醫業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ其業ヲ停止若クハ禁止ス●十六年十月第三十五號布告ヲ以テ醫師免許規則ヲ制定ス

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年二月第四號布達同年八月第三十九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

(別冊)

醫師免許規則

- 第一條 醫師ハ醫術開業試験ヲ受ケ「内務卿」ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス
但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其效アリトス
- 第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ
- 第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ「内務卿」ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ「内務卿」ハ其證書ヲ審査シ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事「縣令」ノ具狀ニヨリ「内務卿」ハ醫術開業試験ヲ經サル者ト雖トモ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第六條 (二十九年法律第二十七號ヲ以テ消滅) 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ
- 第七條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ
- 第九條 (二十九年法律第二十七號ヲ以テ消滅) 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納スヘシ
- 第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經「内務卿」ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖トモ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 「内務卿」ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

●醫術開業試験規則 十六年十月三十四號布達

今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業試験規則別冊ノ通相定メ明治十七年一月一日ヨリ施行ス
但明治十二年二月内務省甲第三號布達ハ同日ヨリ廢止ス
(別冊)

- 第一條 醫術開業試験規則
- 第一條 醫術開業試験ヲ受ケントスル者ハ此規則ニ據ルヘシ(三十六年文部省令第九號ヲ以テ本條改正)
- 第二條 文部大臣ハ毎年二回醫術開業試験ヲ舉行スヘシ但試験ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試験期日ハ六ヶ月前之ヲ文部大臣ヨリ告示スヘシ(三十六年文部省令第九號ヲ以テ條中改正)
- 第三條 (二十二年内務省令第七號ヲ以テ本條削除)
- 第四條 (同上)
- 第五條 醫術開業試験ハ之ヲ二期ニ分チ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得ス

第十二類 醫術開業試験規則

但齒科醫術開業試験ハ全科一時ニ受クルモノトス
第六條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ
前期試験科目

- 第一 物理學
 - 第二 化學
 - 第三 解剖學
 - 第四 生理學
- 後期試験科目

- 第一 外科學
- 第二 内科學
- 第三 藥物學
- 第四 眼科學
- 第五 產科學
- 第六 臨床實驗
- 第七條 齒科試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ
 - 第一 齒科解剖及生理
 - 第二 齒科病理及治療
 - 第三 齒科用藥品
 - 第四 齒科用器械
 - 第五 實地試験
- 第八條 前期試験ハ一ケ年半以上後期試験ハ更ニ一ケ年半以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス
但齒科醫術開業試験ハ二ケ年以上修學セシ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス(十七年第二號布達)
- 第九條 前期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ後期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試験及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月十五日迄ニ其書類ヲ取纏メ文部省ニ進達スルモノトス(二十六年內務省令)

第九號三十九年文部省令
第九號ヲ以テ條中改正

- 第十條 地方廳ニ於テ試験出願者中醫事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリト認ムル者アルトキハ之ヲ文部省ニ具狀スヘシ內務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試験ヲ許ササルコトアルヘシ(三十六年文部省令第九號ヲ以テ條中改正)
- 第十一條 受験中不正ノ行爲アリタル者ニハ期限ヲ定メ試験ヲ許ササルコトアルヘシ(三十四年內務省令第九號ヲ以テ追加)
- 第十二條 試験問題ハ試験委員長試験委員協議ノ上之ヲ選定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ(二十二年內務省令第七號ヲ以テ條中改正)
- 第十三條 試験ニ落シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス
- 第十四條 醫術開業試験ヲ出願スル者ハ其際左ノ手数料ヲ納ムヘシ但納付シタル手数料ハ返付セス(三十四年內務省令第三號)
- 第十五條 前期 (二十六年内務省令第九號) 後期 金九圓 齒科 金九圓
(四號ヲ以テ削除ス)

●醫術開業試験特例及手数料(三十二年二月 內務省令第二號)

醫術開業試験後期ノ學說試験及齒科ノ學說試験ニ合格シタルモノハ學說合格承認證ヲ交付ス
前項ニ據リ學說合格承認證ヲ得タル者ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミヲ受クルコトヲ得實地試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ試験委員長ノ學說合格承認證ヲ添ヘ願出ヘシ但試験手数料金六圓ヲ納ムヘシ(三十四年內務省令第三十號ヲ以テ項中改正)

●藥劑師試験規則(明治二十二年三月 內務省令第三號)

藥劑師試験規則左ノ通之ヲ定ム

第十二類 醫術開業試験特例及手数料

藥劑師試驗規則

第一條 藥劑師試験ヲ受ケントスル者ハ此規則ニ據ルヘシ(三十六年文部省令第
十號ヲ以テ本條改正)
第二條 藥劑師試験ハ毎年二回舉行シ其舉行ノ地及ヒ期日ハ六箇月前之ヲ告示スヘシ(二十七年内務省令
第六號ヲ以テ改正)
第三條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一 物理學 第二 化學
- 第三 植物學 第四 生藥學
- 第五 製藥化學
- 實地

第一 分析術 第二 藥品鑑定

第三 藥物製煉 第四 調劑術
第四條 試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ヲ毎年三月八月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月十五日迄ニ其書類ヲ取纏メ文部省ニ進
達スヘシ(三十二年内務省令第
二號ヲ以テ改正三
十六年文部省令第十號ヲ以テ條中改正)

第五條 (二十七年内務省令第
六號ヲ以テ削除ス)

第六條 藥劑師試験ヲ出願スル者ハ其際試験手数料金六圓ヲ納付スヘシ但納付シタル手数料ハ返付セス(二十六年内務省令第五號
ヲ以テ改正三十四年同第
三十四號ヲ以
テ條中改正)

第七條 受験上不都合ノ所爲アル者ハ試験委員長ヨリ退場ヲ命スルコトアルヘシ(二十七年内務省令第
六號ヲ以テ條中改正)

第八條 受験中不正ノ行爲アリタル者ニハ期限ヲ定メ試験ヲ許ササルコトアルヘシ(三十四年内務省令第
十八號ヲ以テ追加)

第九條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

●藥劑師試験特例及手数料明治三十一年二月
内務省令第三號

藥劑師試験ノ學說試験ニ合格シタル者ハ學說合格承認證ヲ交付ス

前項ニ據リ學說合格承認證ヲ得タル者ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミチ受クルコトヲ得實地試験ヲ受ケントスル者ハ其試験
願書ニ試験委員長ノ學說合格承認證ヲ添ヘ願出ヘシ但試験手数料金四圓ヲ納ムヘシ(三十四年内務省令第三十
五號ヲ以テ本項中改正)
明治二十六年七月當省令第十一號ハ廢止ス

●獸醫免許規則明治二十三年八月
法律第七十六號

朕獸醫免許規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

獸醫免許規則

第一條 獸醫ノ開業ハ農商務大臣ヨリ獸醫免狀ヲ受ケタル者ニ限ル

第二條 獸醫免狀ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

- 一 獸醫免許試験ニ合格シ其ノ證書ヲ有スル者
- 一 官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
- 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有
スル者
- 一 外國ニ於テ官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業
證書ヲ有スル者

第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ獸醫免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試験及第證書又ハ卒業證書
ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第四條 獸醫免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登録シ之ヲ公告スヘシ

第五條 獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條 (二十九年法律第二十
十七號ヲ以テ消滅)

第七條 獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ(二十九年法律第二十
七號ニ依リ二項廢止)

第八條 獸醫業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍内ニ於テ其ノ業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止スルコトアルヘシ

第九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第十條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第十一條 獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ミタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條 獸醫免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十三條 獸醫免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十四條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ獸醫假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十五條 第十四條ニ依リ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十六條 明治十八年第十七號布達獸醫開業試驗規則其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル規定ハ總テ廢止ス

● 獸醫免許試驗規則 二十三年九月
農商務省令第十一號

明治二十三年八月法律第七十六號第十三條ニ據リ獸醫免許試驗規則左ノ通之ヲ定ム

獸醫免許試驗規則

第一條 試驗ノ科目ハ左ノ如シ

- 一 家畜解剖學
- 一 同 生理學
- 一 同 藥物學
- 一 同 內科學及其ノ實地
- 一 同 外科學及其ノ實地
- 一 同 蹄鐵學及其ノ實地

第二條 試驗法ハ筆記及實地ノ二種トシ實地試驗ハ筆記試驗ヲ終ハリタル後之ヲ行フ但時宜ニ依リ口述試驗ヲ以テ實地ニ代フルコトアルヘシ

第三條 試驗ハ毎年二回之ヲ行ヒ其ノ場所及期日ハ六月十二月告示スヘシ

第十二類 獸醫免許試驗規則

- 第四條 農商務大臣ハ試験主事及委員ヲ選定シテ試験ヲ行ハシム
 - 第五條 試験ヲ受ケント欲スル者ハ住所族籍生年月及受験地名ヲ願書ニ記載シ修學履歷書ヲ添ヘ一月若クハ七月中「其ノ居住ノ地方廳ヲ經由シテ」農商務大臣ニ差出スヘシ
 - 第六條 受験者ハ試験期日三日前受験地ノ宿處ヲ其ノ地方廳ニ届出ヘシ
 - 第七條 試験及第者ニハ試験主事ヨリ及第證書ヲ附與スヘシ
 - 第八條 不正ノ方法ヲ以テ及第シタルトキハ及第ノ効ナキモノトス
- 附則
- 第九條 第十回獸醫免許試験ニ限リ家畜ノ解剖學、生理學、藥物學、內科學、外科學ニ就キ筆記試験ヲ行フ

●產婆規則
明治三十二年七月
 勅令第三百四十五號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ產婆規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

產婆規則

- 第二條 產婆試験ニ合格シ年齡滿二十歲以上ノ女子ニシテ產婆名簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ非サレハ產婆ノ業ヲ營ムコトヲ得ス
- 第三條 一箇年以上產婆ノ學術ヲ修業シタル者ニ非サレハ產婆試験ヲ受ケタルコトヲ得ス
- 第四條 產婆名簿ハ地方長官之ヲ管理ス
- 第五條 產婆名簿ニ登録ヲ受ケントスル者ハ產婆試験合格證書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ
- 第六條 產婆名簿ノ登録事項ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ產婆名簿ノ訂正ヲ願出ツヘシ

產婆名簿ノ登録事項ハ內務大臣之ヲ定ム

- 第五條 產婆其ノ住所ヲ移シタル爲管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳ニ產婆名簿取消ノ登録ヲ願出テ後ノ管轄地方廳ニ產婆名簿ノ登録ヲ願出ツヘシ
- 第六條 前項ノ登録換ヲ爲ササル者ハ產婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス
- 第七條 產婆廢業シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ產婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ
- 第八條 產婆失踪又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ產婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ
- 第九條 產婆ハ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十條 產婆ハ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ產科器械ヲ用非藥品ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り灌腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十一條 產婆ハ產婆名簿ニ登録ヲ受ケサル者ニ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ノ取扱ヲ專任スルコトヲ得ス
- 第十二條 產婆ニシテ墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタルトキハ地方長官ハ產婆ノ業ヲ禁止シ又ハ一年以内之ヲ停止スルコトヲ得產婆名簿登録前ニ犯シタル罪ニ付テモ亦同シ
- 第十三條 試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者アルトキハ其ノ試驗ヲ無効トスルコトヲ得若シ已ニ登録

ヲ受ケタルトキハ其ノ登録ヲ取消スコトヲ得
第十二條 地方長官ハ産婆ノ業ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ其ノ禁止又ハ停止ヲ解除
スルコトヲ得

第十三條 産婆試験ヲ受ケントスル者又ハ産婆名簿ニ登録ヲ願出ツル者ニシテ試験又ハ登録ノ以前墮
胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試験ニ關スル規程ニ
違背シタル者ナルトキハ試験又ハ登録ヲ許可セサルコトヲ得

第十四條 産婆ニシテ三箇年間其ノ業ヲ營マサルトキ又ハ瘋癲白痴不具癱疾ト爲リ其ノ業ヲ營ムニ堪
ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ産婆名簿ノ登録ヲ取消スコトヲ得

第十五條 産婆名簿ノ登録、登録ノ取消、主要ナル登録事項ノ訂正並産婆業ノ禁止又ハ停止及其ノ解
除ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十六條 左ニ掲クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 産婆名簿ニ登録ヲ受ケシテ産婆ノ業務ヲ爲シタル者
 - 二 産婆名簿ノ登録ヲ取消サレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者
 - 三 産婆ノ業ヲ禁止又ハ停止セラレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者
 - 四 第三條ニ關シ虚偽ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者
 - 五 第七條乃至第九條ニ違背シタル者
- 第十七條 第四條第三項第五條第二項及第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

第十八條 本令施行以前内務省又ハ地方廳ヨリ産婆ノ免狀又ハ鑑札ヲ受ケ現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ本令
施行後六箇月以内ニ地方長官ニ願出テ産婆名簿ニ登録ヲ受クルコトヲ得

第十九條 地方長官ハ産婆ニ乏シキ地ニ限り當分ノ内出願者ノ履歴ニ依リ業務ノ地域及五箇年以内ノ
期限ヲ定メ産婆ノ業ヲ免許スルコトヲ得

前項ノ免許ヲ受ケタル者ハ産婆ニ準シ本令ヲ適用ス但シ産婆名簿ニ登録スル限ニ在ラス
第二十條 本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●産婆試験規則 明治三十二年九月
内務省令第四十七號

産婆試験規則左ノ通定ム

産婆試験規則

第一條 産婆試験願出ノ期日舉行ノ期日及場所ハ地方長官之ヲ告示ス

第二條 試験科目ハ左ノ如シ

學 說

- 第一 正規妊娠分娩及其ノ取扱法
 - 第二 正規産褥ノ経過及褥婦生兒ノ看護法
 - 第三 異常ノ妊娠分娩及其ノ取扱法
 - 第四 妊娠産婦褥婦生兒ノ疾病消毒ノ方法及産婆心得
- 實 地
- 第一 實地試験若ハ模型試験

- 第三條 學說試験ニ合格シタル者ニ非レハ實地試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第四條 學說試験ニ合格シ實地試験ニ落シタル者又ハ實地試験ヲ受ケサル者ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミヲ受クルコトヲ得
- 第五條 產婆試験ヲ受ケントスル者ハ產婆學校產婆養成所等ノ卒業證書若ハ修業證書又ハ產婆若ハ醫師二名ノ證明アル修業履歷書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ヘシ但第四條ニ依リ實地試験ノミヲ受ケントスル者ハ學說試験合格ノ證明書ヲ添ヘ願出ヘシ
- 第六條 地方長官前項ノ願出ヲ許可スルトキハ指令ヲ要セス其ノ願書ヲ受理シ許可セザルトキハ之ヲ却下ス
- 第七條 產婆試験ヲ願出ル者ハ收入印紙ヲ以テ試験手数料金壹圓ヲ納付スヘシ但納付シタル手数料ハ之ヲ還付セス
- 第八條 產婆試験ヲ願出ル者ト雖モ本條ノ手数料ヲ納付スヘシ
- 第九條 地方長官ハ學說試験及實地試験ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付シ學說試験ニ合格シタル者ニハ證明書ヲ交付ス
- 第十條 地方長官ハ受験人心得其ノ他試験場ノ整理ニ關スル條規ヲ定メ試験場ニ揭示スヘシ
- 第十一條 當該官吏ハ受験人心得其ノ他前項ノ條規ニ違背シタル者ニ退場ヲ命スルコトヲ得

●產婆名簿登錄規則 明治三十二年九月 內務省令第四十八號

- 第一條 產婆名簿ニハ左ノ事項ヲ登錄スヘシ
 - 一 登錄番號、登錄年月日
 - 二 族籍(外國人ナルト)、氏名、年齢、住所
 - 三 產婆試験ニ合格シタル地方廳名、其ノ年月日(產婆規則第十八條ニ依リ登錄スルモノハ其ノ旨ヲ記載ス)
 - 四 開業地(住所以外ノ地ニ於テ開業スルモノ又ハ出張所ヲ設ケルモノハ之ヲ記載ス)
 - 五 業務ニ關スル犯罪、禁錮以上ノ刑ニ該ル犯罪(其ノ年月日)
 - 六 產婆業ノ禁止、停止、解除(其ノ年月日)
 - 七 名簿取消ノ年月日、事由

- 第二條 產婆名簿ハ別記様式ニ依リ調製スヘシ
- 第三條 產婆ノ業ヲ營メントスル者ハ本令第一條第二號第三號第四號ノ事項ヲ明記シテ其ノ住所地ヲ管轄スル地方廳ニ願出テ產婆名簿ニ登錄ヲ受ケヘシ
- 第四條 產婆規則第五條第一項ノ場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ハ產婆名簿ノ取消ノ登錄ヲ爲シ其ノ登錄事項ノ謄本ヲ以テ後ノ管轄地方廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
- 第五條 後ノ管轄地方廳ハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟タズ本人ノ願出ニ依リ直ニ產婆名簿ニ登錄ヲ爲スヘシ但必要ト認ムル場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟テ又ハ之ニ照會ヲ經タル後登錄ヲ爲スヘシ
- 第六條 產婆名簿ノ訂正又ハ取消ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ部分ニ朱線ヲ畫シ訂正又ハ取消ノ事由年月日ヲ朱記スヘシ
- 第七條 第六條 產婆名簿ニ登錄ヲ受ケタル者謄本手数料金五拾錢ヲ納付スルトキハ登錄ノ謄本ヲ受クルコトヲ得

(別記略)

●鍼灸術營業取締方 明治十八年三月 內務省達甲第十號

鍼灸術營業者之儀ハ從來開業之者並ニ新規開業セントスル者ハ自今出願セシメ其修業履歷ヲ檢シ相當ト認ムルトキハ差許不苦其取締方之儀ハ便宜相設可申此旨相達候事

但既ニ營業差許タルモノハ更ニ出願セシムルニ及ハス

●獸疫豫防法 明治二十九年三月 法律第六十號

沿革略記 明治四年六月布告ヲ以テシベリヤ海岸ニ「リンドルベスト」流行ニ付家畜傳染病豫防法ヲ頒布ス○同年七月布告ヲ以テ大學東校ニ於テ譯述シタル「リンドルベスト」病論及豫防法等ヲ頒布ス●六年三月大藏省第二十五號達ヲ以テ北亞米利加ニ於テ馬病傳染病流行ニ付其豫防法ヲ頒布ス●九年二月內務省乙第二十號達ヲ以テ傳染疫牛賠償

撲殺法ヲ設ケ疫牛處分條例ヲ定ム○同年三月内務省乙第二十四號達ヲ以テ傳染牛疫豫防法並斃死後處置方ヲ定ム○同年九月内務省乙第六號達ヲ以テ本省へ申出來リシ獸類劇症ノ發病斃死ノ景況等自今直ニ勸業寮へ通信セシム●十四年四月第二十五號達ヲ以テ農商務省ヲ設置シ牧畜事務ヲ同省ニ屬ス●十九年九月農商務省令第十一號ヲ以テ九年内務省乙第二十號達其他獸類ノ傳染病ニ關スル從前ノ達類ヲ廢シ獸類傳染病豫防規則ヲ定ム●二十九年三月法律第六十號ヲ以テ獸類傳染病豫防規則ヲ廢止シ更ニ獸疫豫防法ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル獸疫豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

獸疫豫防法

第一條 此ノ法律ニ獸類ト稱スルハ牛、馬、羊、豕、犬ヲ謂ヒ獸疫ト稱スルハ左ノ十病ヲ謂フ

- 一 牛疫
- 二 炭疽
- 三 氣腫疽
- 四 鼻疽及皮疽
- 五 傳染性胸膜肺炎
- 六 流行性騫口瘡
- 七 羊痘
- 八 豕虎列刺
- 九 豕羅斯疫
- 十 狂犬病

第二條 獸類獸疫ニ罹リタルコト若ハ其ノ疑アルコトヲ發見シタル所有者、管理人又ハ獸醫ハ直ニ其

ノ旨ヲ所轄警察署又ハ市町村長特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區戶長又ハ之ニ準スヘキ者ニ届出ヘシ

所有者又ハ管理人ニ於テ狂犬病ニ罹リタル獸類ヲ撲殺シタルトキ亦同シ

第三條 獸類獸疫ニ罹リタルトキ若ハ其ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢

疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ鎖銅シ若ハ健獸ト隔離シ其ノ監督ヲ承クヘシ

第四條 牛疫感染ノ疑アリ又ハ之ニ罹リタル牛、羊及狂犬病ニ罹リタル犬ハ所有者又ハ管理人ニ於テ

警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ撲殺スヘシ

前項ノ所有者又ハ管理人現場ニ在ラサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ニ於テ直ニ撲殺シ及病毒

ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄、埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フコトヲ得

第五條 地方長官東京府ハ警視廳、監以下之ニ依リテハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ病性鑑定ノ爲剖檢ヲ要スル獸類ヲ撲

殺シ又ハ鼻疽及皮疽、傳染性胸膜肺炎、豕虎列刺、豕羅斯疫ニ罹リタル獸類ノ撲殺ヲ命スルコトヲ

得

第六條 所有者又ハ管理人第四條ノ指揮ニ從ハス及前條ノ命令ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢

疫委員ニ於テ直ニ撲殺スルコトヲ得

第七條 病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類ヲ除クノ外此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸

類ノ死體ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒棄又ハ埋却

スヘシ

前項ノ屍體ハ各部ヲ截取シ又ハ剖檢ヲ爲スコトヲ得ス但シ病性鑑定又ハ學術研究ノ爲特ニ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 所有者又ハ管理人ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄、埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フヘシ

所有者、管理人、車長又ハ船長ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ獸疫ニ罹リ若ハ其ノ疑アル獸類ヲ繫留シタル場所、汽車、船舶等ニ消毒ヲ行フヘシ

所有者又ハ管理人前二項ノ指揮ニ從ハサルトキ及車長、船長前項ノ指揮ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ハ直ニ燒棄、埋却シ若ハ消毒ヲ行フコトヲ得

第九條 此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍體及病毒ニ汚染シタル物品ノ埋却地ハ發掘若ハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 第四條、第五條及第八條第一項ノ場合ニ於テ地方長官ハ三人以上ノ評價人ヲシテ物品及發病前ノ獸類ノ價格ヲ評價セシメ左ノ標準ニ依リ所有者ニ手當金ヲ下付ス其ノ評價額ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲシテ評價セシムルコトヲ得

一 牛疫、鼻疽及皮疽、傳染性胸膜肺炎、豕虎列刺、豕羅斯疫ニ罹リ撲殺シタル獸類

評價額三分ノ一

二 病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類

評價額五分ノ三

三 牛疫ニ感染ノ疑アル爲撲殺シタル牛羊

評價額五分ノ四

評價額二分ノ一

四 燒棄又ハ埋却シタル物品

手當金額ハ第一ノ場合ニ於テハ一頭六十圓、第二ノ場合ニ於テハ一頭百五十圓、第三ノ場合ニ於テハ一頭二百圓、第四ノ場合ニ於テハ總計十圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第十一條 此ノ法律ニ依リ左ニ掲クル獸類ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄若ハ埋却シタルトキハ手當金ヲ下付セス(三十三年法律第八號ヲ以テ第六號追加)

一 第二條ニ違背シ届出ナキ獸類及之ニ觸接シタル物品

二 第六條ノ場合ニ於ケル獸類及第八條第一項ニ違背シタル場合ニ於ケル物品

三 狂犬病ニ罹リタル犬及其ノ病毒汚染ノ疑アル物品

四 第十二條ノ命令ニ違背シ移動シタル獸類及物品

五 第十五條ノ命令ニ違背シ檢疫ヲ受ケス又ハ輸入シタル獸類及物品

六 有病地ヨリ輸入シタル獸類及物品

第十二條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ出入、往來並病毒傳播ノ疑アル物品ノ運搬ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 地方長官ハ獸疫流行中必要ト認ムルトキハ屠獸場及獸類化製場ノ營業ヲ停止シ又ハ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ市場、共進會等ノ開設ヲ停止スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ届出ヘシ

第十四條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ限リ健獸ノ検査ヲ行フコトヲ得

第十五條 外國ヨリ獸疫侵入ノ危險アリト認ムルトキハ有病地ヨリ又ハ有病地ヲ經テ輸入スル獸類及物品ノ検査ヲ行ヒ若ハ其ノ輸入ヲ停止スルコトヲ得

第十六條 獸疫豫防ニ關スル費用ハ國庫、府縣、市町村及一個人ノ負擔トス其ノ負擔ノ區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 第四條第一項ニ違背シタル者、第五條ノ命令ニ違背シタル者、及第十五條ノ検査ヲ受ケス又ハ輸入停止ニ違背シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

獸醫第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十八條 第七條、第八條第一項第二項、第九條ニ違背シタル者及第十三條ノ命令ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

所有者又ハ管理人第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十九條 第三條ニ違背シタル者及第十二條ノ命令ニ違背シタル者ハ刑法第二百四十九條ノ例ニ依リ處罰ス

第二十條 第一條ニ掲ケタル獸類獸疫ノ外獸畜傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ勅令ヲ以テ此ノ法律ノ全部又ハ一部ヲ他ノ獸畜又ハ他ノ獸畜傳染病ニ適用スルコトヲ得

第二十一條 此ノ法律施行ニ關スル規則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十二條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

獸畜傳染病豫防ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●獸疫豫防法施行細則三十年一月 農商務省令第一號

明治二十九年三月法律第六十號獸疫豫防法施行細則左ノ通相定ム

獸疫豫防法施行細則

第一條 警察官又ハ市町村長特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長市町村制ヲ施行セザル地方ニ於テハ區長又ハ之ニ準スヘキ者獸疫發生ノ届出ヲ受ケタルトキハ地方長官ニ其旨ヲ報告シ同時ニ其部内ニ榜示スヘシ

第二條 獸疫ニ罹リタル獸類ノ全體、斃死若クハ撲殺ハ所有者又ハ管理者ニ於テ獸醫ト連署シ直ニ所轄警察官署又ハ市町村役場ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル警察官又ハ市町村長ハ地方長官ニ報告スヘシ

第三條 第一條及第二條第一項ノ届出ヲ受ケタル警察官及市町村長ハ相互連ニ通報スヘシ

第四條 獸疫發生ノ届出又ハ通知ヲ受ケ若クハ其發生ヲ探知シタル警察官ハ直ニ現場ニ出張シ必要アルトキハ獸醫ヲシテ診斷セシムヘシ

第五條 第一條及第二條第二項ノ報告ヲ受ケタル地方長官ハ直ニ其管內ニ告示シ農商務大臣及鄰接府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

外國ノ獸疫侵入スルカ又ハ一地方ニ於テ獸疫蔓延ノ兆アルトキハ地方長官ハ農商務大臣及鄰接地並ニ航路ノ關係アル道廳府縣ノ地方長官ニ急報スヘシ

第六條 獸疫發生シタルトキハ地方長官ハ其狀況ヲ調査シ毎週別記様式ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ假性皮痘ハ毎月末ニ報

告スルモ妨ケナシ(三十三年農商務省令)

第七條 地方長官ハ獸疫豫防法第十二條及第十三條ニ依リ停止ヲ命シタルトキハ其旨農商務大臣及鄰接地並ニ航路ノ關係アル道廳

府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

第八條 獸疫豫防法第三條ニ依リ獸類ノ鎖網ヲ要スルトキハ之ヲ一定ノ場所ニ繫キ其逸出ヲ防キ又隔離ヲ要スルトキハ病獸ヲ在來

ノ場所ニ留置シ健獸ヲ安全ノ場所ニ移シ相互ノ交通ヲ絶テ病毒傳播ノ媒介ヲ防クヘシ

前項ノ隔離ヲ實行シ難キ場合ニハ特ニ警察官ノ許可ヲ得健獸ヲ留置シ病獸ヲ他ニ移スコトヲ得

第九條 獸疫ニ罹リ若クハ其疑アル獸類ヲ鎖網シ又ハ隔離シタル場所ニハ警察官ノ許可ヲ得タル者ノ外出入スルヲ許サス

第十條 地方長官ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ヲシテ獸疫ニ罹リ若クハ其疑アル獸類ノ鎖網若クハ隔離ヲ嚴重ニ監督セシムヘシ但

シ必要アルトキハ警察官ヲシテ病獸ヲ看守セシムルコトヲ得

第十一條 地方長官ハ所屬官吏、市町村吏及獸醫ニ檢疫委員ヲ命スルコトヲ得

第十二條 地方長官ハ獸疫豫防法第十四條ニ依リ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ヲシテ健獸ノ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

第十三條 地方長官ハ獸疫流行中屠獸場又ハ獸類化製場ノ監督ヲ嚴重ニスヘシ

第十四條 地方長官ハ必要ト認ムルトキハ豫防區域ノ各要所ニ警察官又ハ相當ノ看守人ヲ配置スヘシ

第十五條 獸類ノ撲殺ハ其所在地ニ於テ行フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ燒棄又ハ埋却スヘキ場所ニ於テスルコトヲ得

第十六條 獸疫ニ罹リ若クハ其疑アル獸類ノ屍體ヲ運搬セントスルトキハ天然孔ヲ塞キ全體ヲ消毒包裹シテ汚物ノ脱漏ヲ防クヘシ

其脱漏シタル場合ニハ直ニ之ヲ除去シ其場所ヲ消毒スヘシ

第十七條 獸疫ニ罹リ若クハ其疑アル獸類ノ屍體ヲ埋却セントスルトキハ皮膚ヲ亂截シ消毒藥ヲ散布スヘシ

屍體及病毒汚染ノ物品ヲ埋却スルトキハ深サ八尺以上トシ屍體及物品ヲ投入シタル後厚ク石灰ヲ散布シ土ヲ以テ土坑ヲ填塞スヘ

シ但シ羊痘、豕痘、豚痘、狂犬病ノ場合ニ於テハ土坑ノ深サ四尺以上トス

第十八條 獸疫豫防法第九條ノ埋却地ハ人家、飲料水、河流及道路ニ接近セサル適當ノ位置ヲ區畫シ木標ヲ建テ人及獸類ノ往來ヲ

禁スヘシ

第十九條 獸疫ノ病源ニ觸接シタル者又ハ其疑アル者ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ消毒シタル後ニアラサレハ他ノ獸

類ニ接近スルコトヲ得ス

第二十條 地方長官ハ獸疫豫防法第十二條及第十三條ノ停止ヲ解キタルトキハ其旨管内ニ告示シ農商務大臣及隣接地並ニ航路ノ關

係アル道廳府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

第二十一條 第五條第七條及第二十條ノ報告ヲ受ケタル地方長官ハ其旨管内ニ告示スヘシ

第二十二條 獸類ノ屍體及其病毒汚染ノ物品ヲ運搬スルニハ牛疫、傳染性胸膜肺炎及氣腫疽ノ場合ニ於テハ牛、鼻疽及皮疽並ニ假

性皮疽ノ場合ニ於テハ馬又炭疽ノ場合ニ於テハ牛馬ヲ用フヘカラス(三十三年農商務省令第一號ヲ以テ條中追加)

第二十三條 地方長官ハ狂犬病流行ノ際危險アリト認ムル區域ニ於テハ所有者ナキ犬ヲ撲殺セシメ所有者ノ記名アル犬ハ嚴重ニ繫

留セシムヘシ但シ使用上必要ナル飼犬ハ口綱ヲ施シ綱ヲ附シテ率キ行カシムルコトヲ得

第二十四條 消毒ヲ行ハントスル者ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ獸疫豫防心得ニ掲ケタル消毒法ニ依ルヘシ

(別記様式略之)

●牛疫檢疫規則 明治三十三年三月 農商務省令第五號

牛疫檢疫規則左ノ通相定ム

陸揚スルコトヲ得ス

第一條 韓國、清國及露領西伯利ノ諸港ヨリ輸入スル牛羊、皮骨類其他牛疫傳播ノ虞アル物品ハ檢疫ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ

第二條 檢疫ハ兵庫縣神戸港及長崎縣長崎港ニ於テ之ヲ行フ

第三條 檢疫官ハ船舶ニ臨檢シ必要ト認ムルトキハ航海日誌ヲ檢閱スルコトヲ得

船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ尋問書ニ事實ヲ記載シ之ニ署名スヘシ

第四條 檢疫官ハ必要ト認ムルトキハ牛羊ノ所有者若ハ管理人又ハ船長其他ノ船員ヲシテ之ヲ繫留所ニ送致セシメ且相當ノ期間之

ヲ繫留スルコトヲ得

第十二類 牛疫檢疫規則

第五條 牛疫感染ノ疑アリ又ハ之ニ罹リタル牛羊及病毒ニ汚染シ又ハ其疑アル皮骨類其他ノ物品ハ獸疫豫防法ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ

第六條 檢疫官檢疫ヲ終リタルトキハ證明書ヲ交付スヘシ

第七條 檢疫所所在地ノ地方長官ハ所屬官吏及獸醫ヲ以テ檢疫官トシ檢疫ヲ行フヘシ

第八條 第一條ニ掲ケタル港ヲ經テ輸入シ又ハ他ノ港ヨリ若ハ他ノ港ヲ經テ輸入スル牛羊、皮骨類其他牛疫傳播ノ虞アル物品ノ檢疫ヲ行ハントストキハ其港名及檢疫施行ノ期日並場所ヲ告示スヘシ

本則ノ規定ハ前項ノ檢疫ニ之ヲ準用ス

第九條 本則ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十年農商務省令第十八號牛疫檢疫規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●馬ノ假性皮疽ニ獸疫豫防法適用明治三十三年一月勅令第三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ馬ノ假性皮疽豫防ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

獸疫豫防法中鼻疽及皮疽ニ關スル規定ハ馬ニ發スル假性皮疽ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●畜牛結核病豫防法明治三十四年四月法律第三十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル畜牛結核病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

畜牛結核病豫防法

第一條 乳用牛、外國種牛及雜種牛ハ結核病ノ有無又ハ輕重ヲ定ムル爲行政官廳ニ於テ之ヲ検査ス結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ニ付テモ亦同シ

第二條 乳用牛、種牡牛及結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ検査ハ「ツベルクリン」注射ノ方法ニ依リ之ヲ行フ

第三條 検査ノ期日及場所ハ行政官廳之ヲ指定ス

第一條ニ掲ケタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ指定ニ從ヒ其ノ検査ヲ受クヘシ

第四條 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ之ヲ届出ツヘシ

第五條 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ隔離スヘシ

第六條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ鎖銅スヘシ

第七條 外國ヨリ輸入スル畜牛ハ輸入申告後特ニ定メタル場所ニ於テ「ツベルクリン」注射ノ方法ニ依リ之ヲ検査ス

前項ノ検査ニ關シテハ税關長及検査員ノ指揮ニ從フヘシ

第一項ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルトキハ税關長又ハ検査員ニ於テ其ノ輸入ノ禁止、

繋留其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第八條 前條ニ依リ輸入ヲ禁止セラレタル者畜牛ヲ撲殺セムトスルトキハ税關長及検査員ノ指揮ニ從フヘシ

第九條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體及其ノ部分、畜牛ヲ置キタル場所並病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ消毒スヘシ

第十條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁並屍體及其ノ部分ハ皮角蹄ヲ除クノ外検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル装置ヲ以テ化製スルモノハ此ノ限ニ在ラス

輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁並屍體及其ノ部分ノ處分方法ハ主務大臣之ヲ定ム

第十一條 結核病ニ罹リタル畜牛ヲ置キタル場所並病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ検査員ニ於テ其ノ燒棄又ハ埋却ヲ命スルコトヲ得

第十二條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却シタル場所ハ三箇年間之ヲ發掘スルコトヲ得但シ行政官廳ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 第六條又ハ第十一條ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄若ハ埋却シタル場合ニ於テハ其ノ評價額ノ二分ノ一ニ當ル手當金ヲ下付ス

畜牛ノ手當金ハ一頭ニ付外國種牛ニ在リテハ七十五圓、雜種牛及内國種牛ニ在リテハ五十圓、六箇

月未滿ノ幼牛ニ在リテハ十五圓ヲ超ユルコトヲ得物品ノ手當金ハ總テ十圓ヲ超ユルコトヲ得ス
畜牛及物品ノ評價ハ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ爲サシム但シ其ノ評價ヲ不當ト認メタルトキハ更ニ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ爲サシム

第十四條 左ノ場合ニ於テハ畜牛ノ手當金ヲ下付セス

- 一 検査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ又ハ妨ケタルトキ
 - 二 第四條、第五條又ハ第六條ニ違背シタルトキ
 - 三 検査ヲ受ケスシテ畜牛ヲ輸入シタルトキ
- 左ノ場合ニ於テハ物品ノ手當金ヲ下付セス

一 前項各號ノ一ニ該當スルトキ

二 第九條、第十條第一項又ハ同條第二項ニ基ツキテ發シタル命令ニ違背シタルトキ

三 第七條第二項、第三項又ハ第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサルトキ

第十五條 手當金ヲ受クヘキ者其ノ全部又ハ一部ヲ拒否スル處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十六條 畜牛結核病豫防ニ關スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫、北海道地方費府縣及一個人ニ於テ之ヲ負擔ス(三十五年法律第三號ヲ以テ條中追加)

第十七條 検査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者、検査ヲ受ケスシテ畜牛ヲ輸入シタル者、第五條若ハ第六條ニ違背シタル者又ハ第七條第三項ノ命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第四條、第九條、第十條第一項若ハ第十二條ニ違背シタル者又ハ第七條第二項、第八條若
 ハ第十一條ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十九條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法及本法ニ基ツキテ發スル命令ノ處罰ニ關シテ之ヲ準用
 ス

附則

本法ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ外國ヨリ輸入スル畜牛ニ關シテハ明治三十四年七月
 一日ヨリ之ヲ施行ス

● 獸疫及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分 明治三十四年六月
勅令第百三十九號

除獸疫及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 獸疫豫防法第十六條及畜牛結核病豫防法第十六條ニ依リ獸疫及畜牛結核病豫防ニ關スル
 費用負擔ノ區分ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一 左ノ費用ハ國庫ノ負擔トス
 - 一 獸類撲殺及物品棄却手當
 - 一 臨時獸醫備入手當及旅費
 - 一 市町村吏員ニ非サル檢疫委員及畜牛結核病検査員ノ旅費
 - 一 評價人手當及旅費

一 消毒用藥品費

第二 左ノ費用ハ北海道地方費及府縣ノ負擔トス (三十五年勅令第百三十
三號ヲ以テ項中追加)

- 一 器具器械費
- 一 被服費
- 一 通信及器具器械運搬費
- 一 家屋其ノ他借料
- 一 國庫ノ負擔ニ屬スルモノヲ除クノ外檢疫委員ノ手當及旅費並畜牛結核病検査員ノ手當
- 一 畜牛結核病豫防ノ爲要スル備入料
- 一 雜費

第三 左ノ費用ハ市町村ノ負擔トス

- 一 獸疫豫防ノ爲要スル備入料
- 一 獸疫豫防ノ爲要スル標示費

第四 左ノ費用ハ一個人ノ負擔トス

- 一 獸類ノ牽付、鎖銅、撲殺及其ノ屍體並物品ノ棄却ニ要スル費用
- 一 検査、繫留又ハ鎖銅中ニ要スル飼料等ノ費用

第二條 獸疫豫防法第十五條ニ依ル検査費及畜牛結核病豫防法第七條ニ依ル検査費ハ前條第四ニ
 掲クルモノヲ除クノ外國庫ノ負擔トス

第三條 沖繩縣ニ於テハ當分ノ内府縣及市町村ノ負擔ニ屬スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第四條 (三十五年勅令第三百三十三號ヲ以テ削除)

附則

明治二十九年勅令第三百七十七號ハ之ヲ廢止ス

●畜牛結核病豫防法施行規則 三十六年五月 農商務省令第四號

畜牛結核病豫防法施行規則左ノ通相定ム

第一條 畜牛結核病豫防法施行規則

第一條 乳用牛トハ營利ノ目的ヲ以テ搾乳用ニ供スル畜牛ヲ謂フ

外國種牛トハ歐羅巴及亞米利加種牛ヲ謂フ

雜種牛トハ外國種牛ト其ノ他ノ畜牛トノ血統ヲ有スル畜牛ヲ謂フ

種牡牛トハ種付用ニ供スル外國種牛及雜種牛ヲ謂フ

第二條 乳用牛、外國種牛及雜種牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官カ告示シタル検査期日一箇月前迄ニ其ノ住所、氏名、畜牛ノ頭數、種類、牝牡、年齡、毛色、用途及所在地ヲ第一號様式ニ依リ畜牛ノ所在地ヲ管轄スル警察官署ニ届出ツヘシ

前項届出期間後新ニ検査未済ノ畜牛ヲ所有シ又ハ管理スルニ至リタル者ハ前項ニ準シ三日以内ニ届出ツヘシ

検査未済ノ畜牛ニ關シ前二項ノ届出事項ニ變更アリタルトキハ第二號様式ニ依リ三日以内ニ之ヲ届出ツヘシ但シ畜牛所在地ノ變更ニシテ他ノ警察官署ノ管轄區域ニ互ルトキハ新舊兩地ノ警察官署ニ届出ツヘシ

第三條 地方長官ハ一箇年毎ニ乳用牛、外國種牛及雜種牛ノ検査ヲ行フ但シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ニ對シ二回以上之ヲ行フコトヲ得

地方長官ハ隨時結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ検査ヲ行フ

第四條 前條第一項ノ検査ノ期日及場所ハ地方長官之ヲ定メ検査ノ期日ヨリ少クとも二箇月以前ニ之ヲ告示ス

警察官署必要ト認ムルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ前項告示以外ノ期日又ハ場所ヲ指定スルコトヲ得

前條第二項ノ検査ノ期日及場所ハ警察官署隨時之ヲ指定スヘシ

第五條 警察官署ハ前條第一項ノ期日及場所ノ範圍内ニ於テ日時及場所ヲ指定ス

第六條 地方長官検査ノ爲必要ト認ムルトキハ期間及區域ヲ定メ乳用牛、外國種牛及雜種牛ノ移轉ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ命令ハ検査ノ期日ヨリ少クとも十五日以前ニ於テ之ヲ發スヘシ

第七條 正當ノ事由ニ依リ検査ノ日時又ハ場所ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル者ハ豫メ其ノ旨ヲ警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ其ノ者ニ付キ別ニ検査ノ日時又ハ場所ヲ指定スルコトヲ得

第八條 検査ヲ行フ場合ニ於テハ「ツベルクリン」注射ノ方法ニ依ルモノト否トナ問ハス臨床的診察ヲ爲スヘシ

第九條 「ツベルクリン」注射ニ因リ攝氏一度五分以上ノ増温ヲ呈シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ重症結核病ニ罹リタル畜牛トス増温攝氏一度五分ニ達セサルモ臨床上結核病ノ症狀重大ナルモノ亦同シ

一 乳房結核

一 重症肺結核

一 汎發結核

一 前各號ノ外著シク營養ヲ損害セル結核諸症

「ツベルクリン」注射ニ因リ攝氏一度五分以上ノ増温ヲ呈シ臨床上ノ症狀ナク又ハ其ノ輕微ナルモノハ之ヲ輕症結核病ニ罹リタル畜牛トス増温攝氏一度五分ニ達セサルモ臨床上結核病ノ症狀ヲ認識シ得ルモノ亦同シ

臨床上認ムヘキ病徴ナクシテ「ツベルクリン」注射ニ因リ攝氏一度以上一度五分未満ノ増温ヲ呈スルモノハ之ヲ結核病ノ疑アル畜牛トス

第十條 検査員検査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 健全ナル畜牛ニ付テハ第三號様式ノ健康證ヲ交付ス

一 重症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ直徑五分ノ圓形孔ヲ穿ツ

一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ第四號様式ノ耳標ヲ付ス

一 結核病ノ疑アル畜牛ニハ右耳ニ第五號様式ノ耳標ヲ付ス

前項第一號ノ健康證ハ次回検査ノトキ之ヲ返付セシメ第三號及第四號ノ耳標ハ之ヲ付スヘキ事由消滅シタルトキハ之ヲ除去スヘ

第十一條 前條ノ耳標ニ毀損又ハ喪失アリタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ遲滞ナク所轄警察官署ニ届出ツヘシ
前項ノ届出アリタルトキ及検査員又ハ警察官ニ於テ耳標ノ毀損若ハ喪失ヲ發見シ又ハ毀損若ハ喪失ノ虞アリト認ムルトキハ前條
ニ準シ更ニ耳標ヲ付スヘシ

第十二條 畜牛ノ所有者又ハ管理者検査員ノ指定シタル隔離又ハ鎖網ノ方法若ハ場所ヲ變更セムトスルトキハ検査員ノ許可ヲ受ク
ヘシ

第十三條 外國ヨリ輸入スル畜牛ノ検査ハ神奈川縣横濱港、兵庫縣神戸港及長崎縣長崎港ニ於テ之ヲ行フ

第十四條 検査員ハ税關長ヨリ畜牛ノ輸入申告アリタル旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ検査ノ日時、場所其ノ他検査ノ爲必要ナル事項
ヲ輸入申告者ニ通知スヘシ

第十五條 検査員外國ヨリ輸入スル畜牛ノ検査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ
一 健全ナル畜牛ニ付テハ第三號様式ノ健康證ヲ交付ス
一 重症結核病ニ罹リタル畜牛ニ付テハ右臀部ニ第六號様式ノ記號ヲ烙印ス
一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニ付テハ右臀部ニ第七號様式ノ記號ヲ烙印ス
一 結核病ノ疑アル畜牛ニ付テハ右臀部ニ第八號様式ノ記號ヲ烙印ス

外國ヨリ輸入スル畜牛ニ付テハ前項ノ手續ヲ終リタルトキハ検査員ハ其ノ成蹟ヲ税關長ニ通知スヘシ

第十六條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ撲殺ハ理却若ハ燒棄スヘキ場所又ハ認可ヲ經タル装置ヲ有スル化學製場ニ於テ之ヲ行フヘ
シ

第十七條 輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ヲ屠殺セムトスルトキハ検査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ヲ受ケ屠獸場内特ニ
區畫シタル場所ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ正當ノ事由アルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ得其ノ他ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ外國ヨリ輸入スル畜牛ヲ撲殺セムトスル場合ニ於テ輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ニ關シ之ヲ準用ス

第十八條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ移動セムトスルトキハ検査員又ハ所
轄警察官署ノ指揮ニ從ヒ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設ヲ爲スヘシ

第十九條 畜牛ノ死後結核ノ病的變狀又ハ之ニ疑ハシキ症狀ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ検査員又ハ所
轄警察官署ニ届出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十條 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛斃死シタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ直ニ検査員又ハ所轄警察官署ニ届出テ其ノ
指揮ヲ受クヘシ

第二十一條 輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ヲ屠殺シタル場合、前條ノ場合又ハ畜牛ノ死後ニ於テ結核ノ病的變狀ヲ發
見シタル場合ニ於テ結核ノ病的變狀一臟器及其ノ淋巴腺ニ局限セルカ又ハ結核ノ病的變狀二三臟器及其ノ淋巴腺ニ發生セルモ

各部ノ變狀小部ニ局限シ急性結核ノ變狀ヲ呈セザルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ検査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ニ從ヒ患部及
之ニ近接セル組織ヲ切除シ之ヲ燒棄又ハ消毒ノ上埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル装置ヲ以テ化學製スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ二箇以上ノ臟器及其ノ淋巴腺ニ於ケル結核ノ病的變狀蔓延セルトキ又ハ急性結核ノ變狀ヲ呈スルトキハ重症結
核ニ罹リタル畜牛ニ準シ之ヲ處分スヘシ

第二十二條 地方長官ハ所屬ノ官吏、吏員及獸醫ノ中ヨリ検査員ヲ命シ所屬ノ官吏、吏員又ハ郡市町村吏員及畜産業ニ經驗アル者
ノ中ヨリ評價人ヲ命スヘシ

第二十三條 検査員タルヘキ獸醫ハ助手ノ職務ノミヲ行フ者ヲ除ク外畜牛結核病検査講習生規則第六條ノ修業證書ヲ有シ又ハ官
立學校ニ於テ獸醫學ヲ修メ其ノ卒業證書ヲ有スル者ノ中ヨリ選定スヘシ

前項ニ依リ難キ事由アルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ資格ヲ有セザル獸醫ノ中ヨリ検査員ヲ選定スルコトヲ得

第二十四條 地方長官ノ告示シタル検査期日二箇月以前ヨリ検査確定ニ至ル迄乳用牛、外國種牛及雜種牛ニ「ツベルクリン」ノ注射
ヲ爲スコトヲ得ス

地方長官ノ許可ヲ受ケタル者又ハ獸醫ニ非サレハ乳用牛、外國種牛及雜種牛ニ「ツベルクリン」ノ注射ヲ爲スコトヲ得ス
前二項ノ規定ハ正當ノ事由ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十五條 前條第二項及第三項ニ依リ乳用牛、外國種牛及雜種牛ニ「ツベルクリン」ノ注射ヲ行ヒタル者ハ遲滞ナク検査員又ハ所
轄警察官署ニ届出ツヘシ

第二十六條 地方長官ハ毎年少クトモ一回畜牛結核病豫防ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十七條 地方長官ハ第三條第一項ニ依リ行ヒタル検査ノ成績及其ノ狀況ヲ検査終了後三十日以内ニ第二項ニ依リ前年四月一日
ヨリ三月三十一日迄ニ行ヒタル検査ノ成績及其ノ狀況ヲ四月三十日限リ第九號様式ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ

地方長官ハ第十三條ノ検査終了後其ノ検査ノ成績ヲ其ノ月末日限リ第十號様式ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十八條 畜牛結核病豫防法第四條ノ届出ハ検査員又ハ畜牛ノ現在地ヲ管轄スル警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

第二十九條 畜牛結核病豫防法第十條ニ規定スル化製装置ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ所轄警察官署ヲ經由シテ地方長官ニ出願スヘシ

第三十條 畜牛結核病豫防法第十二條ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ埋却ノ年月日及發掘ノ事由ヲ具シ所轄警察官署ニ出願スヘシ

第三十一條 検査員、評價人、其ノ他行政廳ノ命ヲ承ケテ公務ヲ行フ者畜牛結核病豫防法又ハ本則ノ執行ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第十條ノ記號ヲ滅失セシメ又ハ耳標ヲ毀損又ハ喪失セシメタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 第六條第一項ノ命令ニ違背シ又ハ第二十四條ニ違背シタル者ハ二十日以下ノ重禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二條、第七條第一項、第十七條、第十八條、第二十一條、第二十五條、第三十七條ニ違背シタル者及第十九條、第二十條ノ届出ヲ爲サス又ハ指揮命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十五條 本則中地方長官ノ職務ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

第三十六條 本則ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年農商務省令第六號輸入畜牛結核病検査規則ハ之ヲ廢止ス

第三十七條 本則施行ノ際ニ限リ第二條第一項ノ届出ハ七月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第二條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

(様式略)

●汚物掃除法(明治三十三年三月法律第三十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル汚物掃除法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

汚物掃除法

第一條 市内ノ土地ノ所有者又ハ占有者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第二條 市ハ本法其ノ他ノ法令ニ依リ別段ノ義務者アル場合ヲ除クノ外其ノ區域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第三條 市ハ義務者ニ於テ蒐集シタル汚物ヲ處分スルノ義務ヲ負フ但シ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條 市ニ於テ前條ノ處分ヲ爲シタル爲生スル收入ハ市ノ所得トス

第五條 地方長官ハ掃除ノ施行及實況ヲ監視セシムル爲必要ナル吏員ヲ市ニ置カシムルコトヲ得

第六條 當該吏員ハ掃除ノ實況ヲ監視シ必要ナル事項ヲ施行スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

第九條 汚物ノ種類汚物掃除並清潔保持ノ方法及施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第十條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 地方長官ハ區町村、町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村ニ準スヘキ地又ハ其ノ一部ヲ指定シ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

●汚物掃除法施行規則 三十三年三月 内務省令第五號

汚物掃除法施行規則左ノ通相定ム

汚物掃除法施行規則

- 第一條 汚物掃除法ニ依リ掃除スヘキ汚物ハ塵芥汚泥汚水及屎尿トス
- 第二條 市内ノ土地ノ占有者ハ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ
- 建物ノ所有者ハ其ノ建物アル土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ
- 建物ナキ土地ノ所有者ハ其ノ土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ
- 第三條 掃除義務者ハ覆蓋アル容器ヲ備ヘ掃除シタル塵芥ヲ其ノ容器ニ蒐集スヘシ
- 汚泥ハ之ヲ適當ノ容器ニ蒐集スヘシ
- 土地ニ定著シタル塵芥溜ハ之ヲ設置スルコトヲ得ス
- 第四條 溝渠ノ汚水ハ之ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄スヘシ
- 地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ拘ハラズ別段ノ施設ヲ許可スルコトヲ得
- 地方長官ハ汚水ノ性質ニ依リ公共溝渠ニ排泄セシムヘカラスト認ムルトキハ適當ノ施設ヲ爲サシムヘシ
- 第五條 市ハ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ヲ一定ノ場所ニ運搬シ塵芥ハ可成之ヲ焼却スヘシ
- 戸口稠密ナル地區ニ關シテハ市ハ毎日一回各戸ヨリ汚物ヲ搬出スヘシ
- 第六條 市ハ第四條ノ溝渠ノ汚水ヲ排泄スル爲必要ナル公共溝渠ヲ築造修繕スヘシ
- 公共溝渠ノ汚水ハ之ヲ適當ノ場所ニ排泄スヘシ
- 第七條 公共溝渠ニ沿フタル土地ニ於テ公共溝渠ニ害ヲ及ホスヘキ虞アル行爲ヲ爲ス者ハ其ノ害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲ス

ヘシ

第八條 市ハ公共便所ヲ築造修繕スヘシ

第九條 市ハ其ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除、掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ノ運搬及其ノ汚物ノ處分ニ關シ方法順序ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ設置スル掃除監視吏員ノ職務ハ左ノ如シ

- 一 汚物掃除法第二條及第三條ノ事項ニ關シ掃除人ヲ指揮監督ス
- 二 公共溝渠公共便所塵芥焼却場其ノ他掃除ニ關スル施設ヲ巡視ス
- 三 汚物掃除法第一條ニ依リ私人ノ履行スル掃除ノ實況及溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル私人ノ施設ヲ巡視ス
- 四 汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行ス

第十一條 市ハ掃除監視吏員ノ職務章程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 掃除監視吏員汚物掃除法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ルハ日出後日没前ニ於テシ制服ヲ著スル者ノ外證票ヲ携帯スヘシ

第十三條 掃除監視吏員汚物掃除法第七條ニ依リ戒告スルトキハ職務章程ニ別段ノ規定アル場合ノ外市長ノ指揮ヲ受クヘシ

戒告ハ附録書式ニ依リ書面ヲ以テ義務者ノ家ニ送達スヘシ

第十四條 汚物掃除法第八條ニ依リ市ニ於テ同法第七條ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルトキハ實費ノ内譯ヲ附シタル令狀ヲ發スヘシ

令狀ノ書式及交付ハ市税ノ令狀ニ準スヘシ

第十五條 汚物ノ爲又ハ溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル施設ノ爲衛生上危害ヲ受クル者ハ掃除監視吏員ニ申告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ掃除監視吏員ハ職務章程ニ定ムル期間ニ之ヲ臨檢スヘシ

第十六條 本則ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ掃除監視吏員ノ指定シタル期間ニ履行セサル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス

第十七條 公共溝渠ニ塵芥土石ヲ投棄シタル者又ハ屎尿ヲ注流シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス

第十八條 下水道ヲ布設シタル地ニハ溝渠ニ關スル本則ノ規定ヲ施行セス

第十二類 汚物掃除法施行規則

第十九條 公共道路ノ掃除ハ當分ノ内從前ノ成規ニ依ル但シ公共道路ヲ掃除シタル塵芥ニ關シテハ第三條第五條及第九條ヲ適用ス

第二十條 地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ第二條ノ義務ノ負擔區分ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十一條 地方長官ハ郡村ニ接近シタル地區ノ義務者又ハ廣大ナル土地ヲ占有スル義務者ノ掃除シタル汚物ノ處分ニ關シ第三條及第五條ニ拘ハラス別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

汚物掃除法施行前廳府縣令ノ規定ニ依リ一定ノ構造設備ヲ爲シタル塵芥溜ニシテ汚物掃除法施行ノ際現ニ存スルモノハ地方長官ニ於テ當分ノ内其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 屎尿ニハ當分ノ内第五條ノ規定ヲ適用セス掃除義務者ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第二十三條 地方長官ハ汚物掃除法施行後一箇年以内ヲ限リ公共便所ニ關スル市ノ義務ヲ延期スルコトヲ得

第二十四條 地方長官ハ本則ニ定ムルモノノ外汚物ノ掃除溝渠便所ノ構造其ノ他清潔保持ノ方法及施設ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 東京市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

(附録略之)

●掃除監視吏員ノ組織權限 明治三十三年三月 内務省令第六號

掃除監視吏員ノ組織權限等左ノ通定ム

第一條 汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ設置スル掃除監視吏員ハ左ノ如シ

一 掃除監督長

二 掃除監督

三 掃除巡視

第二條 掃除監督長ハ市參事會又ハ市長ノ命ヲ承ケ汚物掃除ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ吏員ヲ指揮監督ス

第三條 掃除監督ハ掃除監督長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌シ部下ノ掃除巡視ヲ指揮監督ス

第四條 掃除巡視ハ掃除監督長又ハ掃除監督ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第五條 掃除監督長ハ一人トス

掃除監督及掃除巡視ノ定員ハ土地ノ狀況ヲ斟酌シ地方長官之ヲ定ム

第六條 掃除監督長掃除監督及掃除巡視ノ俸給額ハ地方長官之ヲ定ム

第七條 掃除巡視採用規則ハ巡查採用規則ニ準シ地方長官之ヲ定ム

第八條 掃除巡視服務規律ハ巡查ノ服務ニ關スル規律ニ準シ地方長官之ヲ定ム

第九條 東京市ニ在リテハ地方長官ニ屬スル職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

●水道條例 明治二十三年二月 法律第九號

朕水道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水道條例

第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應シ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源

地、貯水地、瀘水場、唧水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第二條 水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス

第三條 市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長官ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一 水道事務所ノ所在地

第二 水源ノ位置 河川池湖又ハ掘井 及其水量ノ概算但圖面及水質ノ分析表ヲ添フヘシ

第三 水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水地、瀘水場、唧水場ノ位置但圖面ヲ添フヘシ

- 第四 給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量
- 第五 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込
- 第六 水壓ノ概算
- 第七 工事方法
- 第八 起工並竣工期限
- 第九 工費ノ總額其收入支出ノ方法及其概算
- 第十 水料ノ等級、價格、水料徵收ノ方法及經常收支ノ概算
- 第四條 內務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ムルトキハ水道布設ノ認可狀ヲ與フヘシ
- 第五條 水道用地ハ國稅地方稅ヲ免除ス
- 第六條 官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ
- 第七條 水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ検査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ地方衛生會ノ議定ヲ經相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之ヲ改良ヲ市町村ニ命スヘシ
- 第九條 市町村ハ工事落成又ハ改築修理ヲ了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査ヲ受クヘシ
- 第十條 水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ検査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得

- 第十一條 家屋内ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接續スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス
 - 第十二條 市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ内ニ於テ家屋内ノ給水用具ヲ検査スルコトヲ得但水道掛ハ其證票ヲ携帶スヘシ
 - 第十三條 市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋内ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ修繕ヲ爲サシムヘシ
 - 第十四條 家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徵收スルコトヲ得
 - 第十五條 家主ハ家屋内給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ届出ツヘシ水道掛ハ速ニ之ヲ検査スヘシ
 - 第十六條 市町村ハ一家專用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノノ爲メニ共用給水器ヲ設クヘシ
 - 第十六條 市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徵收スヘカラス
- 下水道法明治三十三年三月
法律第三十二號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル下水道法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 下水道法
- 第一條 本法ニ於テ下水道ト稱スルハ土地ノ清潔ヲ保持スル爲汚水雨水疏通ノ目的ヲ以テ布設スル排水

水管其ノ他ノ排水線路及其ノ附屬裝置ヲ謂フ

本法ニ於テ築造ト稱スルハ新築改築及増築ヲ包含ス

第二條 市ニ於テ下水道ヲ築造セムトスルトキハ其ノ設計工費ノ收支豫算及起工竣竣工ノ期限ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ定ムル種類ノ改築又ハ増築工事ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 下水道ヲ設ケタル地ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市又ハ土地ノ所有者使用者若ハ占有者ハ汚水雨水ヲ下水道ニ疏通スル爲必要ナル施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ
市ニ於テ前項ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スル場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ヨリ徴收スルコトヲ得

第四條 前條ノ場合ニ於テ甲地ノ汚水雨水ヲ疏通スル爲必要アルトキハ乙地ニ汚水雨水ヲ通過セシメ又ハ乙地ノ汚水雨水ヲ通過セシムル爲設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但シ乙地ノ爲ニ損害最少キ場所及方法ヲ選ムヘシ

前項ニ依リ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其ノ利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ施設及管理ノ費用ヲ負擔スヘシ

第五條 下水道ヲ築造シ若ハ之ヲ管理シ又ハ第三條ノ施設ヲ爲シ若ハ之ヲ管理スル爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ之カ爲他人ノ受ケタル損害ニ對シ償金ヲ拂フコトヲ要ス

第六條 當該吏員ハ下水道又ハ第三條ノ施設ノ實況ヲ監視スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立

入ルコトヲ得

第七條 下水道ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ
前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

第十條 市ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ町村ノ委託ヲ受ケ町村ノ全部又ハ一部ノ爲ニ其ノ下水道ヲ築造スルコトヲ得

第十一條 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ下水道ノ築造ヲ市ニ命スルコトヲ得

附則

第十二條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法ハ東京市區改正ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

第十四條 本法ノ規定ハ之ヲ區町村ニ準用ス

●下水道法施行規則三十四年七月
内務省令第二十一號

下水道法施行規則左ノ通定ム

第十二類 下水道法施行規則

下水道法施行規則

第一條 土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ左ノ區分ニ依リ下水道法第三條ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ但シ本則第二條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一 建物アル土地ニアリテハ之ヲ築造及修繕ハ其ノ建物ノ所有者

二 建物ナキ土地ニアリテハ之ヲ築造及修繕ハ其ノ土地ノ所有者

三 建物ノ有無ニ拘ハラズ之ヲ掃除及浚渫ハ土地ノ占有者

第二條 市ハ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道ニ屬スル部分ヲ築造シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ

市ハ土地ノ狀況ニ依リ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道以外ニ屬スル部分ヲ築造シ又ハ之ヲ管理スルコトヲ得

第三條 市ハ下水道ノ改築又ハ増築工事ニシテ工費壹萬圓未満ノモノニ關シテハ下水道法第二條ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第四條 當該吏員下水道法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ル場合ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 下水道法第八條第二項ノ戒告及第九條ノ費用徵收ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條 下水道ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第四條第三項及第七條ノ規定ヲ準用ス

下水道及下水道法第三條ノ施設ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ規定ヲ準用ス

第七條 東京市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

●出版著作

沿革略記

明治元年閏四月新著翻刻書類准許ヲ經ス賣買スルヲ停ム○同年六月開版書類改メ所ヲ置キ犯則者罰例ヲ定ム

●二年正月圖書開版手續ヲ定ム○同年六月出版出願ヲ昌平開成兩校ニ於テ受理セシメ出版條例ヲ頒布ス●三年二月出版免許ヲ大史ノ所轄トナシ新刻願書ハ史局ヘ差出サシム●四年八月文部省ノ所轄トナス●五年正月文部省布達ヲ以テ出版條例ヲ改定ス●八年六月第百十二號布告ヲ以テ文部省准刻事務ヲ內務省管理トス○同年九月第百三十五號布告ヲ以テ前條例ヲ廢シ更ニ出版條例ヲ制定ス●九年六月第九十號布告ヲ以テ寫眞條例ヲ定ム●二十年十二月勅令第七十六號ヲ以テ出版條例ヲ改正ス○同年同月勅令第七十七號ヲ以テ版權條例ヲ定ム○同年同月勅令第七十八號ヲ以テ脚本樂譜條例ヲ制定ス○同年同月勅令第七十九號ヲ以テ寫眞條例ヲ廢シ更ニ寫眞版權條例ヲ定ム●二十六年四月法

●出版法 明治二十六年四月 法律第十五號

律第十五號ヲ以テ出版條例ヲ廢シ更ニ出版法ヲ定ム○同年同月法律第十六號ヲ以テ版權條例ヲ廢シ更ニ版權法ヲ定ム

●三十二年三月法律第三十九號ヲ以テ著作權法ヲ定メ脚本樂譜條例、寫眞版權條例、版權法ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

出版法

第一條 凡ソ機械舍密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖書ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ルヘシ但シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ內務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ內務省ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ届出ルコトヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖書ヲ出版スルトキ若ハ著作者又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ届出ヘシ

第六條 文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條 文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條 文書圖書ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス
前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第九條 書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番付諸種ノ用紙證書ノ類及寫真ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做ス

ヘシ

第十一條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖若改正増減シ又ハ註解、附録、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條 演說若ハ講義ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作者トス但シ筆記者ニ於テ演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作者ト看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、トキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同シク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及ヒ總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ外ハ講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ「版權法」ニ據リ其ノ責ニ任セシム
第十三條 二種以上ノ著作若ハ演說講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ出版届ニ署名シタル

代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十六條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス
傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其ノ文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其發行スル文書圖書ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス若ハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ罰前條ニ同シ

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

第二十六條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作、發行者、印刷者ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ル、文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作、發行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

第三十條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其ノ差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ専ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若之ヲ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減刑、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用弗ス

第三十三條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ由テ成就ス

第三十四條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレハ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十五條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル

●著作權法明治三十二年三月法律第三十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル著作權法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

著作權法

第一章 著作者ノ權利

第二章 僞作

第三章 罰則

第四章 附則

著作權法

第一章 著作者ノ權利

第一條 文書演述圖書彫刻模型寫真其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

第二條 文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス

第三條 著作權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四條 發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作者ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

第五條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス

第六條 著作者ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第十二類 著作權法

第七條 著作権者原著物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作権者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅セス

第八條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス

一部分ツツヲ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第九條 前六條ノ場合ニ於テ著作権ノ期間ヲ計算スルニハ著作家死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十條 相續人ナキ場合ニ於テ著作権ハ消滅ス

第十一條 左ニ記載シタルモノハ著作権ノ目的物ト爲ルコトヲ得ス

- 一 法律命令及官公文书
- 二 新聞紙及定期刊行物ニ記載シタル雜報及政事上ノ論說若ハ時事ノ記事
- 三 公開セル裁判所、議會并政談集會ニ於テ爲シタル演述

第十二條 無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作権者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ

著作権者其ノ實名ノ登録ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作権ハ各著作家ノ共有ニ屬ス

各著作家ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作家中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作家ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

各著作家ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作家中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作家ハ自己ノ部分ヲ分離シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作家ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ掲クルコトヲ得ス

第十四條 數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作家ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノミ著作権ヲ有ス但シ各部ノ著作権ハ其ノ著作家ニ屬ス

第十五條 著作権者ハ著作権ノ登録ヲ受クルコトヲ得

發行又ハ興行シタル著作物ノ著作権者ハ登録ヲ受クルニ非サレハ偽作ニ對スル民事ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

著作権ノ讓渡及質入ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス無名又ハ變名著作物ノ著作家ハ其ノ實名ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第十六條 登録ハ行政廳之ヲ行フ

登録ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押ヲ受クルコトナシ但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作權者ノ同意ナクシテ其ノ著作權者ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得ス

第十九條 原著作物ニ訓點、傍訓、句讀、批評、註解、附録、圖書ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正増減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 新聞紙及定期刊行物ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説ヲ除ク外著作權者カ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得

第二十一條 適法ニ翻譯ヲ爲シタル者ハ著作權者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス翻譯權ノ消滅シタル著作物ニ關シテハ前項ノ翻譯者ハ他人カ原著作物ヲ翻譯スルコトヲ妨クルコトヲ得ス

第二十二條 原著作物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作權者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十三條 寫眞著作權ハ十年間繼續ス

前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セサルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著作物ノ著作權ト同一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ノ制限ニ從フ

第二十四條 文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作權者ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第二十五條 他人ノ囑托ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑托者ニ屬ス

第二十六條 寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ準用ス

第二十七條 著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セサルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

第二十八條 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アル者ヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限り本法ノ保護ヲ享有ス

第二章 偽作

第二十九條 著作權ヲ侵害シタル者ハ偽作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第十二類 著作權法

一九八三

第三十條 既に發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ僞作ト看做サス

第一 發行スルノ意思ナク且機械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スルコト

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト

第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲メニ正當ノ範圍内ニ於テ拔萃蒐輯スルコト

第四 文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第五 文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ説

明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六 圖書ヲ彫刻物模型ニ作り又ハ彫刻物模型ヲ圖書ニ作ルコト

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十一條 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ僞作物ヲ輸入スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十二條 練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十三條 善意ニシテ且過失ナク僞作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之カ爲ニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其

ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十四條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ僞作ニ對シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ

爲シ及自己ノ持分ニ對スル損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應シテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求ス

ルコトヲ得

第三十五條 僞作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既に發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作

權トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ著作權者ト推定ス

無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作權者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其發行者ト推定

ス

未タ發行セサル脚本及樂譜ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作權者トシテ氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其

著作權者ト推定ス

著作權者ノ氏名ヲ顯ハササルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作權者ト推定ス

第三十六條 僞作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ

依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ假ニ僞作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ差止め若ハ之ヲ差押

シ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ僞作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害

ヲ賠償スルノ責任ヲ負フ

第三十七條 罰則

第三十七條 僞作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ僞作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下

ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者並第十三條

第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 著作權ノ消滅シタル著作物ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 虚偽ノ登録ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 偽作物及専ラ偽作ノ用ニ供シタル機械器具ハ偽作者、印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限り之ヲ沒收ス

第四十四條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作ノ死亡シタルトキ並第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三十二年勅令第三百十
三號ヲ以テ十
月三十一日
施行ス

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫真版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

第四十八條 本法施行前偽作ト認メラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第四十九條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年内ニ發行スルコトヲ要ス

第五十條 本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ興行スルコトヲ得

第五十一條 第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

第五十二條 本法ハ建築物ニ適用セス

● 著作権登録方

三十二年六月 内務省令第二十八號

著作権登録ニ關スル規定左ノ通之ヲ定ム
第一條 著作権法第十五條ニ依リ登録ヲ受ケントスル者ハ内務省ニ願出ヘシ
第二條 登録願ハ著作権法第十五條第一項ノ場合ニ在リテハ第一書式、第四項ノ場合ニ在リテハ第二書式ニ依リ且ツ著作物ノ明細書ヲ添付スヘシ
明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス

- 一 著作物ノ題號
- 二 著作物ノ氏名稱號(無名著作物ニ在リテハ之ヲ要セス)
- 三 著作及發行若クハ興行ノ年月日
- 四 著作物ノ體樣(著作物ノ體樣ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル場合ハ其圖面)
- 五 無名又ハ變名著作物ノ著作人ノ實名登錄ニシテ前登錄ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前登錄ノ年月日
- 第三條 著作權ニ關スル登錄簿ハ内務省ニ備置キ内務大臣ハ第一條ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シテ官報ニ公告ス
- 第四條 何人ト雖モ登錄簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若クハ抄本ノ下附ヲ請求スルヲ得
- 前項ノ請求ヲナス者ハ著作權登錄ノ年月日若クハ登錄番號ヲ記シ願書ヲ差出シ且ツ手数料金參拾錢ヲ納ムヘシ
- 前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ用ルモトス
- 第五條 登錄簿ノ閱覽ハ内務大臣定ムル所ノ期日ニ從ヒ官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

(書式略)

●著作權者不明ノ著作物ニ關スル件三十二年六月 内務省令第二十七號

著作權者不明ノ著作物ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム
 著作權法第二十七條ニ依リ著作物ヲ發行又ハ興行セントスル者ハ其ノ由著作物ノ題號及著作人ノ氏名稱號等ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ著作人ノ氏名住所明ナル場合ハ其ノ居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告スヘシ
 前項期日ノ最終日ヨリ六箇月以内ニ著作權者ノ出テサルトキハ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

●著作權法施行ニ關スル件明治三十二年六月 勅令第三百十四號

朕樞密顧問入諮詢ヲ經テ著作權法施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 著作權法第四十八條第一項ニ依リ複製物ヲ發賣頒布セントスル者及同條第二項ニ依リ其

ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ヲ使用セントスル者ハ其ノ複製物及器械器具ニ明治三十二年九月三十日迄ニ檢印ヲ申請スヘシ

複製ニ著手シタル場合ニハ著手ノ事實ヲ前項期間内ニ届出テ複製物發行前其ノ複製物ニ檢印ヲ申請スヘシ

前項複製物ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ハ同時ニ檢印ヲ申請スヘシ

第二條 著作權法第四十九條第一項ニ依リ複製物ヲ發賣頒布セントスル者ハ同法施行前ニ翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シタルコトヲ明治三十二年九月三十日迄ニ届出ツヘシ

前項ノ複製物ヲ著作權法第四十九條第二項ノ期間滿了後ニ發賣頒布セントスル者ハ其ノ期間滿了後二箇月以内ニ其ノ複製物ニ檢印ヲ申請スヘシ

第三條 著作權法第五十條ニ依リ興行ヲ爲サントスル者ハ同法施行前既ニ興行シ又ハ興行ニ著手シタルコトヲ明治三十二年九月三十日迄ニ届出ツヘシ

第四條 檢印ヲ受ケタル器械器具ヲ用キテ複製シタル複製物ヲ著作權法第四十八條第二項ノ期間滿了後ニ發賣頒布セントスル者ハ其ノ期間滿了後二箇月以内ニ其複製物ニ檢印ヲ申請スヘシ

第五條 他ニ移轉シ難キ器械器具ニ檢印ヲ申請スルトキハ檢印ヲ受クル爲費用ヲ前納シテ官吏ノ出張ヲ請求スルコトヲ得

第六條 檢印ノ申請及届出ハ管轄地方廳ニ之ヲ爲スヘシ

第七條 地方廳ハ檢印ヲ爲シ又ハ届出ヲ受ケ其ノ目錄簿ヲ備置クヘシ

第八條 器械器具ニシテ檢印ヲ爲シ難キモノナルトキハ檢印ニ代フルノ方法ヲ用ヰルコトヲ得此ノ方法ニ關シテハ總テ本令中檢印ニ關スル規定ヲ適用ス

第九條 虛偽ノ届出ヲ爲シ又ハ虛偽ニ依リ檢印ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス虚偽ノ届出又ハ虚偽ニ依リテ受ケタル檢印ハ届出又ハ檢印ノ初ニ溯リテ效力ヲ失フ
第十條 地方廳ハ届出ヲ受ケ若ハ檢印ヲ爲シタルトキ又ハ届出若ハ檢印ノ無効トナリタルトキハ官報ヲ以テ告示スヘシ

●著作權法施行ニ關スル勅令ニ於ケル檢印申請及届出方三十二年六月 內務省令第二十六號

明治三十二年勅令第三百十四號檢印申請及届出等ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム
第一條 明治三十二年勅令第三百十四號第一條ニ依リ檢印ノ申請又ハ届出ヲ爲サントスル者ハ第一書式ニ依リ同令第二條ニ依リ檢印ノ申請又ハ届出ヲ爲サントスル者ハ第二書式ニ依リ同令第三條ニ依リ届出ヲ爲サントスル者ハ第三書式ニ依リ同令第四條ニ依リ檢印ノ申請ヲ爲サントスル者ハ第四書式ニ依ルヘシ
第二條 同令第七條ノ目錄簿ハ第一雛形ニ依リ檢印ハ第二雛形ニ依ルヘシ
第三條 地方廳ニ於テ同令第七條ノ手續ヲ爲シタルトキハ十日毎ニ內務省ニ報告スヘシ
但シ臺灣ニ在テハ臺灣總督府ヲ經由スヘシ
第四條 同令第五條ニ依リ申請者ノ負擔スヘキ官吏出張ノ費用ハ明治三十年勅令第三百三十三號內國旅費規則ニ依ル但シ臺灣ニ在テハ臺灣總督府旅費規則ニ依ル
第五條 何人ト雖モ目錄簿ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ヲナス者ハ手数料金參拾錢ヲ納ムヘシ
(書式略)

●新聞紙條例明治二十年十二月 勅令第七十五號

沿革略記

明治元年閏四月新聞紙類官許ヲ經スシテ賣買スルヲ禁ス○同年六月新聞紙類官許ナクシテ上梓及販賣スル者ノ罰例ヲ定ム●二年六月活字ニテ出版スルモノハ出版條例ニ依ラシム●六年十月第三百五十二號布告ヲ以テ新聞紙條目ヲ制定ス●八年六月第十一號布告ヲ以テ新聞紙條目ヲ廢シ更ニ新聞紙條例ヲ制定ス●十六年四月第十二號布告ヲ以テ前條例ヲ改正ス●二十年二月勅令第七十五號ヲ以テ前條例ヲ改正ス是レ現行法ナリ

朕新聞紙條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳東京府ハ警視廳ヲ經由シテ內務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 題號
- 二 記載ノ種類
- 三 發行ノ時期
- 四 發行所及印刷所
- 五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ

第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其届出ノ效ヲ失フモノトス

第六條 年齢滿二十年以上ニシテ帝國內ニ居住スル者ニアラサレハ發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス(二十二年法律第五號ヲ以テ條中改正)

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳東京府ハニ納ムヘシ

- 一 東京ニ於テハ千圓
- 一 京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
- 一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ「國立銀行」ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得
學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニアラス

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其シテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差留ヘシ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ

發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京府ハ及管轄「始審裁判所」警視廳「檢事局」ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求ヲ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辯駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルト

キハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得
正誤辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ

正誤辯駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ル、トキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ
掲載スルヲ要セス

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書
辯駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ

第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス
第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告
ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス
傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關ル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス
刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ
得ス

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非レハ詳略ニ拘ラス
之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス
第十九條 (三十年法律第九號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第二十條 (上同)

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル
トキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 外務大臣陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ外交又ハ軍事ニ關スル事項ノ記載ヲ
禁スルコトヲ得(三十年法律第九號ヲ以テ改正)

第二十三條 第二十二條第三十二條及第三十三條ニ關シ告發ヲ爲ストキハ内務大臣「又ハ拓殖務
大臣」ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ停止シ假ニ之ヲ差押ヘ其告發ニ係ル論說又ハ事項ト同一主旨ノ
論說又ハ事項ノ記載ヲ停止スルコトヲ得(三十年法律第九號ヲ以テ改正)

裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ第二十二條ノ禁令ヲ犯シ又ハ第三十二條及第三十三條ヲ犯シタル新
聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタ
ル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シ
タル場合ニ於テハ裁判所ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシム
ヘシ(三十年法律第九號ヲ以テ改正)

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ
外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス専ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ

事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠
償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル
保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳東京府ハノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其額額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ノ禁令ヲ犯シ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ(三十年法律第九號ヲ以テ改正)

第三十一條 第二十二條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ

二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス(上同)

第三十一條ノ二 第二十三條ノ停止ヲ犯ストキハ發行人編輯人ヲ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス(三十年法律第九號ヲ以テ追加)

第三十二條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス(三十年法律第九號ヲ以テ本條改正)

本條ヲ犯シタル者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條 社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス(上同)

第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三十五條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用弗ス

第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス

第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

明治三十三年五月内務省令第二十六號第一項ヲ左ノ通り改ム
 懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倅ノ方法ヲ用井シコトヲ提供スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノハ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

○第十二類 警察、衛生、社寺、著作、出版

賣買其ノ他ノ取引ニ附隨シテ富籤類似ノ方法取締方(明治三十七年三月内務省令第二號)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

明治三十三年五月内務省令第二十六號第一項ヲ左ノ通り改ム
 懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倅ノ方法ヲ用井シコトヲ提供スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノハ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

○第十二類 警察、衛生、社寺、著作、出版

賣買其ノ他ノ取引ニ附隨シテ富籤類似ノ方法取締方(明治三十七年三月内務省令第二號)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

明治三十三年五月内務省令第二十六號第一項ヲ左ノ通り改ム
 懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倅ノ方法ヲ用井シコトヲ提供スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノハ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

● 飲食物防腐劑取締規則(明治三十六年九月内務省令第十號)

飲食物防腐劑取締規則左ノ通定ム

一 飲食物防腐劑取締規則

第一條 本則ニ於テ防腐劑ト稱スルハ左ニ掲クル物質又ハ之ヲ含有スルモノヲ謂フ

- 一 安息香酸
 - 一 硼酸及其ノ鹽類
 - 一 「クロール」酸鹽類
 - 一 「フォルオール」水素及其ノ鹽類
 - 一 「フォルムアルデヒッド」
 - 一 昇汞
 - 一 亞硫酸及其ノ鹽類並次亞硫酸鹽類
 - 一 「サリチール」酸及其ノ化合物
 - 一 「チモール」
- 第二條 販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ製造又ハ貯藏ニ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

第十二類 賣買其ノ他ノ取引ニ附隨シテ富籤類似ノ方法取締方 飲食物 追加(二九五) 一九九八ノ二

防腐劑ヲ使用シタル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス
第三條 第一條ニ掲グルモノハ飲食物ノ防腐用ト稱シテ販賣シ又ハ其ノ目的ヲ以テ製造シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス
第四條 第二條第三條ノ物品ニ關シテハ地方長官ハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ
第五條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得
第六條 第二條第三條ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第七條 本則ハ明治三十七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
第八條 左ノ各號ノ場合ニハ本則施行ノ日ヨリ七箇年間本則ノ規定ヲ適用セス
一 清酒ノ製造又ハ貯藏ノ爲別ニ定ムル試驗法ニ適合スル限度マテ「サリチール」酸ヲ使用スルトキ
二 魚介獸肉ニ硼酸又ハ其ノ鹽類ヲ使用スルトキ
三 魚介ノ貯藏又ハ運搬ノ爲「サリチール」酸又ハ其ノ化合物ヲ使用スルトキ
四 前各號ニ依リ防腐劑ヲ使用シタル清酒、魚介若ハ獸肉ヲ販賣シ又ハ陳列シ若ハ貯藏スルトキ
硼酸、硼酸鹽類及「サリチール」酸ニ限リ前項ノ期間第三條ヲ適用セス
第九條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●有害性著色料取締規則中改正 明治三十七年七月
内務省令第十二號

明治三十三年四月内務省令第十七號有害性著色料取締規則中左ノ通改正ス
第一條 第一種左ニ掲クル物質ノ下ニ「其ノ化合物及」ノ六字ヲ加ヘ「又ハ」ノ二字ヲ削リ第二種ノ下ニ「左ニ掲クル物質及之ヲ含有スルモノ」ノ十六字ヲ加フ
第二條 左ノ但書ヲ加フ
但シ野菜果實類ノ貯藏品及昆布ニ其ノ一「キログラム」申銅百「ミリグラム」ヲ含有スル限度マテ銅又ハ銅含有著色料ヲ使用スルハ

此ノ限ニ在ラス

●神社寺院佛堂境内地使用取締規則 明治三十六年十一月
内務省令第十二號

神社寺院佛堂境内地使用取締規則左ノ通相定ム
第一條 神社寺院佛堂境内地使用取締規則ニ依リて神社寺院佛堂ノ承認ヲ得且地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ前條第一號ノ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要セス
一 一時限リノ使用
二 參詣人休息所等其使用三箇月以内ニ止マルモノ
三 公益ノ爲ニスル使用
第二條 前條ノ使用ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ神社寺院佛堂ノ承認ヲ得且地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ前條第一號ノ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要セス
一 事由
二 一名稱
三 構造、形狀、尺寸等ノ概要 但シ必要ニ應シ圖面ヲ添付スヘシ
四 一文字圖畫ヲ記スルモノハ其文字圖畫
五 一期限
六 一使用料
七 一坪數、位置 但シ必要ニ應シ見取圖ヲ添付スヘシ
八 前項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦前項ニ同シ
第三條 地方長官前條ノ許可ヲ與ヘントスル場合ニ於テ其事項第一條第三號ノ使用ニシテ三箇月ヲ超過スルモノナルトキハ内務大臣ノ認可ヲ稟請スヘシ
第四條 地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ其使用ヲ禁止シ又ハ其建設物ノ改造撤却其他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得
第十二類 有害性著色料取締規則中改正 神社寺院佛堂境内地使用取締規則

得

- 一 制規ノ手續ヲ經サルトキ
- 一期限ヲ經過シ又ハ許可ヲ取消シタルトキ
- 一 神社寺院佛堂ノ爲必要ナリト認メタルトキ
- 第五條 本令ニ依ル許可ハ之ヲ取消スコトヲ得
- 第六條 本令ハ建物アル遙拜所ノ境内地使用ニ付テモ之ヲ準用ス
- 第七條 本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ施行ス

●肺結核豫防ニ關スル件 明治三十七年二月 内務省令第一號

肺結核豫防ニ關スル件 左ノ通定ム

- 肺結核豫防ニ關スル件
- 第一條 學校、病院、製造所、船舶修著待合所、劇場、寄席、旅店其ノ他地方長官ノ指示スル場所ニハ適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ
 - 警察官署ハ前項配置ノ唾壺不適宜ナルカ若ハ其ノ箇數充分ナラズト認ムルトキハ期間ヲ定メテ唾壺ノ變更ヲ命シ若ハ箇數ヲ指定シテ之ヲ増置セシムルコトヲ得
 - 前項ノ唾壺ニハ唾痰ノ乾燥飛散ヲ防グ爲少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入レ置キ唾壺内ノ唾痰ハ第六條ノ方法ニ依リ消毒スルニアラサレハ投棄スヘカラス
 - 第二條 前條ノ場所ニ於テハ何人ト雖モ唾壺以外ニ唾痰ヲ略出スルコトヲ得ス
 - 第三條 地方長官ノ指定シタル鑛泉場、海水浴場、轉地療養所ニ於ケル旅店ハ左ニ掲グル事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 營業用ニ供スル寢具ハ白布ヲ以テ被包スルコト
 - 二 前號ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト
 - 三 肺結核患者若ハ其ノ疑アル患者ナルコトヲ知リタルトキハ其ノ患者ノ居室ハ消毒スルニアラサレハ他人ヲ宿泊セシメサルコト
 - 四 前號ニ掲グル患者ノ使用シタル物品ハ消毒スルニアラサレハ他人ニ使用セシメサルコト

第四條 病院ハ左ニ掲グル事項ヲ遵守スヘシ

- 一 肺結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト
- 二 肺結核患者ヲ入レタル病室ニハ消毒スルニアラサレハ他ノ患者ヲ收容セサルコト
- 三 結核病者ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物品ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト
- 第五條 監獄、官公立ノ學校、病院、養育院、育兒院、製造所、官設及私設ノ鐵道停車場、同客車ニ於テハ其ノ首長ハ本令ノ規定ニ準シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ
- 第六條 消毒方法ハ明治三十年五月内務省令第十三號ニ依ルヘシ但シ唾痰ヲ消毒スルニハ石炭酸水(二十倍)結晶石炭酸五分、鹽ヲ使用スヘシ

- 第七條 第一條第一項ニ違背シテ唾壺ヲ配置セザル者、警察官署ノ指定シタル期間ニ其ノ命令ヲ履行セザル者、同條第三項及第三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第九條 第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

- 第十條 第七條第九條ノ罰金ハ使用人其ノ他ノ從業者ノ所爲ト雖モ之ヲ其ノ首長又ハ營業者ニ科ス
- 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス
- 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス
- 第十一條 本令ノ規定ハ廳府縣令ヲ以テ肺結核豫防ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ妨ケス
- 第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ
- 第十三條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

●海港檢疫法施行規則中改正 明治三十七年八月 内務省令第十三號

第十二類 肺結核豫防ニ關スル件 海港檢疫法施行規則中改正

明治三十二年内務省令第三十四號海港檢疫法施行規則第一條第一項第二項中「下ノ關」港ノ下ニ各「若松港」ヲ加フ
附則
本令ハ明治三十七年九月一日ヨリ施行ス

追加 (三〇〇) 一九九八ノ七

●醫術開業試験規則中改正 明治三十六年十二月 文部省令第三十七號

明治十六年太政官布達第三十四號中左ノ通改正ス
第二條但書中「六箇月前」ヲ「豫メ」ト改ム
第九條中「六月十二月」ヲ「一月七月」ト改ム
第十二條中「選定シ」ヲ「選定ス」ト改メ以下削除ス
附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●藥劑師試験規則中改正 明治三十六年十二月 文部省令第三十八號

明治二十二年内務省令第三號藥劑師試験規則中左ノ通改正ス
第二條中「六箇月前」ヲ「豫メ」ト改ム
第四條中「三月、八月」ヲ「一月、七月」ト改ム
附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●牛疫檢疫規則中改正 明治三十七年五月 農商務省令第六號

明治三十三年農商務省令第五號牛疫檢疫規則中左ノ通改正ス
第二條中「檢疫」ノ下「神奈川縣橫濱港」ノ七字ヲ加ヘ「神戸港」ノ下「及」ヲ削リ「長崎港」ノ下「同縣嚴原港及山口縣下關港」ノ十二字ヲ加フ

●畜牛結核病豫防法施行規則中改正 明治三十七年五月 農商務省令第五號

明治三十六年農商務省令第四號畜牛結核病豫防法施行規則中左ノ通改正ス
第十三條中「神戸港」ノ下「及」ヲ削リ「長崎港」ノ下「同縣嚴原港及山口縣下關港」ノ十二字ヲ加フ

第十二類 醫術開業試験規則中改正 藥劑師試験規則中改正 牛疫檢疫 追加 (三〇一) 一九九八ノ八

八丁
一六五
一丁
一六五

第十三類 土地、森林 附土地收用
●地所名稱區別 明治七年十一月
第百二十號布告
沿革略記 明治六年三月第百十四號布告ヲ以テ地所名稱區別ヲ制定ス●七年十一月第百二十號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス
是レ現行法ナリ
明治六年三月第百十四號布告地所名稱區別左ノ通告定候條此旨布告候事
官有地
第一種 「地券ヲ發セス」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)
一 皇宮地 皇宮離宮等ヲ云
一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云
第二種 「地券ヲ發シ」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス「尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス」(八年第百十四號布告ヲ以テ但書改正十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ賦スルトアルナ地方稅ヲ賦セサルト改ム)
但此地ニ在ル官舎ヲ賃渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ
一 皇族賜邸
一 官用地 「官」院省「使」察「司」府「藩」縣本廳裁判所警視廳陸海軍
本營其他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云
第三種 「地券ヲ發セス」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)
「但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ賃渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ」(十二年第三十四號布告ヲ以テ借地料以下改正)

二十二年
律第十三號
ヲ以テ地券
之廢ス以下
做之

二十三年勅
令第百三十
五號官有地
特別處分規
則同年勅令

第十三類 地所名稱區別

民有地

- 一 山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサルモノ
- 一 鐵道線路敷地
- 一 電信架線柱敷地
- 一 燈明臺敷地
- 一 各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ
- 一 人民所有ノ權理ヲ失セシ土地
- 一 民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地
- 一 行刑場
- 第四種 「地券ヲ發セス」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ賦)
 - 一 寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ
- 第一種 「地券ヲ發シ」地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)
 - 一 人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云
但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰シ地開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス
 - 一 人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場林場社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云(木項ハ元第二種ナルヲ九年第八十八號布告ヲ以テ第一種ニ合ス)

但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ潰地或ハ開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第二種 「地券ヲ發シテ」地租地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(九年第八十八號布告ヲ以テ本項元第三種ナルヲ第二種ト改ム十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云フ(八年第四百十四號布告ヲ以テ本項改正)
民有ノ用惡水路溜池敷堤敷及井溝敷地(八年第五百五十四號布告ヲ以テ本項追加)
公衆ノ用ニ供スル道路(十三年第四十三號布告ヲ以テ但書共追加)
但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

●御歷代天皇皇后及皇子女御殯斂地等由緒判然タル場所地種編入方(明治八年五月內務省乙第六十六號)
御歷代天皇及皇后皇妃皇子女御殯斂地等御由緒判然タル場所ハ官有地第三種舊跡名區之部ニ編入保存可致候條御由緒等詳密調査ヲ遂ク地形坪數等明詳記載圖面相副可伺出此旨相達候事

●耕地整理法(明治三十二年三月法律第八十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル耕地整理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

耕地整理法 第一章 總則

第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ耕地ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ其ノ所有者共同シテ土地ノ交換若ハ分合、區劃形狀ノ變更及道路、畦畔若ハ溝渠ノ變更廢置ヲ行フヲ謂フ

第二條 第五條、第九條、第十條、第十二條乃至第十六條、第二十六條、第三十條乃至第三十二條及第五十一條ノ規定ハ一人ニシテ其ノ所有地ノ整理ヲ施行スル場合ニ之ヲ準用ス

第三條 耕地ニシテ特別ノ價值用途アル土地及耕地ニアラサル土地ハ其ノ所有者ノ同意アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

前項ノ土地ニシテ其ノ所有者ノ同意ヲキトキト雖整理ノ施行ニ必要ナルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得但シ府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ公用ニ供スル土地、宅地、名勝地、舊蹟地、古墳墓地、墳墓地、社寺境内地、鐵道用地及軌道用地ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 建物アル宅地又ハ鐵道用地ハ其ノ建物ノ所有者及登記ヲ爲シタル第三權利者ノ同意アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

第五條 御料地、國有地又ハ官ノ用ニ供スル土地ハ主務官廳ノ認許アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

第六條 整理施行ヲ發起セントスル者又ハ整理委員ハ市町村長ノ證明ヲ得テ整理地區ヲ管轄スル登記所、土地臺帳所管應又ハ市役所、町村役場ニ對シ無償ニテ整理ニ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得

第七條 參加土地所有者ハ整理施行中其ノ土地ヲ利用スルコト能ハサルモ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

ス但シ整理施行ノ爲溝渠、堤塘又ハ道路ノ敷地ニ充テタル土地ニ付テハ規約ヲ以テ補償ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八條 整理施行ノ爲必要アルトキハ整理地區内ノ工作物、木石等ヲ移轉シ又ハ破毀スルコトヲ得但シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第九條 整理地區ニ編入シタル土地ヲ讓受ケタル者ハ整理ニ關シテ其ノ讓渡人ノ有スル一切ノ權利義務ヲ承繼ス

第十條 整理施行ノ爲國有ニ屬スル溝渠、堤塘、道路等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ參加土地所有者ニ交付ス

整理地區内ニ開設シタル溝渠、堤塘、道路等ニシテ前項ノ規定ニ依リテ廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第十一條 參加土地所有者ニハ従前ノ土地ノ地目、面積、等位等ヲ標準トシ換地ヲ交付スヘシ但シ地目、面積、等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ従前ノ土地ト換地トノ價額ノ差ハ金錢ヲ以テ之ヲ清算ス

數筆ノ土地ヲ分合シテ換地ヲ交付スル場合ニ於テハ其ノ換地ハ各筆毎ニ之ヲ割當ツヘシ

第十二條 整理地區ニ市町村以上ニ渉ル場合ニ於テ換地トシテ交付スル一筆ノ土地ハ二市町村以上ニ渉ルコトヲ得ス

第十三條 整理施行中土地ノ區劃形狀ノ變更及道路、畦畔若ハ溝渠等ノ變更廢置ハ地目變換又ハ開墾

前ノ看做サス

第十四條 整理地區ニ編入シタル土地ノ地租ハ其ノ地區ノ全部ニ付土地臺帳ノ整理ヲ完了スルマテ從前ノ地域、地目、地價ニ依リテ之ヲ徵收ス

第十五條 整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第十六條 整理施行ヲ爲シタル爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲ストキハ登録稅ヲ免除ス

第十七條 本法ニ於テ參加土地所有者ト稱スルハ整理地區内ニ於テ第五條ノ土地ニアラサル土地ヲ所屬有スル者ヲ謂フ

第十八條 整理地區ノ屬スル市町村及其ノ鄰接市町村ニ住所ヲ有セサル參加土地所有者ハ其ノ市町村内ニ住所ヲ有スル者ニ委任シテ整理施行ニ關スル一切ノ行爲ヲ代理セシムルコトヲ得

第十九條 發起人又ハ整理委員ハ第二十二條第二十六條第四十條及第四十八條ノ認可アリタルトキハ代理人ハ二人以上ノ參加土地所有者ヲ代理スルコトヲ得

第二十條 發起人又ハ整理委員ハ第二十二條第二十六條第四十條及第四十八條ノ認可アリタルトキハ其ノ旨ヲ公告シ且之ヲ第四條ニ依ル建物所有者及土地又ハ建物ニ付登記ヲ爲シタル第三權利者ニ通知スヘシ第三十條乃至第三十二條ノ命令アリタルトキ亦同シ

第二章 發起及監督

第二十一條 整理施行ヲ發起スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 整理地區内ニ於ケル土地所有者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト

二 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ面積整理地區ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト

三 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ地價額整理地區ノ地價總額ノ三分ノ二以上ナルコト

前項ノ條件ヲ具備シタルトキハ發起人ハ整理施行ヲ發起スル旨ヲ市町村長ニ届出ヘシ

第二十二條 發起人ハ發起ノ爲必要アルトキハ市町村長ノ認許ヲ得テ他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得但シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第二十三條 發起人ハ設計書及規約ヲ作り地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出シ發起ノ認可ヲ申請スヘシ

一 整理ニ因リテ得ヘキ利益

二 整理施行ノ方法及順序

三 整理地區及之ニ鄰接スル土地ノ現形圖

四 整理豫定圖

五 工事ノ著手及竣成ノ時期

六 整理費用及夫役ノ豫算

第二十四條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 整理總會ノ招集及會議ノ方法

- 二 整理委員ノ員數、職務及職務執行方法
 - 三 處務ニ關スル規定
 - 四 補償金評定ノ標準
 - 五 發起及整理ノ費用並夫役ノ賦課徵收方法
 - 六 整理中土地使用ノ方法
 - 七 換地割當及増步地處分ノ方法
- 第二十五條 發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創業總會ヲ招集シテ設計書及規約ノ議定ヲ求ムヘシ
- 第二十六條 創業總會ニ於テ設計書及規約ヲ議定シタルトキハ發起人ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ之ヲ差出シ整理施行ノ認可ヲ申請スヘシ
- 第二十七條 整理施行ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創業總會ヲ招集スヘシ此ノ總會ニ於テハ參加土地所有者整理委員ヲ互選ス
- 第二十八條 參加土地所有者ハ整理施行ノ認可ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地ノ所有者ハ認可公告ノ日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得
- 訴願ノ裁決前ニ於テハ整理工事ニ著手スルコトヲ得ス
- 第二十九條 整理施行ノ認可アリタルトキト雖第三條第二項ノ規定ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地

アルトキハ認可公告ノ日ヨリ三十日ヲ經過スルニアラサレハ整理工事ニ著手スルコトヲ得ス

第三十條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ設計書又ハ規約ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三十一條 設計書ニ定メタル工事著手ノ期限後十二箇月以内ニ工事ニ著手セザルトキハ農商務大臣ハ整理施行ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第三十二條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ一時整理工事ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第三章 總會

第三十三條 總會ハ參加土地所有者ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十四條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ五日前ニ各參加土地所有者ニ通知ヲ發スヘシ

前項ノ通知ニハ總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ記載スヘシ

參加土地所有者ハ前二項ノ手續ニ反シテ爲シタル決議ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得但シ其ノ決議ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 總會ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外整理委員之ヲ招集ス

第三十六條 參加土地所有者ノ五分ノ一以上ニ當ル者又ハ整理地區ノ總面積若ハ地價總額ノ五分ノ一以上ニ當ル參加土地所有者ハ會議ノ目的及其ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ發起人又ハ整理委員ハ十四日以内ニ總會ヲ招集スヘシ

第三十七條 各參加土地所有者ハ一箇ノ議決權ヲ有ス

前項ノ規定ハ規約ヲ以テ一人ニ付二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ妨ケス但シ其ノ議決權ハ議決權總數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十八條 整理地區ニ編入シタル土地數人ノ共有ニ屬スルトキハ其ノ共有者ハ參加土地所有者ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムヘシ

第三十九條 農商務大臣ノ命令ニ依ラスシテ設計書若ハ規約ヲ變更シ又ハ整理施行ヲ停止若ハ廢止セントスルトキハ總會ノ決議ヲ經ヘシ

前項ニ依リ整理施行ノ停止若ハ廢止ノ決議ヲ爲ストキハ同時ニ其ノ停止中若ハ廢止後ノ處分方法ヲ決議スヘシ

第四十條 前條ノ決議アリタルトキハ整理委員ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 創業總會ノ決議並第三十九條、第四十七條及第五十三條ノ決議ヲ爲スニハ第二十條第一項ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

第四章 整理委員

第四十二條 整理委員三人以上ナルトキハ委員長一人ヲ互選スヘシ
委員長ハ整理委員ヲ代表ス

第四十三條 整理委員ハ規約ニ定メタル職務ヲ執行スルニ付參加土地所有者ヲ代表ス

第四十四條 整理委員ハ設計書及規約ノ定ムル所ニ依リ整理工事ノ施行、整理ニ關シテ生シタル債務ノ辨濟其ノ他整理施行ニ關シ一切ノ事務ヲ處理スルノ責ニ任ス(三十六年法律第十二號ヲ以テ本條改正)

第四十五條 整理委員ハ設計書、規約及總會ノ決議錄ヲ備ヘ置クヘシ
參加土地所有者及第三權利者ハ前項ノ書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第四十六條 農商務大臣ハ何時ニテモ整理委員ヲシテ整理事業ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十七條 整理工事完了シタルトキハ整理委員ハ第十一條ノ處分及増歩地ノ處分ニ關シ整理總會ノ決議ヲ經ヘシ

第四十八條 前條ノ決議アリタル時ハ整理委員ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十九條 所有權ニ關スル訴訟ノ目的タル土地ヲ整理地區ニ編入シ又ハ整理地區ニ編入シタル土地其ノ所有權ニ關スル訴訟ノ目的ト爲リタル場合ニ於テ其ノ土地ノ所有者第十一條ノ規定ニ依リ補償トシテ金錢ヲ受取ルヘキトキハ整理委員ハ當事者ノ請求ニ因リ其ノ金額ヲ供託スヘシ

第五十條 整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ整理委員ハ參加土地所有者ニ代リテ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十一條 整理事業完了シタルトキハ整理委員ハ事業報告書及收支決算書ヲ作り整理總會ノ承認ヲ求ムヘシ

整理總會前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ整理委員ハ遲滯ナク地方長官ヲ經由シテ前項ノ書類ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第五十二條 整理委員其ノ職務ヲ終リタルトキハ整理ニ關スル一切ノ書類ヲ市町村長ニ引渡スヘシ
前項ノ書類ノ保存期間ハ農商務大臣之ヲ定ム

第五十三條 整理委員ノ選任及解任ハ總會ノ決議ニ依ル

第五十四條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ整理委員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第五十五條 整理委員ハ總會ノ決議ヲ經テ特別ノ學術技藝アル者ヲ協議員ト爲スコトヲ得
協議員ハ總會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五章 第三權利者

第五十六條 第三權利者ハ整理ノ施行ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第五十七條 換地ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外從前ノ土地ニ關スル物權又ハ債權ノ目的タルモノトス

整理施行ハ從前ノ土地ニ關スル登記ノ順位ニ影響ヲ及ボサス

第五十八條 整理地區ニ編入シタル土地ニシテ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ所有者第十一條ノ規定ニ依リ補償トシテ金錢ヲ受取ルヘキトキハ整理委員ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ
先取特權者、質權者又ハ抵當權者ハ前項ノ規定ニ依リテ供託シタル金錢ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第五十九條 賃借地整理地區ニ編入セラレタル場合ニ於テ整理施行ノ爲賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ第四十八條ノ認可ノ公告アリタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ各當事者ハ相手方ニ對シテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十條 賃借地整理地區ニ編入セラレタル場合ニ於テ整理施行ノ爲其ノ土地ヲ利用スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ貸借人ニ對シテ借賃ノ減額又ハ前拂シタル借賃ノ相當ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第六十一條 整理地區ニ編入シタル土地ニ地上權者又ハ永小作權者アル場合ニ於テ整理施行ノ爲其ノ權利ヲ設定シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ地上權者又ハ永小作權者ハ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

民法第二百六十八條第一項但書ノ規定ハ地上權者前項ノ規定ニ依リテ其ノ權利ヲ拋棄シタル場合ニ之ヲ適用セス

第五十九條第一項但書ノ規定ハ地上權又ハ永小作權ノ拋棄ニ之ヲ準用ス

第六十二條 第六十條ノ規定ハ地上權及永小作權ニ之ヲ準用ス

第六十三條 整理地區ニ編入シタル土地ノ上ニ存スル地役權ハ整理施行ノ後仍其ノ土地ノ上ニ存ス
地役權者ハ整理施行ノ爲其ノ權利ヲ行使スル利益ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ地役權ハ消滅ス

整理施行ノ爲從前ト同一ノ利益ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル地役權者ハ其ノ利益ヲ保存スル範圍内ニ於テ地役權ノ設定ヲ要求スルコトヲ得

第六章 費用

第六十四條 費用及夫役ハ規約ノ定ムル所ニ依リ參加土地所有者之ヲ負擔ス
整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ日本勸業銀行又ハ農工銀行ヨリ借入レタル金額及其ノ利子ニ付テ

ハ參加土地所有者連帶シテ其ノ責ニ任ス(三十五年法律第十五號ヲ以テ本項追加)
三十六年同第十一號ヲ以テ本項改正)

第六十五條 參加土地所有者費用ヲ完納セサルトキハ市町村長ハ整理委員ノ請求ニ因リ市町村稅徵收ノ方法ニ準シテ之ヲ徵收ス(三十六年法律第十一號ヲ以テ本條改正)
前項徵收金ハ整理地區ニ編入シタル土地ニ關シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有ス
參加土地所有者夫役ヲ供給セサルトキハ整理委員ハ金額ニ算出シテ之ヲ徵收ス此ノ徵收ニ付テ亦前二項ノ規定ニ依ル

第七章 罰則

第六十六條 發起人又ハ整理委員左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ二圓以上五十圓以下ノ過料ニ處ス
一 第十九條ノ規定ニ違反シテ公告又ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
二 第二十八條第一項又ハ第二十九條ノ規定ニ違反シテ整理工事ニ著手シタルトキ
三 第三十六條第二項ノ規定ニ違反シテ總會ヲ招集セサルトキ
四 第三十九條及第四十條ノ手續ニ依ラスシテ整理施行ヲ停止シ又ハ廢止シタルトキ
第六十七條 前條ニ定メタル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス
第六十八條 整理施行ノ爲設ケタル標石又ハ標杭ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル場合ニ於テ刑法第四百二十條ニ該當セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八章 附則

第六十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得
第七十一條 北海道、沖繩縣及市制、町村制ヲ施行セサル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

●耕地整理法施行規則三十二年十二月
農商務省令第三十二號

耕地整理法施行規則左ノ通相定ム

- 第一條 整理地區内ニ於テ土地ヲ所有スル者ニ非サレハ整理施行ヲ發起スルコトヲ得ス但地方ノ狀況ニ依リ特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス
- 第二條 耕地整理法第六條ノ規定ニ依リ整理ニ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ求メントスル者ハ其理由ヲ記載シタル書面ニ市町村長ノ證明書ヲ添附シ之ヲ差出スヘシ
- 第三條 發起人ハ參加土地原簿及ヒ參加土地權利者名簿ヲ調製スヘシ
- 第四條 參加土地原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 整理地區ノ總面積及ヒ地價總額
 - 二 整理地區内ニ於ケル土地ノ筆數、面積及ヒ地價ノ地目別合計並ニ一筆平均面積
 - 三 土地各筆ノ字、番號、地目、面積、地價及等級
 - 四 土地各筆ノ價格ヲ評定シタルトキハ其價格又ハ評價ノ標準
 - 五 耕地整理法第三條ニ定メタル土地アルトキハ其價值用途
 - 六 整理地區内ノ工作物アルトキハ其表示及ヒ價格
 - 七 訴訟ノ目的タル土地アルトキハ其訴訟ノ要領

第十三類 耕地整理法施行規則

三十二年勅令第四十三號
以テ三月三十一日施行ス

八 官用又ハ公用ニ供スル土地アルトキハ其用途

第五條 參加土地權利者名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 各參加土地所有者ノ氏名、住所及ヒ其所有地ノ字、番號並ニ地目
- 二 整理地區内ノ工作物ノ所有者ノ氏名、住所及ヒ其工作物ノ表示
- 三 土地又ハ建物ニ付キ登記ヲ爲シタル第三權利者アルトキハ其氏名、住所及ヒ其登記ノ要領
- 四 耕地整理法第十八條ニ依ル代理人ノ氏名、住所

第六條 參加土地原簿又ハ參加土地權利者名簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ更正スヘシ

第七條 耕地整理法第二十條第一項第一號ノ土地所有者ノ數ヲ計算スルニ付テハ共有者ハ之ヲ一人ト看做ス

第八條 耕地整理法第二十條第一項第二號ノ整理地區ノ總面積ヲ計算スルニ付テハ御料地及ヒ國有地ハ之ヲ算入セス

第九條 耕地整理法第二十條第一項第三號ノ整理地區ノ地價額ヲ計算スル場合ニ於テ整理地區内ニ地類若クハ地目ノ轉換ヲ爲シタル土地又ハ調整地其他地價ヲ附セザル土地アルトキハ發起人ハ其現況ニ依リ整理地區内ノ土地ノ地價ヲ參酌シテ相當ノ價格ヲ評定スヘシ

發起人カ前項ノ規定ニ依リ價格ヲ評定シタルトキハ其價格及ヒ其評定ノ標準ヲ創業總會ニ報告シテ其承認ヲ求ムヘシ

第十條 發起人ハ整理地區ノ屬スル市町村内ニ事務所ヲ設クヘシ

事務所ニハ參加土地原簿、參加土地權利者名簿、設計書、規約及ヒ總會ノ決議錄ヲ備ヘ置クヘシ

第十一條 整理施行ノ發起屆書ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人ノ署名捺印スヘシ

- 一 整理地區及ヒ之ニ鄰接スル土地ノ現形略圖
- 二 整理地區内ニ於ケル土地所有者ノ總數、整理地區ノ總面積及ヒ地價總額
- 三 同意者ノ總數、其所有スル土地ノ總面積及ヒ地價總額
- 四 事務所ノ所在

第十二條 發起人カ耕地整理法第二十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入ラントスルトキハ其目的、場所、期日及ヒ土地所有者ノ氏名ヲ記載シタル願書ヲ作り之ヲ市町村長ニ差出スヘシ

發起人カ市町村長ノ認許ヲ得タルトキハ豫メ土地所有者ニ立入ノ目的、場所及ヒ期日ヲ通知スヘシ

第十三條 整理發起ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人ノ署名捺印スヘシ

一 第四條第二號乃至第五號及ヒ第十一條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項

二 整理施行後ニ於ケル土地ノ筆數及ヒ面積地目別ノ合計並ニ一筆平均面積

三 同意者ノ氏名、其所有スル土地ノ面積及ヒ地價

四 耕地整理法第三條第二項ノ規定ニ依リ所有者ノ同意ナクシテ整理地區ニ編入シタル土地又ハ特ニ整理ヨリ除外シタル土地アルトキハ其編入又ハ除外ノ理由

前項ノ申請書ニハ土地所有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十四條 耕地整理法第三條乃至第五條ノ規定ニ依リ整理地區編入ノ同意又ハ認許ヲ要スル土地ニ付テハ發起人ハ整理發起ノ認可申請書ニ其同意又ハ認許ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但國有ニ屬スル森林原野、道路、堤塘、溜池及ヒ溝渠ニ付テハ整理發起ノ認可申請書ト共ニ整理地區編入ノ認許ヲ申請スルコトヲ得

第十五條 整理工事カ府縣、郡、市、町村其他ノ公共團體ノ事業ニ關スルトキハ發起人ハ整理發起ノ認可申請書ニ其團體ノ承認ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十六條 創業總會ニ於テ設計書ヲ變更シタルトキハ前二條ノ書面ハ整理施行ノ認可申請書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ規定ハ整理施行ノ認可アリタル後設計書ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 發起人ハ特別ノ技能アル者ニ設計書及ヒ規約ノ作成ヲ囑託スルコトヲ得

第十八條 (三十四年農商務省令) 第十二條ヲ以テ削除

第十九條 土地ノ價格評定ノ標準ヲ定メタルトキハ之ヲ規約ニ記載スヘシ

第二十條 整理費用ヲ借入レントスルトキハ其借入、管理及ヒ償却ノ方法ヲ規約ニ記載スヘシ

第二十一條 整理發起ノ認可ノ公告及ヒ通知ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 整理地區ノ所在
- 二 發起認可ノ年月日
- 三 事務所ノ所在
- 四 發起人ノ氏名、住所

第二十二條 耕地整理法第二十五條ノ創業總會ニ於テハ發起人ハ發起ニ關スル一切ノ事項ヲ報告シテ其承認ヲ求ムヘシ

第二十三條 整理施行ノ認可申請書ニハ發起認可證及ヒ總會ノ決議錄ノ原本ヲ添附シ發起人ノ署名捺印スヘシ

第二十四條 整理施行ノ認可ノ公告及ヒ通知ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第二十一條ニ掲ケタル事項

二 整理工事ノ著手及ヒ竣成ノ時期

三 整理施行ノ認可ノ年月日

第二十五條 發起人ハ創業總會ノ決議録ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ(三十四年農商務省令第十號ヲ以テ第六號追加)

一 開會ノ日時及ヒ場所

二 出席シタル參加土地所有者ノ氏名

三 議事ノ要領

四 決議シタル事項

五 贊否ノ數及ヒ贊成者ノ氏名

六 贊成者ノ所有スル土地ノ總面積及ヒ地價總額

第二十六條 發起人ハ整理ニ關スル一切ノ書類及ヒ事務ヲ整理委員ニ引繼ケヘシ

第二十七條 總會ノ決議ハ耕地整理法又ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル參加土地所有者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十八條 參加土地所有者ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得但參加土地所有者ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ發起人又ハ整理委員ニ差出スヘシ

第二十九條 耕地整理法第四十條ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ決議録ノ謄本ヲ添附シ整理委員之ニ署名捺印スヘシ

第三十條 總會ノ決議認可ノ公告及ヒ通知ニハ決議シタル事項及ヒ認可ノ年月日ヲ記載スヘシ

第三十一條 整理委員及ヒ整理委員長ハ其氏名、住所ヲ農商務大臣ニ届出テ且之ヲ公告スヘシ(三十四年農商務省令第十二號ヲ以テ條中改正)

第三十二條 整理委員ノ任期ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ス

第三十三條 整理委員ハ規約ニ別段ノ定アルニ非サレハ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第三十四條 整理工事ノ著手シタルトキハ整理委員ハ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ヘシ

第三十五條 耕地整理法第二十八條ノ規定ニ依リ訴願ヲ爲シタル者ハ其旨ヲ整理委員ニ通知スヘシ(三十四年農商務省令第十二號ヲ以テ但書追加)

第三十六條 總會ノ決議録ニハ第二十五條ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ(三十四年農商務省令第十二號ヲ以テ但書追加)

但同條第六號ニ掲ケタル事項ハ耕地整理法第三十九條、第四十七條及第五十三條ノ場合ヲ除ク外之ヲ記載スルコトヲ得ス

第三十七條 整理委員ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ從ヒ地價配當案ヲ作り耕地整理法第四十七條ノ整理總會ノ決議ヲ經ヘシ

第三十八條 耕地整理法第四十八條ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ總會ノ決議録ノ謄本及ヒ整理確定圖ヲ添附シ整理委員之ニ署名捺印スヘシ

耕地整理法第十一條第二項ノ規定ニ依リ換地ヲ割當ツル場合ニ於テハ從前ノ土地ノ各筆ニ相當スル換地ノ方位及ヒ面積ヲ整理確定圖ニ示スヘシ

從前ノ一筆ノ土地ノ一部ヲ登記シタル第三權利者ノ權利ノ目的タル場合ニ於テハ之ニ代ハルヘキ部分ノ方位及ヒ面積ヲ整理確定圖ニ示スヘシ

第三十九條 前條ノ認可アリタルトキハ整理委員ハ地價配當案ニ整理確定圖ヲ添附シ所轄稅務署長ニ差出シ地價ノ配賦ヲ受クヘシ(三十六年農商務省令第十二號ヲ以テ條中改正)

第四十條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ整理事業ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十一條 整理地區内ノ土地又ハ建物ニ關シ登記ヲ爲シタルトキハ登記權利者ハ遲滞ナク其旨ヲ發起人又ハ整理委員ニ通知スヘシ

第四十二條 整理ニ關スル書類ノ保存期間ハ左ニ掲グルモノニ付テハ十年トシ其他ノモノニ付テハ五年トス

一 設計書

二 規約

三 總會ノ決議録

四 事業報告書

五 收支決算書

六 參加土地原簿

七 參加土地權利者名簿

八 整理確定圖

第四十三條 第三十一條及ヒ耕地整理法第十九條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役

所ノ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役

所ノ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役

所ノ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役

所ノ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役

所ノ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役

所ノ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役

所ノ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役

所ノ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役

所ノ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役

所ノ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役

所又ハ町村役場ノ揭示場ニ揭示スヘシ
第四十四條 發起人、整理委員又ハ參加土地所有者カ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ
第四十五條 第三條乃至第六條、第十五條、第十六條第二項、第十八條、第三十四條、第三十九條、第四十條及ヒ前條ノ規定ハ一人ニシテ其所有地ノ整理ヲ施行スル場合ニ之ヲ準用ス

附則

第四十六條 地方長官カ地方ノ狀況ニ依リ整理施行ノ方法又ハ工事ノ設計ニ關スル標準ヲ定メントストキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第四十七條 本則ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法明治三十三年三月法律第二十九號

沿革略記

明治八年七月第百三十三號達ヲ以テ公用土地買上規則ヲ定ム●二十二年七月法律第十九號ヲ以テ前令ヲ廢シ土地收用法ヲ定ム●三十三年三月法律第二十九號ヲ以テ更ニ土地收用法ヲ定メ前法ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地收用法

- 第一章 總則
- 第二章 事業ノ準備
- 第三章 事業ノ認定
- 第四章 收用ノ手續
- 第五章 收用審査會
- 第六章 損失ノ補償

- 第七章 收用ノ效果
- 第八章 費用ノ負擔
- 第九章 監督、強制及罰則
- 第十章 訴願及訴訟

附則

土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

- 一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業
- 二 官廳又ハ公署建設ニ關スル事業
- 三 教育、學藝又ハ慈善ニ關スル事業
- 四 鐵道、軌道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、電氣機、瓦斯燈又ハ火葬場ニ關スル事業
- 五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國府縣郡市町村其ノ他

公共團體ニ於テ施設スル事業

第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ宮内省又ハ國ノ起業ニ

係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ特ニ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内閣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内

務大臣ニ申請スヘシ内務大臣ハ之ヲ審査シ内閣ニ提出スヘシ
宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ協議
ヲ爲シ之ヲ内閣ニ提出スヘシ

第十四條 内閣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ郡市長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲
スコトヲ得

前項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ郡市長
ニ通知スヘシ

第十六條 起業者カ郡市長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ
期間ヲ定メ郡市長ニ申請スヘシ

第十七條 郡市長カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間
ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

郡市長カ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通
知スヘシ

第十八條 起業者カ内閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ第十九條ノ申請ヲ爲サザルトキハ其ノ認定ハ效
力ヲ失フ

第四章 收用ノ手續

第十九條 内閣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公
告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官
ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十條 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコト
ヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ二日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知ス
ヘシ

日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入ルコトヲ得ス

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ必要ト認ムルトキハ土地所有者又ハ關
係人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調査ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキハ起業者ハ市町村長ノ立
會ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得但シ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケ
タル關係ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラス

土地所有者又ハ關係人カ調査ノ必要ヲ認メタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス
起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作りタル調査ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコ
トヲ得

トヲ得ス

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求メムトスルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

一 事業計畫書及圖面

二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目

收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來

スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ豫メ公告

ヲ爲シ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許

可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 郡市長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ
第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

- 一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域
- 二 損失ノ補償
- 三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其

ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市參事會員、町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監查役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

一 府縣名譽職參事會員

二 府縣名譽職參事會員ノ補充員

三 府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者ヲ呼出シ其供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ押捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用

審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用ヒタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地

所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割

ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用非タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ

全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用非タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ

其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求

スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、塙柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築

又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通

常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用カ三箇年以上ニ亘ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地

ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又

ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ

之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ

二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ

三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ

四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス

一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ

二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ニ供スル

トキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クトモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス

第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス

府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔

トス

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條 收用審査會員人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ賄賂ヲ贈與シ又ハ贈與スルコトヲ約シタル者亦同シ

第七十六條 第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ障害物ヲ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者ハ詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑托シテ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者亦同シ

第八十條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セサルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十章 訴願及訴訟

第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

附則

第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續

其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 收用審査會ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

郡長ノ爲スヘキ職務ハ支廳長又ハ島司ヲ置キタル地ニ於テハ支廳長又ハ島司之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ヲ置カサル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

市長ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テ區長ヲ置キタル地ニ於テハ區長之ヲ行フ

町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ町村長ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ郡長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

●土地收用法施行令明治三十三年三月勅令第九十九號

朕土地收用法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地收用法施行令

第一條 土地收用法第十條第三項及第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行フ

第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

日出前日没後邸内ニ立入ル者又ハ障害物ヲ除却スル者ハ行政廳ノ許可證ヲ携帯スヘシ

第三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調書及圖面ヲ申請書ニ添付スヘシ

一 御陵墓地及御料地

二 國有地

三 現ニ公用ニ供スル土地

四 社寺境内地

五 名所、舊蹟及古墳墓

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條 内閣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告スヘシ

第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依リ調書ヲ作りタル者ハ之ニ署名又ハ捺印スヘシ

第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ縦覽期間ノ始期ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

一 工事ノ種類

二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目

三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係

本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十一條 收用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス

第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル

高等文官ニ非サル委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル

第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ左ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

一 汽車賃一哩ニ付三錢以上六錢以下

二 船賃一海里ニ付三錢以上六錢以下

三 車馬賃一里ニ付十錢以上三十錢以下

通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金一圓乃至五圓ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル

所ニ依ル

鑑定ヲ爲スニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第十五條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官カ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 土地收用法第五十六條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置ニ關シテハ之ヲ郡市長ニ委任スルコトヲ得

第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條 土地收用法第七十四條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令明治三十三年三月 勅令第三百號

朕土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本令ハ土地收用法又ハ土地收用法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテ之ヲ適用ス

第二條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス

第三條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス

第四條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス但シ行政廳ニ對スル期間ハ其ノ末日カ行政廳ノ休日ニ當ルトキハ其ノ休日ノ終了シタル翌日ヲ以テ滿了ス

第五條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

週、月又ハ年ノ始メヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス

第六條 土地收用法第十八條第二十五條及第三十四條ノ期間ハ郵便ニ依リ書類ヲ差出シタル場合ニ於テハ其ノ遞送ニ要スル日時ヲ算入セス

第七條 通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ内務大臣カ定メタル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條 書類ノ送達ニシテ送達者自ラ送達セサル場合ニ於テハ使丁又ハ書留郵便ニ依ルコトヲ得

第九條 數人カ一人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ一通ノ書類ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

一人カ數人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十條 委任ニ因ル代理人アル場合ニ於テモ其ノ委任者ニ爲シタル送達ハ其ノ效力ヲ妨ケス

第十一條 無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲スヘシ但シ委任ニ因ル代理人アルトキハ此ノ限ニ在ラス

法人又ハ組合ニ對スル送達ハ其ノ代表者又ハ業務執行者ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ代表者又ハ業務執行者數人アル場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

組合ニシテ業務執行者ヲ定メサル場合ニ於テハ送達ハ其ノ組合員ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 現役及召集中ノ豫備、後備ノ軍籍ニ在ル下士以下ノ軍人ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十三條 在監人ニ對スル送達ハ其ノ監獄ノ首長ニ之ヲ爲スヘシ

第十四條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ現所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ送達ヲ受クヘキ人カ其ノ地ニ於テ住所、居所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テ其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ適用セス

第十五條 送達ヲ受クヘキ人其ノ住所、居所又ハ事務所ニ在ラサルトキハ其ノ送達ハ現場ニ在ル成年ノ同居者又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十一條第二項ノ場合ニ於テ代表者又ハ業務執行者事務所ニ在ラサルトキハ送達ハ現場ニ在ル

他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ送達ハ交付スヘキ書類ヲ其ノ地ノ市町村長ニ預ケ送達ノ告知書ヲ作り之ヲ住所又ハ居所ノ門戸ニ貼付シ且近鄰ニ住居スル者二人以上ニ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 法令上ノ理由ナクシテ送達書類ヲ受領セス又ハ受領スルコト能ハサルトキハ其ノ書類ヲ送達ノ場所ニ差置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十七條 書類ノ送達ヲ受領シタル者ハ其ノ場所及年月日時ヲ記載セル受領證ヲ交付スヘシ前項ノ受領證ヲ交付セス又ハ交付スルコト能ハサルトキ又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲シタルトキハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十八條 送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所又ハ事務所不明ナルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地所在ノ市町村長ニ於テ之ヲ公告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ公告ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタルトキハ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

第十九條 書類ノ送達ニ關スル規定ハ通知ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 訴願及訴訟提起期間ノ計算法ハ訴願法行政裁判法及民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス

第二十一條 書留郵便ニ依リテ爲ス送達ニ付テハ郵便ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會明治三十三年三月 勅令第三百一號

朕土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 合同收用審査會ヲ開カムトスルトキハ關係地方長官協議ヲ爲シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二條 合同收用審査會會長ハ開會地ノ地方長官ヲ以テ之ニ充テ其ノ委員ハ關係府縣收用審査會委員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 土地收用法第二十六條乃至第二十九條ニ規定シタル地方長官ノ職權ハ合同收用審査會ヲ開キタル場合ニ於テハ開會地ノ地方長官之ヲ行フ

第四條 合同收用審査會ノ費用ニシテ府縣ノ負擔スヘキモノノ中高等文官ニ非サル委員ノ旅費ハ其ノ所屬府縣ノ負擔トシ其ノ他ハ關係府縣ノ分擔トス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第六十九條ニ依リ發スル命令明治三十三年三月 勅令第三百二號

朕土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 收用審査會ノ費用中左ニ掲ケタルモノハ起業者ノ負擔トス

- 一 鑑定及事實參考人ノ旅費及手當
 - 二 裁決書謄本ノ調製費
 - 三 郵便及電信料
 - 四 傭人料
 - 五 其ノ他内務大臣ノ指定シタルモノ
- 第二條 收用審査會ノ費用中收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨ス
- 第三條 土地收用法第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令明治三十三年三月勅令第三百三號
 - 土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ引續キ國有ニ屬スル土地ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ヲ除クノ外土地收用法第八十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス
- 一 公用土地買上規則第四則但書又ハ第八則ノ規定ニ依ラスシテ買上ケタル土地
 - 二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ土地收用法施行ノ際現ニ修理保存費ヲ負擔スル土地

三 明治三十二年勅令第三百三十三號第一條ノ規定ニ依リ帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ所有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ土地

四 土地收用法施行前不用ニ歸シタル土地

五 土地收用法施行前第三者ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタル土地

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地區劃改良ニ係ル地價明治三十年四月法律第三十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル土地區劃改良ニ係ル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ノ許可ヲ受ケ土地改良ノ爲市町村内ノ土地所有者ノ全部又ハ一部共同シテ其ノ區劃形狀ヲ變更スルトキハ其變更ニ係ル土地ノ地價ハ現地價ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦シ之ヲ定ム

同一土地所有者ニシテ地續數筆ノ土地ノ區劃形狀ヲ變更スルトキ亦同シ

前二項ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタル土地中地目若ハ地類變換後五年、開墾著手後九年ヲ經過セサルモノ又ハ歛下年期、新開免租年期、地價据置年期、荒地免租年期若ハ低價年期ヲ有スルモノアルトキハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル(三十三年法律第六十號ヲ以テ本項追加)

- 一 地目變換地ニシテ地價ノ修正ナキモノ、地類變換若ハ開墾ヲ爲シタル土地又ハ歛下年期、新開免租年期若ハ地價据置年期ヲ有スル土地ハ事業著手ノ際其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正シ又ハ

地價ヲ設定ス

二 第一號ニ依リ地價ヲ修正シ又ハ地價ヲ設定シタル土地ニ付テハ變換後六年目、開墾著手後十年目若ハ年期明ニ至リ修正地價又ハ設定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ事業竣功ニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三 事業竣功ニ至リタルトキハ第一號ニ記載シタル土地及地目變換地ニシテ地價ノ修正アリタルモノニ付テハ修正地價又ハ設定地價ヲ以テ、荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル土地ニ付テハ原地價ヲ以テ第一項ニ規定スル現地價トス

四 第一項ニ依リ地價ヲ定メタル場合ニ於テ第三號ニ依リ修正地價、設定地價又ハ原地價ヲ以テ第一項ノ現地價トシタル土地ニシテ事業竣功ノ時變換後五年、開墾著手後九年ヲ經過セサルモノ又ハ年期ノ終了セサルモノアルトキハ事業關係者ハ其ノ協議ヲ以テ殘年開修正地租若ハ低減地租ト從前ノ地租若ハ原地租トノ差額ノ負擔若ハ利益又ハ免除スヘキ地租額ノ利益ヲ受クヘキ土地及金額ヲ定メ政府ニ申告シ其ノ金額ヲ加除シテ其ノ土地ノ地租ヲ納ムヘシ協議一致セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ定ム

●土地改良ノ爲メ區劃形狀ノ變更ヲ爲サントスル者ノ出願方三十年十一月
大藏省令第十九號

明治三十年法律第三十九號ニ依リ土地改良ノ爲メ區劃形狀ノ變更ヲ爲サントスル者ハ事業著手ノ時期ヲ定メ設計書、現地圖及變更豫定圖ヲ添付シ所轄稅務署長ニ願出ツヘシ但シ出願地中ニ官有地又ハ民有第二種地ヲ包含シ之レカ異動ニ付官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其異動ニ付豫メ主管廳ノ許可ヲ受ケ其指令書ヲ添付スヘシ(三十二年大藏省令第八號三十五年
同第二十八號ヲ以テ本令中改正)前項ニ依リ許可ヲ得タル事業竣功シタルトキハ地價ノ配賦ヲ受クル爲メ各筆ノ區域ヲ豫定シ其假定期間ヲ記載シタル書面ニ地圖野

取圖ヲ添付シ所轄稅務署長ニ届出ツヘシ

但シ改良地區域内ニ地目又ハ地類變換後五年開墾著手後九年ヲ經過セサル土地若ハ餘下年期、新開免租年期、地價据置年期、荒地免租年期又ハ低價年期ノ終了セサル土地アルトキハ殘年開修正地租若ハ低減地租ト從前ノ地租若ハ原地租トノ差額ノ負擔若ハ利益又ハ免除スヘキ地租額ノ利益ヲ受クヘキ土地及其ノ土地ニ對スル金額ヲ定メテ併セ届出ツルコトヲ要ス

●北海道國有未開地處分法明治三十年三月
法律第二十六號

沿革略記 明治五年十月第三十四號ヲ以テ北海道土地賣貸規則ヲ公布ス●十九年六月閣令第十六號ヲ以テ前則ヲ廢シ北海道土地拂下規則ヲ定ム●三十年三月法律第二十六號ヲ以テ前則ヲ廢止シ北海道國有未開地處分法ヲ制定ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道國有未開地處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道國有未開地處分法

第一條 北海道國有未開地ノ賣拂、付與、交換及貸付ノ處分ハ此ノ法律ニ依ル

第二條 前條ノ賣拂及貸付ハ此ノ法律ニ於テ特ニ規定スル場合ノ外競争ニ付セス

第三條 開墾牧畜若ハ植樹等ニ供セムトスル土地ハ無償ニテ貸付シ全部成功ノ後無償ニテ付與スヘシ

前項ノ貸付地面積ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ貸付地ハ全部成功ニ至ラスト雖土地整理上支障ナシト認ムル場合ニ於テハ其ノ成功地ノ全部若ハ一部ヲ付與スルコトヲ得

第四條 公用若ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セムトスル土地ハ直ニ賣拂、付與又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五條 市街地、市街豫定地其ノ他土地ノ狀況ニ由リ必要ト認ムル土地ハ競争ニ付シ直ニ賣拂フコト

ヲ得

第六條 社寺地又ハ墓地ニ供セムトスル土地其ノ他事業ノ目的ニ由リ必要ト認ムル土地ハ直ニ賣拂フコトヲ得

第七條 素地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償若ハ無償貸付ヲナスコトヲ得

第八條 民有地ト交換スルコトヲ得ヘキ土地ハ其ノ評定價格相均キモノニ限ル

第九條 土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

無償貸付 十箇年

有償貸付 十五箇年

植樹又ハ泥炭地ノ開墾ニ限リ特ニ二十箇年以内ノ期間ヲ以テ貸付スルコトヲ得

天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ由リ貸付期間内ニ成功スルコト能ハサルトキハ貸付期間ノ半期間

マテ延期スルコトヲ得

第十條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ豫定ノ事業成功ノ程度ニ從ヒ隨時其ノ成否ヲ點檢シ豫定ノ如ク成功セサルトキハ未成功地ノ全部ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部若ハ全部ヲ無償

ニテ返還セシムルコトアルヘシ

第十一條 貸付地ニシテ公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セムトスルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ建設物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ノ請求ニ由リ評定ノ上移轉料ヲ辨償シ又ハ評定價格ヲ以テ之ヲ買收シ且土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ハ之ヲ辨償スルモノトス但シ第三條ニ依リ貸付シタル土地ニ關シテハ其ノ評定價格土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ヨリ多額ナルトキハ其ノ價格ニ由リテ辨償スルモノトス

前項ニ掲クル總テノ費用ハ起業者ノ負擔トス

第十二條 左ノ場合ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ由ルモノ、外賣拂、付與及貸付處分ヲ取消スモノトス但シ賣拂ニ係ルモノハ其ノ既納ノ代價ヲ還付スヘシ

一 第三條ニ依リ貸付シタル土地ニシテ一箇年以内ニ事業ニ着手セサルトキ

二 第四條及第六條ニ依リ賣拂、付與又ハ有償貸付ヲナシタル土地ニシテ三箇年以内ニ豫定ノ目的

ニ使用セサルトキ

三 第四條及第七條ニ依リ無償貸付ヲナシタル土地ニシテ二箇年以内ニ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

第十三條 左ノ場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシムルモノトス

一 第三條ニ依レル貸付中ノ土地ヲ自己ノ便宜ニヨリ貸付期間内ニ返還シ又ハ第十條ニ依リ返還セ

シメタルトキ

二 第四條及第七條ニ依リ無償ニテ貸付シタル土地ヲ豫定ノ目的ニ使用セシテ返還シ又ハ第十二

條ノ處分ヲナシタルトキ

第十四條 第十條ニ依リ貸付地ヲ返還セシメ若ハ自己ノ便宜ニヨリ貸付中ノ土地ヲ返還シタル場合又

ハ第十二條ニ依リ賣拂、付與及貸付處分ノ取消ヲナシタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル建設物其
ノ他ノ物件アルトキハ所有者ハ行政廳ノ定メタル期間内ニ於テ之ヲ除去スヘシ若其ノ期間内ニ除去
セサルトキハ其ノ物件ハ國ノ所有ニ歸ス

第十五條 左ノ貸付地ニ限り行政廳ノ許可ヲ得テ其ノ貸付地ノ上ニ有スル權利ヲ債務ノ擔保ニ供シ又
ハ賣買、讓與スルコトヲ得

一 第四條及第七條ニ依レル有償貸付地

二 行政廳ニ於テ特ニ指定シタル區域内ニ於ケル貸付地

三 命令ヲ以テ定メタル事項ニ該當スル貸付地

第十六條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ貸付期間滿了後一箇年以内ニ其ノ土地ノ付與ヲ請求スヘシ
一箇年ヲ經過シテ請求セサルトキハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 第三條ニ依リ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ土地ノ全部ヲ成功スルニ非サレハ他ノ土地ノ無償貸
付ヲ受クルヲ得ス但シ相當ノ資力アリテ成功スルヲ得ル者ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 此法律ニ依リ賣拂、付與又ハ交換シタル土地ハ其ノ民有トナリタル年ノ翌年ヨリ二十箇年
ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス

此ノ法律ニ依リ土地ノ付與ヲ受ケタル者ニ限り六箇月以内ニ其ノ登記ヲ請フトキ及土地臺帳ニ登錄
スルトキハ其ノ登録稅ヲ免除ス(三十二年法律第一號ヲ以テ本項追加)

第十九條 第十條及第十二條ノ處分ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

附則

第二十條 此ノ法律ハ明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則ニ依リ貸付中ノ土地ニ對シテモ之
ヲ適用ス但シ此ノ法律施行前牧畜ノ爲ニ貸付シタル土地ニ限り五箇年以内貸付期間ヲ延期スルコト
ヲ得

第二十一條 此ノ法律施行ノ爲必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則及其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル成規ハ此ノ法
律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十三條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

●北海道國有未開地貸付地面積制限明治三十年四月
勅令第九十八號

朕北海道國有未開地處分法第三條ニ依レル貸付地面積制限ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道國有未開地處分法第三條ニ依レル貸付地ノ面積ハ一人ニ付左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 開墾ニ供スル土地 百五十萬坪

二 牧畜ニ供スル土地 二百五十萬坪

三 植樹ニ供スル土地 二百萬坪

會社又ハ組合ニ對シテハ前項地積ノ二倍迄ヲ貸付スルコトヲ得

●屯田兵土地給與規則明治二十三年九月法律第七十九號

朕屯田兵土地給與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

屯田兵土地給與規則

第一條 屯田兵トシテ北海道ニ移住スル者ニハ一戸凡ソ一萬五千坪ノ土地ヲ給ス其ノ下士ニ任セラレタルトキハ凡ソ五千坪ノ土地ヲ増給ス

屯田兵出身ニアラサル下士ニシテ屯田兵條例ニ依リ服役スル者ニハ凡ソ二萬坪ノ土地ヲ給ス

第二條 移住ノ屯田兵二百五十戸以内ヲ以テ屯田兵村トシ一戸凡ソ一萬五千坪ノ割合ヲ以テ戸數ニ應シ其ノ村ノ公有財産トシテ土地ヲ給ス

公有財産ノ管理利用並ニ開墾ノ事ハ「屯田兵司令官」ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ハ服役中其滿期ノ年ヨリ十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

第四條 移住ノ年ヨリ三十年間ハ屯田兵ニ給與シタル土地ノ讓渡若ハ質入書入ハ無効トス且強制執行ヲ之ニ施スコトヲ得ス

第五條 屯田兵ニ給與シタル土地ニシテ移住ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キテ開墾セサル部分ハ沒收ス

第六條 屯田兵ニシテ召募ノ條件ニ違背シ其ノ他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサルトキハ其ノ給與シタル土地ヲ沒收ス

前項ニ依リ土地ヲ沒收スルトキハ給與ノ建物及其ノ土地ニ定著スル給與ノ物件ハ併セテ之ヲ沒收シ其ノ他ノ建物及物件ハ期限ヲ定メテ之ヲ取除カシム若期限迄ニ取除カサルトキハ競賣ニ附シ其ノ費

用ヲ引去リ殘額ヲ交付ス(二十八年法律第二十號ヲ以テ本項追加)

第七條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵ニ給與ノ土地本則第一條ノ坪數ニ及ハサルモノハ之ニ滿ツル迄追給ス

其ノ屯田兵村ニハ公有財産トシテ土地ヲ給ス其坪數及管理ノ方法等ハ本則第二條ノ例ニ依ル

第八條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵及屯田兵村ニ給與ノ土地ハ服役中及其ノ滿期ノ年ヨリ二十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

明治十七年ヨリ同二十一年マテニ召募シタル者ニ係ルモノハ第三條ノ例ニ依ル

第九條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレタルトキハ給與ノ土地ハ其ノ兵役相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム(三十年法律第四十一號ヲ以テ本條以下追加)

第十條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレ兵役相續人ヲ缺クトキハ其ノ給與ノ土地ハ家督相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

前項ノ所有權ハ後日兵役ヲ相續スル者アルトキ之ヲ其ノ服役者ニ移スモノトス

第十一條 前條ノ場合ニ於テ家督相續人定マラサルトキハ其ノ問家族ヲシテ其ノ土地ヲ保管セシム

第十二條 此ノ規則中屯田兵ニ關スル規程ハ第十條第一項及第十一條ニ依リ給與ノ土地ヲ所有若クハ保管スル者ニモ之ヲ適用ス

●屯田兵給與地取扱規則明治二十八年十一月勅令第百五十三號

第十三類 屯田兵土地給與規則 屯田兵給與地取扱規則

朕屯田兵給與地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

屯田兵給與地取扱規則

- 第一條 屯田兵移殖地ノ區域ヲ定メントスルトキハ其ノ概測圖ヲ添へ陸軍大臣ヨリ之ヲ内務大臣ニ協議スヘシ
- 第二條 前條移殖地ノ區域定リタルトキハ陸軍大臣ハ給與地積ト其ノ區域内ニ於テ公用ニ供スヘキ地積等ヲ區分シ其ノ略圖ヲ添へ土地ノ引渡ヲ内務大臣ニ請求シ内務大臣ハ北海道廳長官ニ合達シ北海道廳長官ハ實測圖ヲ添へ之ヲ第七師團監督部長ニ引渡スヘシ(三十年勅令第四百五十號ヲ以テ條中改正)
- 第三條 前條土地ノ引渡ヲ受ケタルトキハ第七師團監督部長ハ屯田兵土地給與規則ニ依リ屯田兵及屯田兵村ニ給與スヘキ土地及其ノ他ノ土地ノ區畫割ヲ爲シ第七師團長ニ移シ師團長ハ官有トシテ存置ヲ要スル土地竝ニ道路堤塘溝渠等ニ充ツヘキ部分ヲ除キ其ノ他ノ土地ヲ屯田兵及屯田兵村ニ給與スヘシ(上同)
- 第四條 第七師團監督部長ハ前條ノ區畫割ヲ爲スニ際シ道路堤塘溝渠等ノ計畫竝ニ工事ノ仕様ニ關シテハ北海道廳長官ニ協議スヘシ爾後其ノ新設又ハ變更ニ於ケルモ亦同シ(上同)
- 第五條 第七師團長ニ於テ土地ヲ給與シタルトキハ同時ニ其ノ土地竝ニ官有ニ屬スル道路堤塘溝渠等ノ明細圖面ヲ添へ左ノ事項ヲ北海道廳長官ニ移牒スヘシ(上同)
 - 一 給與シタル年月日
 - 二 給與シタル人名及其ノ住所竝ニ服役滿期ノ年月

- 三 公有財産トシテ給與シタルトキハ其ノ村名竝ニ當該兵村屯田兵服役滿期ノ年月
- 四 給與シタル土地ノ地名地目地積及地番號
- 五 道路堤塘溝渠等ヲ設置シタルトキハ其ノ地名地目地積及地番號
- 第六條 北海道廳長官前條ノ移牒ヲ受ケタルトキハ屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ヲ民有地ニ編入スヘシ

第七條 北海道廳長官ニ於テ公益ノ爲メ屯田兵移殖地ノ一部ヲ使用スルノ必要アルトキハ之ヲ第七師團監督部長ニ協議シ各其ノ所管大臣ニ具申スヘシ(三十年勅令第四百五十號ヲ以テ條中改正)

第八條 屯田兵移殖地若クハ屯田兵村内ノ道路堤塘溝渠等ノ興廢ニシテ其ノ工事兵村ノ利害ニ止ラサルモノハ北海道廳長官之ヲ施行ス

第九條 屯田兵土地給與規則第五條ニ該當スル土地ノ沒收ハ北海道廳長官之ヲ施行ス

同規則第六條ニ該當スル土地ノ沒收ハ第七師團長之ヲ施行ス(三十年勅令第四百五十號ヲ以テ條中改正)

第十條 北海道廳長官本則第六條ノ手續ヲ履行シ若クハ第九條第一項ノ處分ヲ爲シタルトキハ第七師團長ニ通知シ所管郡區長ニ示達スヘシ(上同)

第十一條 左ニ掲クル土地其ノ所要ヲ終リタルトキ又ハ本則第九條第二項ノ處分ヲ爲シタルトキ其ノ土地ハ公有財産トシテ兵村ニ給與スルコトヲ得但公有財産トシテ既ニ給與シタル土地ヲ併セ屯田兵土地給與規則第二條ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス(上同)

一 官有建物所要地

二 練兵場

三 射的場

四 軍事教育用ノ作業場

前項ノ土地ノ全部若ハ一部ヲ兵村ニ給與シ又ハ給與セサル場合ニハ師團長ヨリ第五條ノ事項第九條第
二項ニ依
リ處分シタル土地ニ係ルト
キハ其ノ處分ノ事由ヲヲ記シ之ヲ北海道廳長官及第七師團監督部長ニ移牒シ監督部長ハ其ノ給與セ
サル土地ニ付テハ明細圖ヲ添ヘ陸軍大臣ニ報告スヘシ(三十年勅令第四百五
十七號ヲ以テ改正)

附則

第十二條 本則ハ從前北海道廳長官ヨリ第七師團長ヘ引渡シタル土地ニモ亦之ヲ適用ス但第七師團長
ハ本則施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ第五條ノ手續ヲ爲スヘシ(上同)

● 沖繩縣土地整理法明治三十二年三月
法律第五十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル沖繩縣土地整理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣土地整理法

第一條 沖繩縣ニ於ケル土地ハ此ノ法律ノ定ムル所ニ依テ之ヲ整理ス

第二條 村ノ百姓地、地頭地、「オエカ」地、「ノロクモイ」地、「上納田」、「キナワ」畑ニシテ其ノ村ニ於テ地
割セル土地ハ地割ニ依リ其ノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス但シ其ノ配
當ヲ受クヘキ者多數ノ協議ニ依リ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ地割替ヲ爲スコトヲ得

村カ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ地割シタル土地ニシテ第六條第一項但書ニ依リ村ノ所有トナルヘキ
モノ及間切ノ仕明地ヲ間切内各村ニ分配地割シ又ハ村ノ仕明地ヲ其ノ村ニ於テ地割シタル土地ニ付
テモ亦前項ニ同シ

第三條 地割配當ノ統竝ノ爲現ニ叶米若ハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ受クヘキ者ニハ其ノ叶米若ハ之ニ代
ハルヘキ報償ヲ負擔スヘキ者ヨリ相當ノ土地ヲ交付シ又ハ代償ヲ爲スコトヲ要ス

村カ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ地割シタル土地ニシテ村ノ所有トナラサルモノノ配當ヲ受ケタル者
又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ニハ其ノ村持地ノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ヨリ
相當ノ土地ヲ交付シ又ハ代償ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 村ノ百姓地、地頭地、「オエカ」地、「ノロクモイ」地ヲ其ノ村ニ於テ屋敷地トシテ配當シタルモ
ノハ其ノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

村カ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ屋敷地トシテ配當シタル土地ニシテ第六條第一項但書ニ依リ村ノ所
有トナルヘキモノニ付テモ亦前項ニ同シ

第五條 屋敷地配當ノ統竝ノ爲現ニ叶米若ハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ受クル者及村カ浮掛又ハ叶掛ヲ受
ケテ之ヲ屋敷地トシテ配當シタル土地ニシテ村ノ所有トナラサルモノノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ
權利ヲ承繼シタル者ニ付テハ第三條ノ例ニ依ル

第六條 村ノ百姓地、地頭地、「オエカ」地、「ノロクモイ」地、「キナワ」畑ニシテ村又ハ與ヨリ浮掛又ハ
叶掛ヲ爲シタルモノハ其ノ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ於ケル地割ノ配當ヲ受クヘキ者ノ共

有トス但シ叶米若ハ之ニ代ハルヘキ報償不納ノ場合ノ外取戻スコトヲ得サル浮掛又ハ叶掛ノ土地ハ村又ハ與ヨリ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ占有ヲ得タル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス
前項ニ依リ共有トナルヘキ土地ニ付此ノ法律施行前ニ成立セル浮掛又ハ叶掛ノ關係ハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍存續ス

第一項ニ於ケル共有者ノ持分ハ第二條ニ於ケル地割ノ率ニ依ル

第一項但書ニ依リ所有ヲ得タル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ對シ報償ヲ爲シ且第二十三條ニ依リ地租ヲ徵收セラルル迄從前ノ叶米又ハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ交付スルコトヲ要ス

第七條 藩制ノトキ地頭ノ自作シ若ハ拾掛ヲ爲シタル地頭地ニシテ村持トナラサルモノハ其ノ自作者若ハ拾掛ニ依リ占有ヲ得タル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第八條 藩制ノトキ地頭ノ質入シタル地頭地ニシテ村持トナラサルモノハ質取主又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

前項ニ依リ所有ヲ得タル者ハ質入主ニ對シ其ノ債權ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

第九條 「ノロクモイ」地ニシテ村持トナラサルモノハ「ノロクモイ」トシテ占有ヲ得タル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十條 墓地及其ノ附屬地ハ朱引等ヲ有スヘキ者ノ所有トス

第十一條 仕明請地、仕明知行地、請地、拂請地、拜領地及那霸、首里兩區内ノ屋敷地ハ手形、差出

等ヲ有スヘキ者ノ所有トス

第十二條 埋立地及濱山野ニシテ此ノ法律施行前埋立又ハ開墾ノ成功シタルモノハ其ノ埋立又ハ開墾ヲ爲シタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十三條 間切山野、村山野、浮得地、保管地、馬場、牧場及間切役場ノ敷地等ハ其ノ區、區ノ字、間切、村又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十四條 村持地ニシテ村ヨリ讓渡シタル事實アルモノハ讓受人又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十五條 期限ヲ定メスシテ開墾ヲ許可シタル柚山ハ第十八條ノ規定ニ拘ハラズ其ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十六條 永久ニ交換シタル土地ハ其ノ引渡シタル土地ノ名義ニ依テ前各條ヲ適用ス

第十七條 前各條ニ該當セサル土地ニシテ民有ト認ムヘキ事實アルモノハ第二條以下ノ規定ニ準シ處分ス

第十八條 柚山、川床、堤防敷、道路敷及其ノ餘地其ノ他民有ト認ムヘキ事實ナキモノハ總テ官有トス

柚山ノ保護管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ規定スルモノノ外從來ノ慣行ニ依ル

第十九條 此ノ法律ニ依リ協議シタル事項ハ當該官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 此ノ法律ニ依リ民有トナリタル土地ハ便宜區畫シテ地盤ヲ丈量シ每筆其ノ品位等級ヲ詮定

シ所得ヲ審査シ其ノ土地ノ情況ニ應シテ地價ヲ定ム

第二十一條 土地整理ニ關スル處分ニ付不服アル者ハ處分ヲ受ケタル後九十日以内ニ當該官廳ニ申立ツルコトヲ得但シ第十九條ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第二十二條 前條ノ申立ニ對スル處分ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十三條 地租條例及國稅徵收法ハ勅令ヲ以テ期日ヲ定メ漸次沖繩縣ニ施行ス但シ社寺地、拜所ハ地租ヲ免除ス

第二十四條 沖繩縣ニ於ケル地租ノ納期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 此ノ法律ノ施行ニ關シテハ伊江島、伊平屋島、粟國島、渡名喜島、鳥島ハ間切ニ準シ與那國島ハ村ニ準ス

附則

第二十六條 沖繩縣ニ於テ土地ニ關シ舊慣ニ據リ徵收スル國稅ハ第二十三條ニ依リ地租ヲ徵收スル年ヨリ之ヲ廢止ス

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

●沖繩縣土地整理法中報償ニ關スル件明治三十二年六月勅令第三百四號

朕沖繩縣土地整理法中報償ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 沖繩縣土地整理法第六條第一項但書ニ依リ土地ノ所有權ヲ得タル者ノ交付スヘキ報償額

ハ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ交付シタル叶米又ハ之ニ代ハルヘキ報償ノ三箇年分トス但シ叶米其ノ他金錢ニアラサル報償ハ關係者ノ協議ニ依リ之ヲ金錢ニ換算シテ交付スルコトヲ得

第二條 前條ノ報償額ハ其ノ土地ニ付地租條例ニ依リ始メテ地租ヲ課セラルル年ニ於テ之ヲ交付スヘシ但シ其ノ年ヨリ年賦ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ毎年ノ交付額ハ從來ノ叶米又ハ之ニ代ハルヘキ報償年額ヲ下ルコトヲ得ス

第三條 前二條ハ沖繩縣土地整理法第十七條ニ依リ同法第六條第一項但書ニ準シテ土地ノ所有權ヲ得タル者ニ準用ス

●國有林野法明治三十二年三月法律第八十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國有林野法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野法

第一條 此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ

第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ及第十五條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之カ組換ヲ爲スコトヲ得組換ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ更ニ國有

林野ニ編入ス

社寺土地ニシテ其ノ境内ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ得

第四條 國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日ヲ定メ鄰接地所有者ニ通告シテ其ノ立會ヲ求め施行スヘシ

鄰接地所有者豫定期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ當該官廳ハ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第五條 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ鄰接地所有者ニ通告スヘシ

第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障木竹ヲ伐採スルノ必要アルトキハ其ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第七條 鄰接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

- 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
- 二 市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツルトキ
- 三 社寺土地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ
- 四 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フトキ
- 五 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フトキ

三十二年勅令第三百六十六號
第十條ノ施行細則
第十條ノ施行細則
第十條ノ施行細則
第十條ノ施行細則

六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ

七 此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂フトキ

第九條 國有林野ハ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其ノ價格及成功期限ヲ定メ隨意契約ヲ以テ賣拂ノ豫約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得

- 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
 - 二 牧畜又ハ植樹ノ爲必要アルトキ
 - 三 牛馬放牧ノ爲使用セシムルトキ
 - 四 第九條ニ依ル開墾者ノ爲ニスルトキ
 - 五 一箇年貸付料三百圓ヲ超エサルトキ
- 第十二條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ相當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徵收スヘシ但シ前條第一號及第四號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得
- 第十三條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス
- 一 植樹ノ場合ニ於テハ八十年
 - 二 家屋、倉庫其ノ他ノ建設物ノ場合ニ於テハ三十年

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年
前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第十四條 國土保安又ハ國有林野ノ經營上必要ナル場合ニ限り國有林野又ハ立木竹ト他ノ同價格以上
ノ土地、森林、原野又ハ立木竹ト交換スルコトヲ得

第十五條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り讓與スルコトヲ得

- 一 段別一町步以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地ニ供スルトキ
- 二 府縣郡市町村及其ノ他ノ公共團體ニ於テ道路、河川、港灣、水道、堤塘、溝渠、溜池、火葬場、
墓地、公園等公共ノ用ニ供スルトキ

第十六條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使用セサルトキ又ハ一旦
其ノ用途ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期間其ノ使用ヲ繼續セサルトキハ之ヲ返還セシ
ムルコトヲ得

前項ニ依リ林野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ林野ノ上ニ設定シタル第三者ノ權利ハ消滅ス

第十七條 社寺上地ノ森林ハ其社寺ニ保管セシムルコトヲ得

社寺ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主副產物ヲ採取スルコトヲ得

第十八條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託
スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得

委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 國ハ造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ契約ヲ以テ國有林野ニ部分林ヲ設クルコトヲ得
法令、慣行又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト看做ス

第二十條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ都合ニ均シキモノトス
部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國ノ所有トス

第二十一條 部分林ノ存續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス
前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十二條 民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木ニ適用セス

第二十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第二十四條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會ノ帝
國議會ニ報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年三月三十一日ノ現在ニ依ル

附則

第二十六條 此ノ法律ハ北海道及沖繩縣ニ施行セス

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●國有林野部分林規則明治三十二年八月
勅令第三百六十二號
朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ國有林野部分林規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野部分林規則

- 第一條 國有林野ニ部分林ヲ設定スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 部分林ノ收益分收ノ部合ハ地代及造林費ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム
造林者ノ分收部合ハ十分ノ八ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第三條 造林者ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス
- 第四條 造林者ハ部分林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲スヘシ
- 第五條 造林者ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ植樹ヲ終ルヘシ
大林區署長ハ已ムヲ得サル事由アリト認ムル場合ニ限り造林者ノ請求ニ依リ二年以内ニ於テ植樹期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得
- 第六條 造林者植樹準備又ハ手入ノ爲部分林ニ耕作ヲ爲サントスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 造林者ハ左ノ事項ニ關シ部分林ヲ保護スル義務ヲ負フ
 - 一 火災ノ豫防及消防
 - 二 盜伐、誤伐、冒認、侵墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止
 - 三 有害動物ノ豫防及驅除

- 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存
- 五 雜樹ノ保育
- 六 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト
- 第八條 造林者ハ左ノ產物ヲ採取スルコトヲ得
 - 一 下草、落葉及落枝
 - 二 樹實及菌蕈ノ類
 - 三 部分林設定後天然ニ生育シタル雜木
 - 四 植樹後二十年以内ニ於テ手入ノ爲伐採スル樹木
- 第九條 部分林設定後天然ニ生育シタル樹木ニシテ雜木ニ非サルモノハ之ヲ部分林ノ樹木ト看做ス
- 第十條 根株ハ特別ノ契約アル場合ヲ除ク外國ノ所有トス
- 第十一條 部分林ノ收益ハ其ノ樹木ノ賣拂代金ヲ以テ分收ス但シ國ノ分收スヘキ樹木ヲ保存スル必要アルトキハ材積ヲ以テ分收ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 代金ヲ以テ分收スルトキハ樹木ノ賣拂ハ當該官廳之ヲ行フ
材積ヲ以テ分收スルトキハ造林者ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ其ノ分收樹木ノ搬出ヲ終ルヘシ
- 前項ノ搬出期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス
大林區署長ハ已ムヲ得サル事由アリト認ムル場合ニ於テハ二年以内ヲ限り搬出期間ノ延長ヲ許可ス

ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ延長期間ニ對スル地代ヲ前納セシムヘシ

第十三條 造林者搬出期間内ニ分收樹木ノ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ搬出セサル樹木ハ國ノ所有ニ歸ス

第十四條 大林區署長ハ森林經濟上利益ナリト認ムル場合ニ限り造林者ノ請求ニ因リ十年以内ニ於テ部分林ノ存續期間又ハ伐期ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 部分林ニ損害ヲ加ヘタル第三者ヨリ賠償トシテ得タル金額ハ分收部合ニ依リ之ヲ分收ス

第十六條 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因リ契約無効ト爲リタル場合ニ於テハ現存ノ樹木ハ分收部合ニ依リ之ヲ分收ス已ムヲ得サル事由ニ因リ造林者契約ノ解除ヲ願出テ之ヲ許可シタル場合亦同シ

第十七條 造林者左ノ諸項ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ部分林設定契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ造林者ノ責ニ歸スヘカラサル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 植樹期間ノ始期ヨリ一年ヲ經過スルモ植樹ニ著手セサルトキ

二 植樹期間内ニ植樹シタル面積カ總面積ノ二分ノ一ニ及ハサルトキ

三 植樹期間延長ノ許可ヲ得タル場合ニ於テ其ノ期間内ニ植樹ヲ終ラサルトキ

四 植樹ヲ終リタル後五年ヲ過クルモ成林ノ見込ナキトキ

五 造林者其ノ部分林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

第十八條 前條ノ規定ニ依リ部分林設定契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ部分林設定ノ日ニ遡リ地代ヲ徵收シ既植ノ樹木ハ國ノ所有ニ歸ス

第十九條 造林者部分林ヲ他ノ目的ニ使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス部分林ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

附則

第二十條 明治十一年^三内務省甲第四號布達部分木仕付條例ハ之ヲ廢止ス

第二十一條 第二條ノ規定ハ國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニハ之ヲ適用セス

第二十二條 國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニシテ存續期間ノ定ナキモノ又ハ其ノ期間本令施行ノ日ヨリ起算シテ八十年ヲ超ユルモノニ付テハ其ノ部分林ノ存續期間及伐期ハ現存スル樹木ノ年齢ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム

第二十三條 國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニシテ天然ニ生育シタル雜木ノ分收ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ雜木ハ部分林ノ樹木ト看做ス

●國有林野法施行規則^{三十二年八月}農商務省令第二十五號

國有林野法施行規則左ノ通定ム

國有林野法施行規則

第一章 社寺境内編入

第一條 社寺國有林野法第三條第三項ノ規定ニ依リ境内編入ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ之ニ實測圖ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ内務農商務兩大臣ニ差出スヘシ

第二條 地方長官願書ヲ受理シタルトキハ大林區署長ト協議シタル後實地調査ヲ爲シ其ノ意見書ヲ願書ニ添附スヘシ

第二章 境界査定

第十三類 國有林野法施行規則

第三條 國有林野ノ境界査定ヲ施行セントスルトキハ境界査定官吏ハ期日ヲ定メ少ナクモ其ノ期日ヨリ十五日前ニ査定ノ日時及場所ヲ鄰接地所有者ニ通告スヘシ但シ鄰接地所有者何時ニテモ立會ヲ爲スヘキコトヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニアラス

第四條 鄰接地所有者期日ニ立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ期日前境界査定官吏ニ其ノ事由ヲ申立テ延期ヲ出願スルコトヲ得

第五條 境界査定ヲ終ハリタルトキハ大林區署長又ハ「林野整理支局長」ハ直ニ其ノ旨ヲ鄰接地所有者ニ通告シ且所轄小林區署ニ査定圖ノ謄本ヲ送付スヘシ

第六條 通告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
鄰接地所有者ハ前項ノ謄本ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第七條 國有林野法第八條第四號ノ緣故者トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

- 一 部分林ニ在リテハ其ノ分收ノ權利ヲ有スル者
- 二 官地民木ノ森林ニ在リテハ其ノ樹木ノ所有者
- 三 府縣設置以前主產物ノ採收ヲ爲シタル慣行アリタル林野ニ在リテハ其ノ採收ヲ爲シタル者
- 四 府縣設置以前入會ノ慣行アリタル林野ニ在リテハ其ノ入會ヲ爲シタル市町村又ハ市町村内ノ一部
- 五 城趾ニ在リテハ其ノ舊藩主
- 六 神祠、佛堂、墓碑其ノ他ノ遺跡ノ存スル林野ニ在リテハ其ノ遺跡ニ緣故アル者
- 七 古記、社傳又ハ歴史ノ證スル所ニ依リ社寺ニ緣故アル林野ニ在リテハ其ノ社寺

第四章 賣拂豫約

第八條 國有林野法第九條ノ規定ニ依リ國有林野ノ賣拂豫約ヲ出願セントスル者ハ願書ニ事業方法書、收支豫算書及實測圖ヲ添附シテ之ヲ「林野整理支局長」ニ差出スヘシ

第九條 事業方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 實測面積
- 二 開墾ノ方法及順序
- 三 開墾豫定圖
- 四 開墾著手ノ時期
- 五 毎年開墾スヘキ豫定面積
- 六 成功期限

第十條 賣拂豫約ノ目的タル林野ノ面積ハ四百町歩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ林野ノ形狀又ハ開墾ノ計畫ニ依リ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニアラス

第十一條 成功期限ハ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 第九條第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ヲ「林野整理支局長」ニ差出スヘシ

第十三條 成功期限ノ延長ヲ許可シタルトキト雖通算シテ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 開墾者賣拂豫約ノ目的タル林野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ請書ヲ差出スヘシ

第十五條 開墾者ハ林野ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ境界標ヲ建設スヘシ

第十六條 開墾者ハ特別ノ契約アル場合ヲ除ク外賣拂豫約ノ當時其ノ林野ニ存スル產物ヲ處分シ又ハ使用スルコトヲ得ス

第十三類 國有林野法施行規則

第十七條 「林野整理支局長必要ト認ムルトキハ開墾事業ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十八條 開墾者ハ「林野整理支局長」ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ林野ヲ他人ニ貸付シ又ハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス

第十九條 相續ニ因リテ開墾者ノ權利ヲ取得シタル者ハ戶籍吏ノ證明書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ「林野整理支局長」ニ届出ツヘシ

第二十條 賣拂豫約ノ目的タル林野ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要アルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ開墾者ハ直接ノ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 開墾者本則若ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキ又ハ開墾事業成功ノ見込ナシト認ムルトキハ農商務大臣ハ賣拂豫約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス

第五章 貸付及使用

第二十二條 國有林野法第十一條ノ規定ニ依リ國有林野ノ貸付ヲ出願セントスル者ハ願書ニ實測圖ヲ添付シテ之ヲ大林區署長ニ差

出スヘシ

林野ニ立木竹アルトキハ其ノ種類及材積又ハ數量ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十三條 貸付料ハ年期貸ニ在リテハ其ノ年額、一時貸ニ在リテハ其ノ全額金十錢以上トス

第二十四條 貸付ノ許可アリタルトキハ契約擔任官吏ハ借受人ト共ニ貸借契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ

一時貸付又ハ十年ヲ超エサル年期貸付ニシテ其料金千圓ニ滿タサル場合ニ於テハ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得(三十五年農商務省令第二十四號)

第二十五條 契約書其ノ他契約ニ關スル書類ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ付箋ニ其旨ヲ記載シテ雙方契印スヘシ

第二十六條 借受人其ノ林野ヲ轉貸セントスルトキハ願書ヲ作り連署連印シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第二十七條 借受人契約期間滿了ノ時林野ヲ原狀ニ復スルコト能ハサルトキ又ハ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコト能ハサルト

キハ大林區署長ハ其ノ請求ニ因リ貸付料ヲ定メテ相當ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第二十八條 借受人林野ヲ原狀ニ復シ又ハ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ怠リタルトキハ大林區署長之ヲ執行シ借受人ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムヘシ

第二十九條 借受人本則又ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキハ大林區署長ハ林野ヲ返還セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貸付料ハ之ヲ還付セス

第三十條 借受人ノ家族、傭人又ハ代理人本則又ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキハ借受人其ノ責任ニ任ス

第三十一條 第十三條乃至第十五條、第十九條及第二十條ノ規定ハ林野ノ貸付ニ之ヲ準用ス

第三十二條 林野又ハ其ノ木竹ニ異狀ヲ生ジタルトキハ借受人ハ直ニ其ノ旨ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第三十三條 國有林野法第十一條ノ規定ニ依リ牛馬放牧ノ爲國有林野ノ使用ヲ出願セントスル者ハ願書ニ見取圖ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第三十四條 大林區署長必要ト認ムルトキハ使用ノ區域ヲ制限スルコトヲ得

第三十五條 第十五條、第十九條、第二十條、第二十四條乃至第二十六條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ林野ノ使用ニ之ヲ準用ス

第六章 交換

第三十六條 國有林野法第十四條ノ規定ニ依リ交換ヲ爲サントスルトキハ「林野整理支局長」ハ相手方ト立會テ以テ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一 交換地ノ實測面積及價格

二 產物ノ種類、材積又ハ數量及價格

三 第三者ノ權利ノ有無

第三十七條 「林野整理支局長」交換ヲ行ハントスルトキハ意見書ヲ作り之ニ調査書、實測圖及位置圖ヲ添附シテ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三十八條 第二十四條ノ規定ハ交換ニ之ヲ準用ス

第七章 讓與

第三十九條 國有林野法第十五條ノ規定ニ依リ國有林野ノ讓與ヲ出願セントスル者ハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ之ニ實測圖ヲ添附シテ大林區署長ニ差出スヘシ

第十三類 國有林野法施行規則

二〇七三

第四十條 讓與セントスル林野ノ使用ノ方法、始期又ハ繼續期間ヲ指定スル必要アルトキハ之ヲ讓與ノ許可書ニ記載スヘシ

第八章 保管

第四十一條 社寺國有林野法第十七條ノ規定ニ依リ其ノ土地ノ森林ノ保管ヲ出願セントスルトキハ願書ニ實測圖及保護方法書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十二條 社寺其ノ保管林ニ看守人ヲ置キタルトキ又ハ看守人ヲ變更シタルトキハ其ノ氏名、住所及年齢ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第四十三條 左ノ場合ニ於テハ社寺ハ直ニ大林區署長ニ届出ツヘシ

一 保管林又ハ其ノ木竹ニ異狀ヲ生シタルトキ

二 採取スヘキ主産物ノ搬出ヲ終ハリタルトキ

三 保管林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲シタルトキ

第四十四條 保管林ノ主産物ヲ採取スル場合ニ於テハ大林區署長ハ社寺ノ採取スヘキ産物、其ノ伐採ノ方法及搬出期間ヲ指定スヘシ

第四十五條 第十三條及第十四條ノ規定ハ林野ノ保管ニ之ヲ準用ス

第九章 委託

第四十六條 國有林野法第十八條ノ規定ニ依リ國有林野ノ委託ヲ受ケントスル者ハ願書ニ見取圖、保護方法書及規約書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十七條 規約書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 林野保護ニ關スル負擔方法

二 産物ノ採取及分配ノ方法

三 違約者、犯則者又ハ犯罪者ニ對スル處分方法

四 其ノ他必要ナル事項

第四十八條 大林區署長必要ト認ムルトキハ産物ノ採取人ニ入林鑑札ヲ交付スヘシ

第四十九條 受託者其ノ林野ノ管理者ヲ撰定シタルトキハ其ノ氏名、住所ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第五十條 受託者ニ讓與シタル産物ノ材積又ハ數量豫定額ニ達セザルトキト雖受託者ハ其ノ補足ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十一條 第十三條及第四十二條乃至第四十四條ノ規定ハ林野ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十章 部分林

第五十二條 國有林野法第十九條ノ規定ニ依リ部分林ノ設定ヲ出願セントスル者ハ願書ニ實測圖、造林豫定圖及造林設計書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第五十三條 造林者其ノ權利ヲ處分セントスルトキハ當事者願書ニ連署連印シ契約書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第五十四條 造林者左ノ事業ヲ爲サントスルトキハ其ノ方法ヲ記載シタル願書ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

一 手入間伐

二 防火線又ハ道路ノ廢置又ハ修繕

第五十五條 造林者規約書ヲ作リタルトキハ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

大林區署長必要ト認ムルトキハ造林者ヲシテ規約書ヲ作ラシムルコトヲ得

第五十六條 材積ヲ以テ分收ヲ爲ストキハ大林區署長ハ造林者ノ立會ヲ以テ其ノ分收スヘキ樹木ヲ指定スヘシ

第五十七條 第十四條、第十九條、第二十四條、第二十五條、第四十二條、第四十三條及第四十九條ノ規定ハ部分林ニ之ヲ準用ス

第五十八條 大林區署ニ部分林臺帳ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ登錄ス

一 部分林ノ所在、字及面積

二 造林者ノ氏名、住所

三 部分林設定ノ年月日、其ノ存續期間及伐期

四 收益分收ノ割合

五 樹木ノ種類及數

六 造林者ノ權利ノ處分及其ノ事由

第七 第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ノ變更又ハ消滅及其ノ事由

第五十九條 部分林設定契約ノ解除ヲ爲シタルトキ又ハ契約力消滅シタルトキハ大林區署長ハ登錄ヲ抹消スヘシ

第六十條 左ノ場合ニ於テハ造林者ハ直ニ大林區署長ニ届出ツヘシ

一 造林者其ノ氏名、住所ヲ變更シタルトキ

第十三類 國有林野法施行規則

二 造林者其ノ權利ヲ處分シタル事由カ消滅シタルトキ
 三 部分林ノ樹木ノ數ニ變更ナ生シタルトキ
 第六十一條 何人ト雖部分林一箇所ニ付手数料金十錢ヲ納付シテ部分林臺帳ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十一章 雜則

第六十二條 本則ノ規定ニ依リ差出スヘキ書類ニシテ書式ノ定アルモノハ其ノ書式ニ依リテ之ヲ作り差出人署名捺印スヘシ
 第六十三條 神社ノ出願ニ付テハ神職及氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代願書ニ連署連印スヘシ
 寺院ノ出願ニ付テハ住職及檀徒(檀徒ナキトキハ信徒)總代願書ニ連署連印シ之ニ管長ノ添書ヲ附スヘシ
 佛堂ノ出願ニ付テハ受持僧侶及信徒總代願書ニ連署連印スヘシ
 第六十四條 市町村ノ出願ニ付テハ願書ニ市町村會ノ決議書ノ謄本ヲ添附スヘシ
 前項ノ規定ハ市町村以外ノ公共團體ノ出願ニ之ヲ準用ス
 第六十五條 公用又ハ公益事業ノ爲出願スル場合ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニ關スルトキハ願書ニ其ノ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ
 第六十六條 出願人數人アルトキハ總代ヲ選定スヘシ
 願書ニハ總代署名捺印シ之ニ委任狀ヲ添附スヘシ
 第六十七條 本則ノ規定ニ依リ出願セントスル者國有林野ヲ測量スル必要アルトキハ其ノ事由ヲ申立テ大林區署長又ハ「林野整理支局長」ノ許可ヲ受クヘシ

附則

第六十八條 本則施行前ニ生シタル事項ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル
 本則施行前ヨリ存スル部分林ニ付テハ造林者及利害關係人ハ本則施行ノ日ヨリ一年以内ニ第五十八條ニ掲ケタル事項ノ登錄ヲ大林區署長ニ申請スヘシ
 (書式略之)

●國有林野委託規則明治三十二年八月 勅令第三百六十四號
 朕國有林野委託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野委託規則

- 第一條 市町村又ハ市町村内ノ一部ニ國有林野ノ保護ヲ委託スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 委託林野ノ區域ハ市町村ノ位置、緣故及其ノ地方ノ狀況ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム
- 第三條 委託林野ノ委託期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス
 前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得
- 第四條 受託者ハ委託林野ニ關シ左ノ義務ヲ負フ
 - 一 火災ノ豫防及消防
 - 二 盜伐、誤伐、冒認、侵墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止
 - 三 有害動物ノ豫防及驅除
 - 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存
 - 五 稚樹ノ保育
 - 六 大林區署長ノ命ニ依リ手入ヲ爲シ又ハ看守人ヲ配置スルコト
- 第五條 左ノ委託林野產物ハ之ヲ受託者ニ讓與スルコトヲ得
 - 一 末木、枝條及枯倒木
 - 二 手入ノ爲伐採スル樹木

三 自家用薪炭材
四 土地ノ資質ヲ爲ササル副産物

第六條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ委託ヲ解除スルコトヲ得

一 受託者第四條ノ義務ヲ怠リタルトキ

二 受託者其ノ委託林野ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

三 受託林野ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ

前項ノ規定ニ依リテ受託ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス

第七條 受託者タル市町村又ハ市町村ノ一部ノ住民委託林野ニ損害ヲ加ヘタルトキハ受託者ハ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

附則

第八條 本令施行前ニ副産物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

第九條 本令施行前ニ副産物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ハ其ノ採取者ノ出願ニ依リ委託林野ト爲スコトヲ得

● 國有林野及產物賣拂規則 三十二年八月 農商務省令第二十六號

國有林野及產物賣拂規則左ノ通相定ム

第一章 通則

第一條 國有林野及產物賣拂ノ競争契約(公賣)及隨意契約(特賣)ハ本則ニ依リ之ヲ行フ國有林野ノ賣拂豫約ニ基ク事業成功地ノ賣拂ニモ亦本則ノ規定ヲ適用ス(三十四年農商務省令第四號ヲ以テ條中改正)

第二條 賣拂物件ノ面積、材積、數量若ハ品質ニ錯誤アリ又其ノ物件ニ隠レタル瑕疵アルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第三條 立木竹ノ賣拂ハ特別ノ契約アルニアラサレハ其ノ根株ニ及ハサルモノトス

第四條 物件ノ公賣ニ加ハリ又ハ賣買契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ利付公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

入札保證金額ハ物件見積代金ノ百分ノ五以上、契約保證金額ハ代金ノ百分ノ十以上トシ其ノ都度之ヲ定ム

第五條 賣買契約ヲ結ハントスル者ハ契約保證金ト共ニ代金ノ全部又ハ一部ヲ納付スルコトヲ得

第六條 現金ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ之ヲ代金ニ充當ス但シ產物ノ年期賣拂ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第七條 公債證書ヲ以テ契約保證金ヲ納メタル場合ニ於テ買受人代金ヲ完納シタルトキハ保證金取扱官吏ハ公債證書ヲ其ノ買受人ニ還付スヘシ

買受人公債證書ノ還付ヲ受クルトキハ第二號書式ニ依リ預證書ニ領收ノ旨ヲ記入シ署名捺印シテ之ヲ保證金取扱官吏ニ差出スヘシ

第八條 買受人ハ物件引渡前ニ在リテハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ物件ニ關シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 契約書其ノ他契約ニ關スル書類ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ付箋ニ記載シ雙方契印スヘシ

第十條 入札人、落札人又ハ買受人ノ代理人ハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ當該官廳ニ差出スヘシ

第二章 競争契約

第十一條 公賣ヲ行ハントスルトキハ入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ニ揭示又ハ官報若ハ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

落札人契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ公賣ヲ行フトキハ前項ノ期間ハ之ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得

第十二條 公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 一 公賣物件ノ所在
- 二 公賣物件ノ賣拂番號、種類、面積、材積、數量
- 三 入札及開札ノ場所
- 四 入札及開札ノ年月日時
- 五 公賣物件ノ搬出期間

六 入札保證金額又ハ之ヲ定ムルノ準率

七 公賣物件ノ明細書、標本、契約書案等閲覧ノ場所

八 契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官、氏名

第十三條 公賣物件ノ豫定價格ハ之ヲ封書トシ入札函ニ入レ置クヘシ

第十四條 入札人ハ賣拂番號毎ニ第一號書式ニ依リ入札書ヲ作り入札保證金ヲ保證金取扱官吏ニ示シ封緘ノ上之ヲ差出シタル後其ノ入札書ヲ入札函ニ投入スヘシ

第十五條 保證金取扱官吏入札保證金ヲ受領シタルトキハ第二號書式ニ依リ預證書ヲ交付スヘシ

第十六條 入札函ハ入札締切時刻ニ之ヲ閉鎖スヘシ

入札函閉鎖ノ後ハ入札人其ノ入札ヲ取消スコトヲ得ス

第十七條 開札ハ契約擔任官吏入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

開札ヲ行フニハ入札書ト入札人トヲ照合シテ入札書ヲ開封シ賣拂番號、入札金額及氏名ヲ讀上ケ之ヲ筆記スヘシ

第十八條 入札人開札ニ立會ハサルトキハ其ノ入札ハ無効トス

第十九條 落札人定マリタルトキハ契約擔任官吏直チニ開札所ニ於テ其ノ氏名ヲ讀上ケヘシ

落札人ハ豫定價格以上ノ最高額入札トス其ノ最高額ハ每賣拂番號ノ合計額ニ依ル

第二十條 左ノ場合ニ於テハ入札ハ無効トス

一 賣拂番號、入札金額又ハ氏名ヲ認知シ難キトキ

二 捺印セサルトキ

三 入札保證金足ラサルトキ

第二十一條 入札金額豫定價格ニ違セサルトキハ契約擔任官吏開札所ニ於テ其ノ旨ヲ報告シ直チニ入札人ヲシテ再入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 豫定價格以上ノ最高額入札人二人以上アルトキハ契約擔任官吏ハ其ノ入札人ヲシテ直チニ増額ノ再入札ヲ爲サシムヘシ此ノ場合ニ於テハ入札保證金ノ増額ヲ爲スコトヲ要セス

前項入札人ノ全員カ再入札ヲ爲サ、ルトキ又ハ再入札ヲ爲シタル者ノ入札金額同額ナルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第二十三條 落札人契約ヲ結ハサルトキハ豫定價格以上ノ入札人中入札金額ニ應シテ遞次繰下ケ落札人ヲ定ムヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 落札人定マリタルトキハ保證金取扱官吏ハ直チニ契約保證金ヲ徴收スヘシ

保證金ヲ徴收シタルトキハ契約擔任官吏ハ落札人ト共ニ第三號書式ニ依リ賣買契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ

第二十五條 保證金取扱官吏ハ左ノ區別ニ從ヒ入札保證金ヲ入札人ニ還付スヘシ

一 公賣ヲ取消シタルトキハ入札人全員ノ入札保證金

二 豫定價格以上ノ入札人アリタルトキハ其ノ他ノ入札人ノ入札保證金

三 落札人契約ヲ結ヒタルトキハ豫定價格以上ノ入札人ノ入札保證金

第七條第二項ノ規定ハ入札保證金還付ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ入札保證金ハ之ヲ還付セス

一 入札人開札ニ立會ハサルトキ

二 第二十二條第二項又ハ第二十三條第二項ノ規定ニ依リテ抽籤ヲ爲スヘキ場合ニ於テ抽籤ヲ爲ス者ナキトキ

三 落札人契約ヲ結ハサルトキ

第二十七條 前條ノ規定ニ依リ入札保證金ヲ還付セサル場合ニ於テ公債證書ヲ以テ入札保證金ヲ納メタル者入札ノ日ノ翌日ヨリ起算シテ七日以内ニ保證金ト同額ノ現金ヲ當該官廳ニ差出シ公債證書ノ返還ヲ請求セサルトキハ當該官廳ハ其ノ公債證書ヲ賣却シ其ノ代金ヲ以テ保證金ニ充當シ剩餘アルトキハ之ヲ入札人ニ還付シ不足アルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第二十八條 契約擔任官吏ハ入札人ノ連合、不穩ノ舉動其ノ他ノ事由ニ依リ正當ニ公賣ヲ行フコト能ハスト認ムルトキハ開札前其ノ公賣ヲ取消スヘシ

第三章 隨意契約

第二十九條 特賣ヲ受ケントスル者ハ第四號乃至第七號書式ニ依リ願書ヲ作り之ヲ當該官廳ニ差出スヘシ

林野ノ特賣ヲ受ケントスルトキハ其ノ實測圖、建築又ハ土木工事ノ爲ニ用材ノ特賣ヲ受ケントスルトキハ其ノ工事ノ設計書ヲ前項ノ願書ニ添附スヘシ但シ急迫ノ事情アルトキ又ハ明治二十三年勅令第九十三號及明治三十二年勅令第三百六十三號第十三號ニ依リ特賣ノ場合ニ於テハ設計書ヲ省略スルコトヲ得(三十四年農商務省令第四號ヲ以テ條中追加)

第三十條 神社ノ出願ニ付テハ神職及氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代願書ニ連署連印スヘシ

第三十一條 市町村ノ出願ニ付テハ信託(檀徒)キトキハ信徒)總代願書ニ連署連印シ之ニ管長ノ添書ヲ附スヘシ

第三十二條 市町村以外ノ公共團體ノ出願ニ之ヲ準用ス

第三十三條 公用若ハ公益事業ノ爲メハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツル爲出願スル場合ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニ關スルトキハ願書ニ其ノ許可書ノ添付スヘシ

第三十四條 特賣ノ許可アリタルトキハ當該官廳ハ契約保證金ヲ徵收スヘシ但シ特賣物件ノ代金百圓ニ滿タサルトキハ賣拂豫約ニ基テ特賣ノ場合ニハ之ヲ徵收セザルコトヲ得(三十四年農商務省令)

第三十五條 特賣ノ許可アリタルトキハ契約擔任官吏ハ當該官廳ノ指定シタル期間内ニ買受人ト共ニ第三號書式ニ依リ賣買契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ(三十四年農商務省令)

第三十六條 特賣物件ノ代金五百圓ニ滿タサル場合ニ於テハ第八號書式ニ依リ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

第三十七條 特賣ノ許可ヲ受ケタル者カ當該官廳ノ指定シタル期間内ニ契約保證金ヲ納メサルトキハ特賣ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ違約金トシテ出願代金百分ノ十二ニ當タル金額ヲ徵收スヘシ但シ賣拂豫約ニ基テ特賣及不可抗力ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラス(三十四年農商務省令)

第三十八條 特賣ノ許可ヲ受ケタル者カ第三十四條ノ期間内ニ請書ヲ差出ササルカ又ハ契約保證金ヲ納メタルモ契約ヲ結ハサルトキハ特賣ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ契約保證金ハ之ヲ還付セス(同上)

第三十九條 前項ノ場合ニ於テ契約保證金ナキトキハ違約金トシテ出願代金百分ノ十二ニ當タル金額ヲ徵收スヘシ但シ賣拂豫約ニ基テ特賣及不可抗力ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十條 契約ヲ結ビタル後雖已ムコトヲ得サル事由アルトキハ當該官廳ハ買受人ノ請求ニ因リ其ノ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ契約保證金ハ之ヲ還付セス買受人既ニ代金ノ全部又ハ一部ヲ納メタルトキハ其ノ中ヨリ契約保證金ニ相當スル金額ヲ控除シ其ノ殘額ヲ還付スヘシ

第四十二條 第二十七條ノ規定ハ契約保證金ヲ還付セザル場合ニ之ヲ準用ス但シ七日ノ期間ハ其ノ契約ノ解除ヲ爲シタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第三十六條 特定ノ目的ヲ以テ特賣ヲ受ケタル者ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ目的以外ニ物件ヲ使用若ハ消費シ又ハ之ヲ轉賣、讓與若ハ交換スルコトヲ得ス

第三十七條 買受人カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ違約金トシテ賣拂代金ノ半額ニ相當スル金額ヲ徵收スヘシ

第四章 物件ノ引渡及搬出

第三十七條 物件ハ代金完納ノ後ニアラサレハ其ノ引渡ヲ爲サハルモノトス

第三十八條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ第九號書式ニ依リ領收證ヲ作り之ヲ當該官廳ニ差出スヘシ

第三十九條 物件ノ引渡ハ買受人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條 買受人物件ノ引渡ニ立會ハサルトキト雖當該官吏引渡ノ手續ヲ爲シタルトキハ物件ノ引渡アリタルモノト看做ス

第四十一條 產物ノ年額賣拂ノ場合ニ於テ主產物ノ引渡又ハ副產物ノ採取ハ各年度ノ代金完納ノ後ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十二條 買受人採取ノ許可ヲ得タルトキハ第十號書式ニ依リ請書ヲ作り之ヲ當該官廳ニ差出スヘシ

第四十三條 物件ノ搬出期間ハ特別ノ事情アル場合ヲ除ク外其ノ物件引渡又ハ採取許可ノ日ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十四條 買受人物件ノ搬出ヲ終ハリタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ當該官廳ニ届出ツヘシ

第四十五條 買受人契約ヲ以テ定メタル期間内ニ代金ヲ完納セザルトキハ契約ハ其ノ效力ヲ失フ但シ賣拂豫約ニ基テ特賣及不可抗力ニ因ル場合ハ此ノ限ニアラス(三十四年農商務省令)

第四十六條 前項ノ規定ニ依リテ契約其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ契約保證金ハ之ヲ還付セス

第四十七條 第二十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ七日ノ期間ハ代金完納期日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第四十八條 賣拂豫約ニ基テ特賣契約ノ期間内ニ代金ヲ完納セザルトキハ其ノ期滿了ノ日ヨリ違約金トシテ一日ニ付賣拂代金百分ノ一二ニ當タル金額ヲ徵收スヘシ(三十四年農商務省令)

第四十九條 賣受人契約ヲ以テ定メタル搬出期間内ニ物件ノ搬出ヲ終ハラサルトキハ其ノ期間ノ半ニ超エサル期間ヲ定メ搬出ノ延期ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ買受人ハ違約金トシテ左ノ金額ヲ納ムヘシ

一 賣拂代金百圓以上ナルトキハ一日ニ付其ノ千分ノ一

二 賣拂代金百圓未滿ナルトキハ一日ニ付金十錢

買受人契約ヲ以テ定メタル搬出期間ヲ過キテ延期ノ請求ヲ爲シタルトキハ其ノ間ノ日數ニ應ジ違約金トシテ前項ニ定メタル金額

ノ二倍ヲ納ムヘシ

前項ノ規定ハ買受人延期ノ請求ヲ爲サ、ル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 買受人前條ノ延期期間内ニ尙ホ物件ノ搬出ヲ終ラサルトキハ更ニ其ノ期間ノ半ニ超エサル期間ヲ定メ再延期ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ買受人ハ違約金トシテ前條第一項ニ定メタル金額ノ二倍ヲ納ムヘシ

前條第二項及第三項ノ規定ハ再延期ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 不可抗力ニ因リテ物件ヲ搬出スルコト能ハサル日及第四十八條ノ規定ニ依ル搬出中止ノ日ハ搬出期間ニ之ヲ算入セ

ス

第四十五條 左ノ場合ニ於テハ買受人ハ搬出セサル物件ヲ抛棄シタルモノト看做ス

一 買受人搬出期間經過ノ後三十日以内ニ延期又ハ再延期ノ請求ヲ爲サ、ルトキ

二 再延期期間内ニ物件ノ搬出ヲ終ハラサルトキ

第四十六條 買受人物件ノ搬出ヲ終ハラサル前ニ於テ之ヲ轉賣、讓與若ハ交換セントスルトキハ第十一號書式ニ依リ願書ヲ作リ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第四十七條 前條ノ規定ニ依リテ物件ノ一部ヲ轉賣、讓與若ハ交換シタル場合ニ於テ第四十二條及第四十三條ノ規定ニ依リ違約金

トシテ徵收スヘキ金額ハ搬出ヲ終ハラサル者各自ヨリ之ヲ徵收スヘシ

前項ノ金額ハ當初賣拂代金ノ總額ニ依リテ之ヲ算出スルモノトス

第四十八條 物件ノ搬出ニ當タリ買受人ニ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ當該官廳ハ其ノ物件ヲ差押ヘ又ハ搬出ノ中止ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ買受人ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 買受人ノ家族、傭人又ハ代理人物件ノ伐採、採取、蒐集、加工又ハ運搬ニ當タリ國有林野又ハ產物ニ損害ヲ與ヘタルトキハ買受人之ヲ賠償スヘシ

附則

第五十條

本則施行前ニ結ヒタル契約ニハ本則施行ノ後ト雖從前ノ規定ヲ適用ス

第五十一條 明治二十三年農商務省告示第四號林產物公賣規程及明治二十四年農商務省告示第八號官有森林原野及產物特賣規程ハ

本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(書式略之)(三十四年農商務省令第四號ヲ以テ第三第四號書式中改正)

●不要存置國有林野賣拂規則 三十二年八月 農商務省令第二十七號

不要存置國有林野賣拂規則左ノ通相定ム

不要存置國有林野賣拂規則

第一條 不要存置國有林野ノ賣拂ニハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外明治三十二年八月農商務省令第二十六號國有林野及產物賣拂規則ヲ適用ス

第二條 不要存置林野ヲ賣拂ハントスルトキハ左ノ事項ヲ其ノ林野ノ屬スル大小林區署、郡市役所及町村役場ニ揭示スヘシ(三十五年農商務省令第二十五號)

一 林野ノ所在、字及實測面積

二 產物ノ種類及材積又ハ數量

三 特賣願書差出ノ期間及場所

四 林野ニ附帶義務アルトキハ其ノ義務ノ要領

五 保安林ナルトキハ其ノ種類

六 其ノ他必要ト認ムル事項

第三條 特賣願書ノ差出期間ハ三十日以上六十日以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

賣拂ハントスル林野ニ付キ下戻ノ申請又ハ社寺境内編入ノ出願ヲ爲シタル者ハ前項ノ規定ニ依リ揭示シタル差出期間後ト雖其ノ不許可ノ處分ノ日ヨリ起算シ三十日以内ニ於テ特賣ヲ出願スルコトヲ得(三十二年農商務省令第二十七號)

第三條ノ二 左ノ不要存置林野ヲ賣拂ハントスルトキハ第二條ノ手續ニ依ラス直チニ各當事者ニ第二條各號ニ掲ケタル事項ヲ通告シテ特賣ヲ出願セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特賣願書ノ差出期間ハ二十日以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ(三十五年農商務省令第二十五號)

追加)

一 社寺上地ノ森林ニ在リテハ其社寺

二 部分林ニ在リテハ其ノ分收ノ權利ヲ有スル者

三 官地民木ノ森林ニ在リテハ其ノ樹木ノ所有者

- 四 國有林野法施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野ニ在リテハ其事業ヲ成功シタル者
- 五 公用又ハ公益事業ノ爲貸付シタル林野ニ在リテハ其ノ借地者
- 同一林野ニ對シニ以上ノ出願者アルトキハ農商務大臣ハ各出願者ニ對スル特賣ノ順位及區域ヲ定ム
- 第三條ノ三 前條ノ場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ直チニ第二條ニ依リ特賣ヲ行フヘシ
 - 一 願書ノ差出期間内ニ特賣ヲ出願スル者ナキトキ
 - 二 特賣ノ出願ヲ許可セザルトキ
 - 三 契約ノ解除ヲ爲シタルトキ
 - 四 契約ノ效力ヲ失ヒタルトキ
- 第三條ノ四 特賣ハ調査價格以上ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四條 林野ヲ買受ケタル者ハ其ノ林野ノ附帶義務ヲ承継スルモノトス
- 第五條 國有林野法第八條ニ掲ケタル事由ニ因リ特賣ヲ出願セントスル者ハ必ラス書留郵便ヲ以テ願書ヲ差出スヘシ
 揭示シタル期間内ニ揭示シタル場所ニ到著セザル願書ハ之ヲ受理セス
- 第六條 願書ニハ特賣ヲ受ケル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ但シ實測圖ハ之ヲ添附スルヲ要セス
 前項ノ事由ニ關スル證據書類アルトキハ其ノ書類ヲモ添附スヘシ
- 第七條 國有林野法第八條第二號及第三號ニ掲ケタル事由ニ因リ特賣ヲ出願セントスル者ハ其ノ願書ニ林野ノ保護及施業ノ方法書
 ヲ添附スヘシ
- 第八條 大林區署長必要ト認ムルトキハ出願者ニ質問シ又ハ其ノ出願ヲ命スヘシ(三十五年農商務省令第二)
 願書ニ不備又ハ誤謬ノ廉アルトキハ之ヲ訂正セシムヘシ
- 第九條 大林區署長特賣ノ事由ヲシテ認ムルトキ又ハ出願者正當ノ理由ヲクシテ前條ノ命令ニ應ヒザルトキハ其願書ヲ却下スヘシ(上同)
- 第十條 第二條ノ場合ニ於テ左ニ掲ケタル者ニハ他ノ出願者ニ先チテ特賣ヲ爲スコトヲ得(三十五年農商務省令第二)
 一 公用又ハ公益事業ノ爲出願スル者
- 二 社寺上地ノ森林ニ在リテハ其ノ社寺
- 三 國有林野法施行規則第七條ノ緣故アル林野ニ在リテハ其ノ緣故者

- 四 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル林野ニ在リテハ其ノ借地人
- 五 國有林野法施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野ニ在リテハ其ノ事業ヲ成功シタル者
- 六 市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツル爲ニスルモノハ其ノ林野ノ屬スル市町村又ハ公立小學校
 前項ニ掲ケタル者同一ノ林野ニ對シ特賣ヲ出願シタルトキハ農商務大臣各出願者ニ對スル特賣ノ順位及區域ヲ定ム
- 第十一條 前條第一項ニ掲ケタル者出願セス又ハ其ノ出願者ニ特賣ヲ許可セザル場合ニ於テ林野ノ屬セザル市町村又ハ公立小學校
 ノ基本財産ニ充ツル爲ニスル出願及國有林野法第八條第五號ノ出願共ニ調査價格以上ニシテ競合スルトキハ出願代金ノ額ニ依リ
 テ特賣ノ順位ヲ定ム(三十五年農商務省令第二)
 第十一條ノ二 特賣ノ許可ヲ受ケタル者カ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ契約保證金ヲ納メザルトキハ特賣ノ許可ハ其ノ效力ヲ
 失フ此ノ場合ニ於テハ違約金トシテ出願代金百分ノ十二當タル金額ヲ徵收スヘシ(三十三年農商務省令第十號ヲ以テ追加)
 第十一條ノ三 特賣ノ許可ヲ受ケタル者カ契約保證金ヲ納メタルモ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ契約ヲ結ハザルトキハ特賣ノ
 許可ハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ契約保證金ハ之ヲ還付セス(上同)
- 公債證書ヲ以テ契約保證金ヲ納メタル者カ更ニ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ保證金ト同額ノ現金ヲ差出シ公債證書ノ返還ヲ
 請求セザルトキハ其ノ公債證書ヲ賣却シ其ノ代金ヲ以テ保證金ニ充當シ剩餘アルトキハ之ヲ還付シ不足アルトキハ之ヲ追徴スヘシ
- 第十二條 第二條ノ場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公賣ヲ行フヘシ(三十五年農商務省令第二)
 一 願書ノ差出期間内ニ特賣ヲ出願スル者ナキトキ
- 二 特賣ノ出願ヲ許可セザルトキ
- 三 契約ノ解除ヲ爲シタルトキ
- 四 契約ノ效力ヲ失ヒタルトキ
- 第十三條 公賣ノ公告ニハ國有林野及產物賣拂規則第十二條ニ掲ケタル事項ノ外第二條第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載ス
 ヘシ
- 第十四條 (三十五年農商務省令第二)
 (二十五號ヲ以テ削除)

●國有林野及產物賣拂代金延納方明治三十二年九月勅令第三百八十四號
 朕國有林野及產物賣拂代金延納ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 國有林野又ハ其ノ產物ノ賣拂代金一口五百圓以上ナル場合ニ限り國債證券及地方債證券ヲ擔保トシテ提供セシメ一箇年以内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得但シ公共團體若ハ社寺ニ對シテハ二箇年以内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

●國有林野及產物賣拂代金延納規則明治三十二年十一月農商務省令第三十號
 國有林野及產物賣拂代金延納規則左ノ通相定ム

國有林野及產物賣拂代金延納規則
 第一條 國有林野又ハ其ノ產物賣拂代金ハ分割シテ之ヲ數回ニ納付セシムルコトヲ得
 第二條 隨意契約ニ依リ國有林野又ハ其ノ產物ノ賣拂ヲ爲ス場合ニ於テ代金ノ延納ヲ出願セントスル者ハ延納期間ヲ記載シタル願書ヲ特賣願書ニ添附スヘシ
 國有林野ノ賣拂ニハ特賣ノ揭示ニ延納ノ最長期間ヲ示スヘシ
 第三條 國有林野又ハ其ノ產物ノ公賣ヲ行フ場合ニ於テ賣拂代金ノ延納ヲ許可セントスルトキハ公賣ノ公告ニ其ノ最長期間ヲ示スヘシ
 第四條 賣拂代金延納ヲ許可シタルトキハ代金額ニ相當スル擔保ヲ徵收スヘシ此ノ場合ニ於テハ契約保證金トシテ徵收シタル公債證書ハ之ヲ擔保ニ充當ス
 擔保品ノ價格ハ時價ニ對シ一割ヲ減シテ算定スヘシ
 時價ノ低落ニ依リ擔保ノ不足ヲ生シタルトキハ前項ニ準シテ之ヲ追徵スヘシ
 第五條 擔保ヲ徵收シタルトキハ物件ノ引渡ヲ爲スヘシ
 第六條 第一條ノ場合ニ於テ賣拂代金ノ一部ヲ納付スルニ當タリ其ノ殘額ニ相當スル擔保ヲ納付シタルトキハ既納ノ擔保ハ之ヲ還

付スヘシ

●森林法明治三十年四月法律第四十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル森林法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 森林法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、國有林、部分林、公有林、社寺林及私有林ヲ謂フ
 第二條 原野山嶽其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ此ノ法律ヲ適用ス

第二章 營林ノ監督

第三條 公有林及社寺林ニシテ其ノ經濟ノ保續ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スヘシ
 第四條 私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スルコトヲ得
 第五條 前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得
 第六條 前條ノ造林ヲ怠ル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ豫メ其ノ箇所ヲ指定シ森林ノ開墾ヲ禁止スルコトヲ得

第三章 保安林

第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂壞崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所
- 二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
- 四 積雪、墜石ノ危険ヲ防止スルニ必要ナル箇所
- 五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所
- 六 魚附ニ必要ナル箇所
- 七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所
- 八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所
- 九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所

第九條 保安林ハ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

第十條 保安林ノ編入解除ハ府縣郡市町村其ノ他直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方

森林會ノ會議ニ付スヘシ

地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスルトキハ開會三十日以前ニ府縣公報ヲ以テ告示シ其ノ森林ノ所有者並大林區署土木監督署ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在市町村役場ニ掲示スヘシ

第十三條 保安林ニ編入ノ爲地方森林會ノ會議ニ付セムトスル森林ハ前條告示ノ日ヨリ決定ノ日マテ其ノ立木ノ伐採、土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十五條 府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ具申スヘシ

第十六條 保安林ノ編入解除ハ地方森林會ノ議決ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

第十七條 保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ通達スヘシ

第十八條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ前條ノ告示若ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放

牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其ノ森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ造林ヲ施行セス又ハ第二十二條ニ依リ指命シタル事項ヲ實施セサル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收スルコトヲ得

第二十五條 政府ニ於テ保安林ヲ買上ケムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 保安林ニ編入セラレタル爲損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其ノ伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限り補償ヲ求ムルコトヲ得但シ御料林、國有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限ニ在ラス

前項ノ損害ニシテ申請ニ係ルモノハ申請者之ヲ補償シ命令ニ係ルモノハ政府之ヲ補償ス但シ申請者ノ補償ニ係ルモノハ政府ニ於テ其ノ三分ノ一以内ヲ補助スルコトヲ得
損害ノ算定方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 第二十五條ノ買上價格又ハ前條ノ補償金額ニ付協議整ハサルトキハ地方森林會ヲシテ評決セシムヘシ若之ニ服セサル者ハ評決ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ裁判所ニ出訴スルコト

ヲ得

第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス

第二十九條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免ス

第三十條 從來ノ禁伐林、風致林又ハ伐木停止林ハ法律施行ノ日ヨリ保安林トシ其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四章 森林警察

第三十一條 伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林産物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ所轄警察署ニ届置クヘシ

警察署ハ他人ノ記號又ハ印章ニ類似スルモノノ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 伐木造材ヲ業トスル者ノ手帳帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察官吏ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十三條 森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得スシテ森林内ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十五條 森林ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ携帯スルコトヲ得ス

第三十六條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ虫害アルヲ發見シタル者及森林ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯サムトスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏、警察官吏又ハ郡市町村吏員ニ申告スヘシ

第五章 罰則

第三十七條 森林ニ於テ其ノ主副産物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ二圓以上贖額二倍以下ノ罰金又ハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其ノ主副産物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但シ罰金ハ贖額以下ニ下スコトヲ得ス

第三十八條 森林竊盜ニシテ左ニ記載シタル所爲アルトキハ二圓以上贖額二倍以下ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贖額以下ニ下スコトヲ得ス

- 一 根株ヲ毀壞若ハ隱蔽シテ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタルトキ
 - 二 贖物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ
 - 三 贖物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取精製若ハ石灰、煉化石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ
 - 四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲船舶ヲ使用シタルトキ
 - 五 保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ
 - 六 林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ
 - 七 三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ
 - 八 契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ
 - 九 差押ノ贖物ヲ隱匿若ハ消費シタルトキ
- 第三十九條 森林竊盜ノ贖物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ二圓以上贖額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贖額以下ニ下スコトヲ得ス
- 第四十條 他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主産物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス其ノ自己ノ森林ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四十二條 濫ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ經界ヲ表シタル物件ニ係ルトキハ刑法第四百二十條ヲ適用ス

第四十四條 立木、木材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若ハ消除シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第六條ノ許可ヲ得スシテ森林ヲ開墾シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

第四十六條 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其ノ伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第三十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 第三十一條ニ違背シタル者ハ五十錢以上ノ科料ニ處ス

第五十一條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用弗ス

第六章 雜則

第五十二條 此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切替畑及地目變換ヲ包含ス

第五十三條 森林竊盜ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦、樟腦油、餉其ノ他樹木ノ脂液及木炭ハ贓物ト見做ス

第五十四條 此ノ法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅意納處分法ニ依リ徵收スルコトヲ得

第五十五條 森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スルモノハ主務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命スルコトヲ得其ノ造林ヲ怠ル場合ニ於テハ第五條ノ規程ヲ適用ス

第五十六條 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其ノ造林シタル部分ニ限り翌年ヨリ二十五箇年以内地租及公課ヲ免スルコトヲ得

原野山嶽又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノハ前項ノ例ニ依ル

第五十七條 北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ就テハ保安林ニ關スル規程ニ限リ此ノ法律ヲ適用ス但シ保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

● 森林法施行細則 三十年十二月 農商務省令第十九號 森林法施行細則左ノ通相定ム

森林法施行細則

第一條 府縣知事ニ於テ公有林、社寺林及私有林ニ付森林法第三條、第四條及第五十五條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキハ處分ノ上農商務大臣ニ届出ヘシ(三十四年農商務省令第二號ヲ以テ本條改正)

府縣知事ニ於テ森林法第七條、第二十一條乃至第二十三條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキ及前項規定以外ノ森林ニ付第五十五條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキハ農商務大臣ニ具申シテ指揮ヲ請フヘシ

府縣知事森林法第五條、第二十四條及第五十五條ニ依リ政府ニ於テ造林執行ノ必要アルモノト認メタルトキハ實地調査ノ上別記様式ニ依リ造林事業豫算書ヲ調製シテ農商務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ費用ノ徵收若クハ部分林トナスニ付テノ意見ヲモ具申スヘシ

第二條 保安林編入ノ申請書又ハ官廳ノ通知書ニハ保安林編入調書及圖面ヲ添付スヘシ

保安林編入調書ノ様式ハ府縣知事ニ定ム

第三條 保安林解除ノ申請書又ハ官廳ノ通知書ニハ解除ヲ要スル理由ヲ記載スヘシ

但保安林幾部ノ解除ニ係ル場合ハ保安林ノ全部及解除スヘキ部分ヲ明示シタル圖面ヲ添付シ之ニ其解除スヘキ保安林ノ面積ヲ附記スヘシ

第三條ノ二 保安林解除ノ申請アリタルトキ又ハ編入ノ原因消滅シタリト認メタル場合ニ於テ更ニ他ノ原因ニ依リ保安林編入ノ申請アルカ又ハ編入ノ必要アリト認メタルトキハ府縣知事ハ同時ニ解除及編入チ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ(三十五年農商務省令第十八號ヲ以テ)

第四條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ若クハ保安林編入解除ニ就キ申請又ハ通知ヲ受ケタルモノニシテ其編入解除ニ就キ二府縣以上ノ利害ニ關係アルトキハ其旨ヲ關係府縣知事ニ通知スヘシ

第五條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ニ付地方森林會ノ答申書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ具シ關係書類ヲ添付シテ三十日以内ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第六條 農商務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ決定シタルトキハ其旨ヲ關係府縣知事ニ通達シ府縣知事ハ十日以内ニ府縣公報ヲ以テ其旨ヲ告示シ森林所在地ノ市町村役場ニ揭示シ且ツ其旨ヲ森林所有者ニ通達スヘシ但編入ニ付テハ保安林編入調書ノ中施業法要領ヲ通達書ニ添附スヘシ(三十四年農商務省令第二號ヲ以テ但書追加)

第七條 府縣知事ハ保安林ヲ買上クルノ必要アリト認ムルトキハ農商務大臣ノ指揮ヲ受ケ森林所有者ト協議シテ其實上價格ヲ定ム

第十三類 森林法施行細則

へシ

第八條 保安林ノ買上價格又ハ補償金額ニ付協議整ハサル場合ニ於テハ森林法第二十七條ニ依リ府縣知事ハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ附シ其評決シタル買上價格又ハ補償金額ヲ關係者ニ通達スヘシ

第九條 保安林損害ノ補償若クハ其補償ノ補助ヲ受ケントスル者ハ其金額ヲ定メ算定理由ヲ詳述シタル請求書ヲ府縣知事ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十條 森林法第三十一條ニ依ル届書ハ其記號ノ形狀並ニ印影ヲ添付シタル書面ヲ作業地營業地ノ所轄警察署ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察署ハ所管小林區署ニ通知スヘシ

第十一條 森林内ニ火入ヲ爲スノ許可ヲ得ントスル者ハ豫メ期日ヲ定メ森林官若クハ警察署ニ申出ツヘシ但火入ヲ爲サントスル森林ノ全部又ハ一部ヲ他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ證スル書面ヲ願書ニ添付スヘシ(三十四年農商務省令第二號ヲ以テ改正)

前項ノ場合ニ於テ火入ヲ許可シタルトキハ別記火入許可證ヲ交付スヘシ

(別記略ス)

第十二條 森林内火入ノ當日ハ火入者ニ於テ前條ノ火入許可證ヲ現場ニ携帯スヘシ

第十三條 森林内又ハ森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ火入期日前ニ火入箇所隣接地ノ所有者若クハ管理者ニ其旨ヲ通知スヘシ

第十四條 火入ノ場合ニ於テ他ニ延燒ノ虞アリト認メタルトキハ森林官又ハ警察官ハ其火入ヲ差止メ火入方法又ハ火入期日ヲ改メシメ若クハ相當ノ設備ヲ爲サシムヘシ

(別記略之)

●保安林ニ關スル規程ニ限リ森林法ヲ施行スヘキ島嶼指定明治三十年十一月勅令第四百四十四號

朕保安林ニ關スル規程ニ限リ森林法ヲ施行スヘキ島嶼指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

森林法第五十七條ニ依リ保安林ニ關スル規程ニ限リ森林法ヲ施行スヘキ島嶼左ノ通指定ス

東京府下

小笠原島 伊豆七島

長崎縣下

對馬國

島根縣下

隱岐國

鹿兒島縣下

大隅國大島郡

大島 德ノ島 喜界島 沖永良部島 與論島

薩摩國川邊郡

硫黃島 黒島 竹島 口之島 臥蛇島 平島 中之島 惡石島 諏訪ノ瀬島 寶島

●沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ保安林編入解除ニ關スル手續明治三十年十二月勅令第四百四十五號

朕沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ保安林編入解除ニ關スル手續ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ保安林編入解除ニ關スル手續

第一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メタルトキハ編入解除ニ關スル調書ヲ調製

シ之ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第十三類

保安林ニ關スル規程ニ限リ森林法ヲ施行スヘキ島嶼指定 沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ保安林編入解除ニ關スル手續

第二條 保安林ノ編入解除ハ直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得
府縣知事ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ具申
スヘシ

第三條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ府縣知事ヲ經
テ意見書ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ得

第四條 保安林ノ編入解除ハ農商務大臣之ヲ決定ス

第五條 保安林ノ編入解除ハ官報府縣公報其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ
通達スヘシ

●北海道保安林編入解除手續明治三十年十二月
勅令第四百五十五號

朕北海道保安林編入解除手續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道保安林編入解除手續

第一條 北海道ニ於ケル保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 保安林ノ編入解除ニ關シテ直接ノ利害ヲ有スル者ハ其ノ編入解除ヲ道廳長官ニ申請スル
コトヲ得

第三條 前條ノ申請ハ其ノ所管道廳支廳長ヲ經由シテ之ヲ爲スヘシ
道廳支廳長ハ前項ノ申請ニ對シ自己ノ意見ヲ附シテ之ヲ道廳長官ニ具申スヘシ

第四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ道廳支廳長ヲ
經由テ意見書ヲ道廳長官ニ提出スルコトヲ得

第五條 保安林ノ編入解除ハ道廳長官之ヲ決定ス

第六條 保安林ノ編入解除ハ第二條ノ申請ナキトキト雖必要ト認ムルトキハ保安林ノ編入解除ヲ爲スコトヲ得

第七條 本令ノ施行ニ關スル細則ハ道廳令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第八條 本令ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

●社寺保管林規則明治三十二年八月
勅令第三百六十一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ社寺保管林規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

社寺保管林規則

第一條 社寺土地ノ森林保管ヲ其ノ社寺ノ願出ニ依リ許可スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 保管林ノ區域ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 保管林ノ保管期間ハ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第四條 社寺ニシテ保管林地ヲ使用セントスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ但シ祭典又ハ法用

ノ爲一時之ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラス

社寺ハ保管林地ノ使用ニ付林地ノ資質ヲ害シ又ハ風致ヲ損スルコトヲ得ス

第五條 社寺ハ保管林ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

- 一 火災ノ豫防及消防
- 二 盜伐、誤伐、冒認、侵墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止
- 三 有害動物ノ豫防及驅除
- 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存
- 五 稚樹ノ保育
- 六 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト
- 七 大林區署長ノ指定シタル方法ニ從ヒ保管林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲

スコト

第六條 社寺ハ伐採量ノ二分ノ一ニ相當スル主產物ヲ採取スルコトヲ得

根株ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ採取スルコトヲ得ス

第七條 社寺ハ林地ノ資質ヲ爲ササル副產物ヲ採取スルコトヲ得

第八條 社寺ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ其ノ採取產物ノ搬出ヲ終ルヘシ

前項ノ期間内ニ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ產物ヲ採取スル權利ヲ失フ

第九條 左ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ保管ヲ解除スルコトヲ得

一 社寺ノ管理者第四條ノ規定ニ違背シタルトキ

二 社寺ノ管理者第五條ノ義務ヲ怠リタルトキ

三 社寺ノ管理者其ノ保管林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

四 保管林ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ

前項ノ規定ニ依リテ保管ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス

第十條 社寺ノ管理者許可ヲ得スシテ保管林地ヲ使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス社寺ノ管

理者保管林ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

附則

第十一條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル上地官林ハ従前ノ例ニ例ル

第十二條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル上地官林ハ其ノ社寺ノ出願ニ依リ本令ニ定ムル保管林ト爲

スコトヲ得